

紀北町まちづくりに関するアンケート 調査結果報告書

令和3年3月

紀北町

目次

I. 調査の概要及び回答者の属性	1
1. 調査の概要	1
(1) 調査目的	1
(2) 調査概要及び回収率等	1
(3) 本調査結果報告書の留意点	1
2. 回答者の属性	2
(1) 住民アンケート調査	2
(2) 中学生アンケート調査	6
II. 住民アンケートの調査結果	7
1. 町の住みやすさについて	7
(1) 町の住みやすさ	7
(2) 町の魅力について	9
2. 定住意向について	11
(1) 今後の定住意向について	11
(2) 住みたくない理由について	13
3. 町の現状と今後の取り組みについて	15
(1) 町の各環境に対する満足度・重要度	15
(3) 今後のまちづくりの特色について	22
4. 分野別の取り組みについて	24
(1) 防災対策について	24
(2) 定住対策について	26
(3) 環境について	28
(4) 地域福祉について	31
(5) 観光・交流について	33
(6) 教育について	35
5. コミュニティ活動、参画・協働について	37
(1) コミュニティ活動等への参加状況と参加意向	37
(2) 今後（今後とも）参加したいコミュニティ活動等について	39
(3) 参加しない理由について	41
(4) 町民参画・協働のまちづくりに必要なこと	42
6. 日頃の行動などについて	44
(1) 生涯学習活動について	44
(2) スポーツ活動について	45
(3) 健康増進について	46
(4) 災害時の避難路・避難場所の認知度	47
(5) 防災対策の取り組み	48
(6) 福祉活動への参加について	49
(7) 地域とのつながりについて	50
(8) 自己幸福感について	51
(9) 「広報きほく」について	52

(10) 町のホームページについて	53
(11) 行政情報番組について	54
III. 中学生アンケート調査結果	55
1. 町について	55
(1) 紀北町が好きか	55
(2) 町の好きなところ	56
(3) 紀北町が好きでない理由	57
2. 今後のまちづくりについて	58
(1) 将来のまちの姿	58
(2) 町で自慢できること	59
(3) 将来、町に戻ってきたいか	60
IV. 調査結果の考察	61
1. 住民アンケートの調査について	61
(1) 回答者の属性について	61
(2) 町の住みやすさについて	61
(3) 定住意向について	61
(4) 町の現状と今後の取り組みについて	61
(5) 分野別の取り組みについて	62
(6) コミュニティ活動、参画・協働について	62
(7) 日頃の行動などについて	62
2. 中学生アンケート調査結果について	63
(1) 町について	63
(2) 今後のまちづくりについて	63
資料：調査票	65
1. 住民アンケート調査票	65
2. 中学生アンケート調査票	75

I. 調査の概要及び回答者の属性

1. 調査の概要

(1) 調査目的

本調査は、第2次紀北町総合計画後期基本計画及び第2次紀北町まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定に向け、今後の定住意向をはじめ、各分野の満足度・重要度、今後のまちづくりの方向、分野ごとの施策で期待することなど、住民の意識構造の実態把握を目的に実施しました。

(2) 調査概要及び回収率等

	住民アンケート調査	中学生アンケート調査
調査対象	16歳以上の町内に居住する男女	町内中学校に在籍する中学3年生
抽出法	無作為抽出（住民基本台帳より抽出）	悉皆調査（全数調査）
調査方法	郵送法（郵送による配布・回収）	留置法（学校を通じた配布・回収）
調査時期	令和2年10月	令和2年10月
配布数	2,000	112
有効回収数	933	107
有効回収率	46.7%	95.5%

(3) 本調査結果報告書の留意点

本報告書を理解する上で、次の点に留意する必要があります。

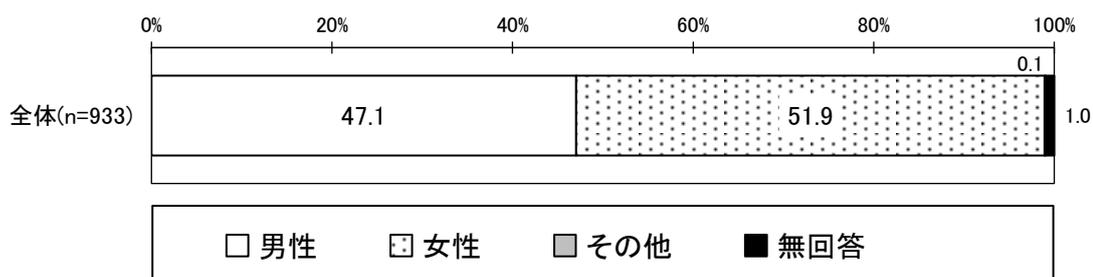
- 比率は百分率（%）で表し、小数点以下2位を四捨五入して算出しています。したがって、合計が100%を上下する場合があります。
- 基数となるべき実数は、“n=〇〇〇”として掲載し、各比率は回答数を100%として算出しています。
- 質問の終わりに【複数回答】とある問は、1人の回答者が複数の回答を出してもよい問のため、各回答の合計比率は100%を超える場合があります。
- グラフ中の選択肢の文言は一部簡略化しています。
- 問の中には「～に○をつけた方にうかがいます。」などいろいろな制限があり、また、回答者数が少なく、有意性の低いものも含まれます。
- 住民アンケート調査における「前回調査」とは平成28年1月に実施した「紀北町まちづくりアンケート調査」の結果となります。また、中学生アンケート調査における「前回調査」とは平成27年7月に実施した「紀北町の将来のまちづくりに向けた中学生アンケート調査」の結果となります。

2. 回答者の属性

(1) 住民アンケート調査

①性別

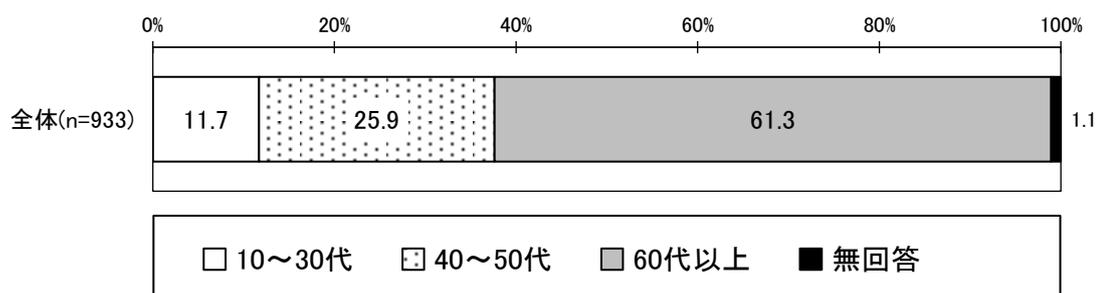
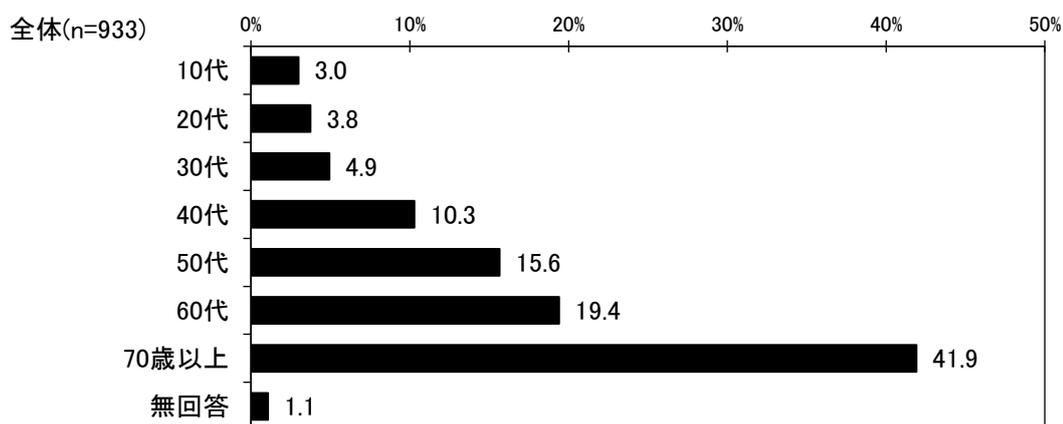
■回答者の性別は、「女性」が51.9%、「男性」が47.1%、「その他」が0.1%となっています。



②年齢

■回答者の年齢は、「70歳以上」が41.9%で最も多く、次いで「60代」(19.4%)、「50代」(15.6%)「40代」(10.3%)、「30代」(4.9%)、「20代」(3.8%)、「10代」(3.0%)の順となっています。

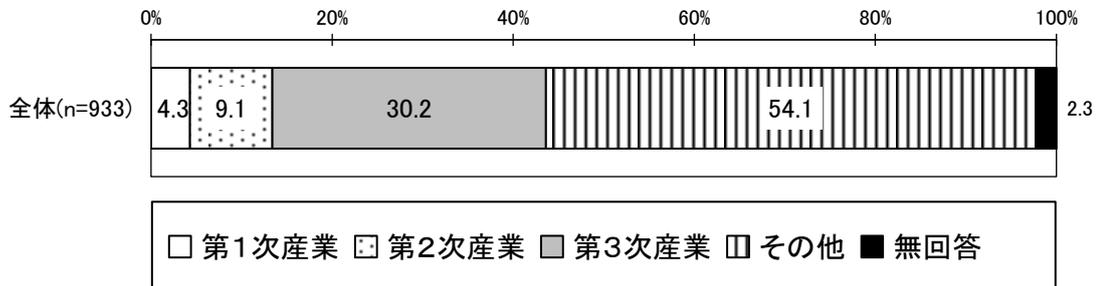
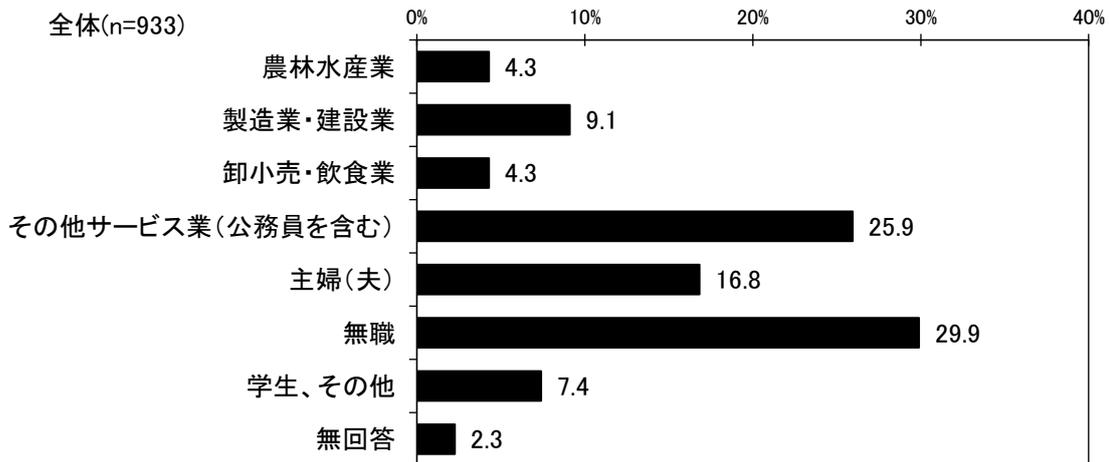
■年齢3区分で見ると「10~30代」が11.7%、「40~50代」が25.9%、「60代以上」が61.3%となっています。



③職業

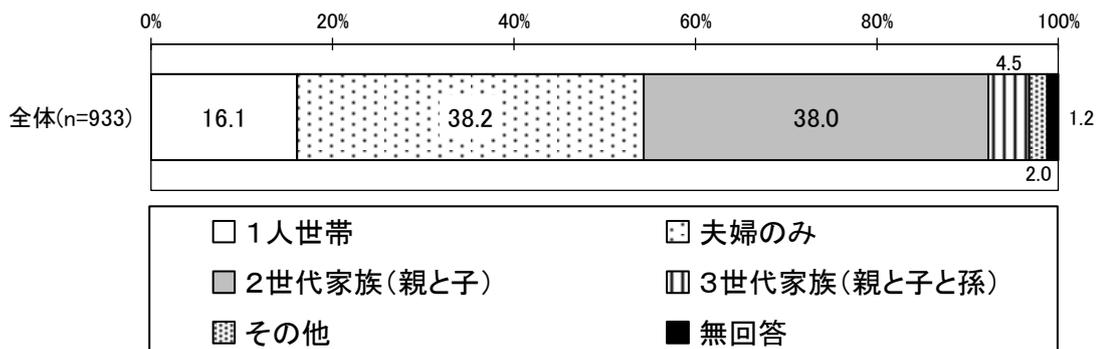
■回答者の職業は、「無職」が29.9%で最も多く、次いで「その他サービス業（公務員を含む）」（25.9%）、「主婦（夫）」（16.8%）、「製造業・建設業」（9.1%）、「学生、その他」（7.4%）、「農林水産業」及び「卸小売業・飲食業」（同率4.3%）の順となっています。

■産業分類で見ると「その他」が54.1%で最も多く、第3次産業が30.2%、第2次産業が9.1%、第1次産業が4.3%となっています。



④家族構成

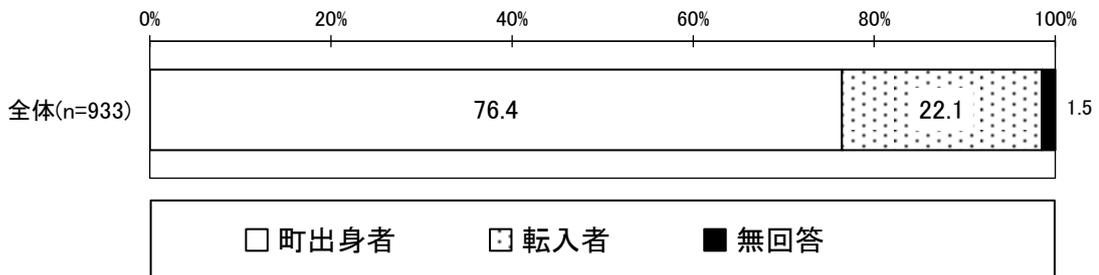
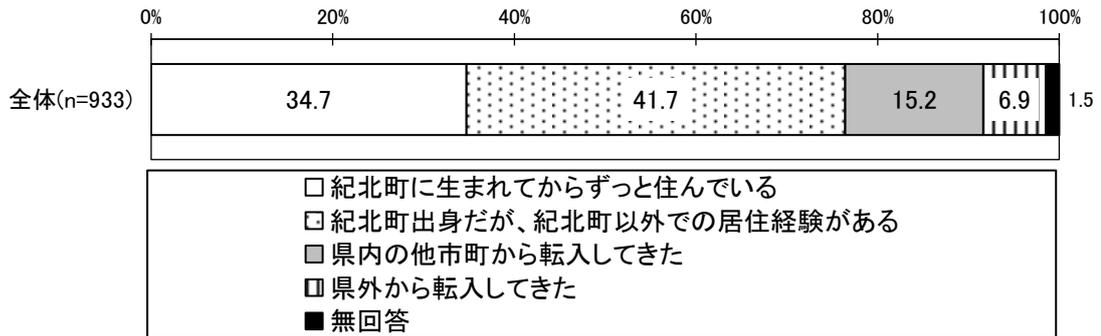
■回答者の家族構成は、「夫婦のみ」が38.2%で最も多く、次いで「2世代家族（親と子）」（38.0%）、「1人世帯」（16.1%）、「3世代家族（親と子と孫）」（4.5%）、「その他」（2.0%）となっています。



⑤居住歴

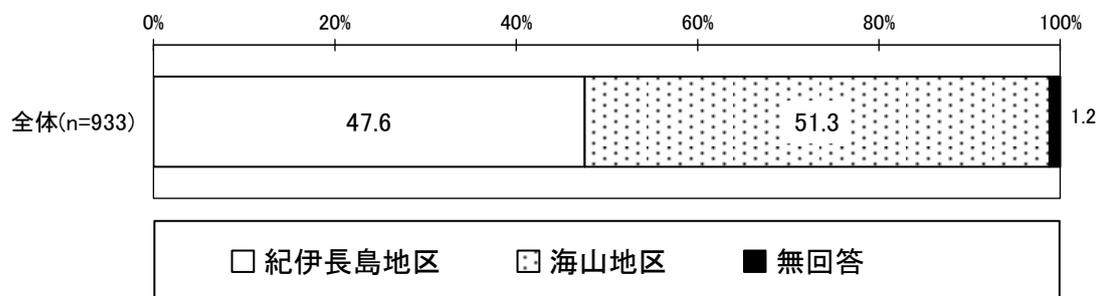
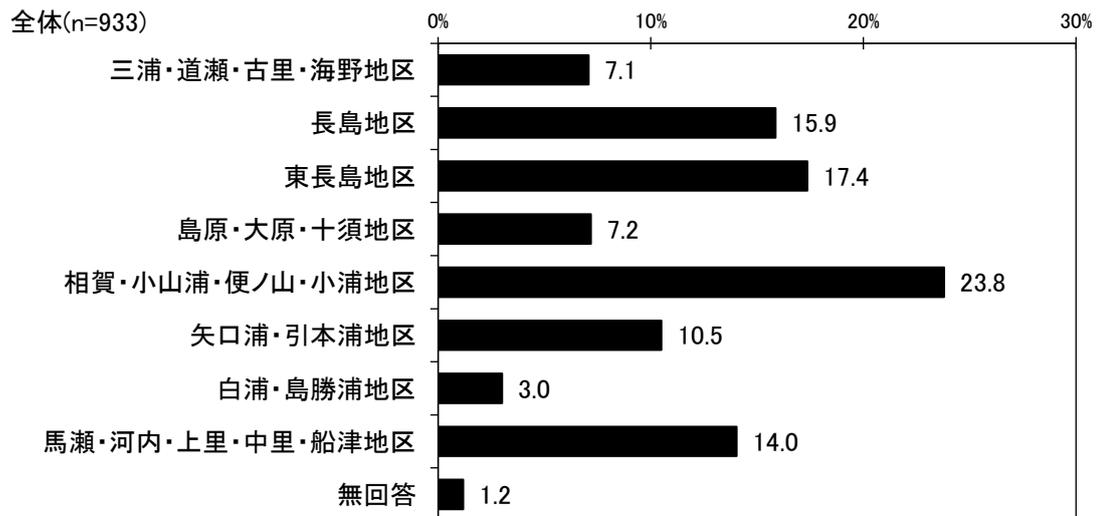
■回答者の居住歴は、「紀北町出身だが、紀北町以外での居住経験がある」が41.7%、で最も多く、次いで「紀北町に生まれてからずっと住んでいる」が34.7%、「県内の他市町から転入してきた」が15.2%、「県外から転入してきた」が6.9%となっています。

■『町出身者』（「生まれてからずっと住んでいる」及び「町出身だが、町以外での居住経験がある」）、『転入者』（「県内他市町から転入してきた」及び「県外から転入してきた」）に区分すると、『町出身者』が76.4%、『転入者』が22.1%となっています。



⑥居住地区

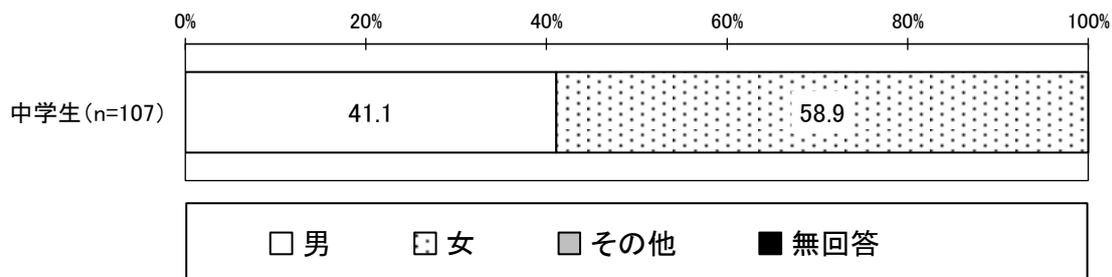
- 回答者の居住地区は、「相賀・小山浦・便ノ山・小浦地区」(23.8%) が最も多く、次いで「東長島地区」(17.4%)、「長島地区」(15.9%)、「馬瀬・河内・上里・中里・船津地区」(14.0%)、「矢口浦・引本浦地区」(10.5%)、「三浦・道瀬・古里・海野地区」(7.1%)、「島原・大原・十須地区」(7.2%)、「白浦・島勝浦地区」(3.0%) となっています。
- 「紀伊長島地区」が 47.6%、「海山地区」が 51.3% となっています。



(2) 中学生アンケート調査

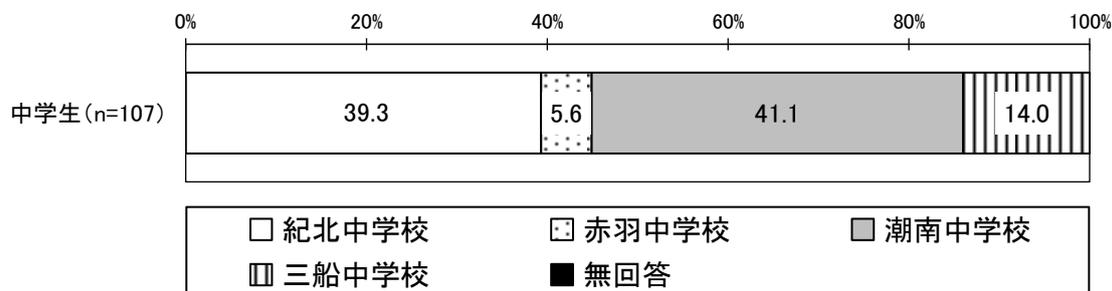
①性別

■回答者の性別は、「女」が58.9%「男」が41.1%、となっています。



②学校

■回答者の中学校は、「潮南中学校」(41.1%)で最も多く、次いで「紀北中学校」(39.3%)、「三船中学校」(14.0%)、「赤羽中学校」(5.6%)となっています。



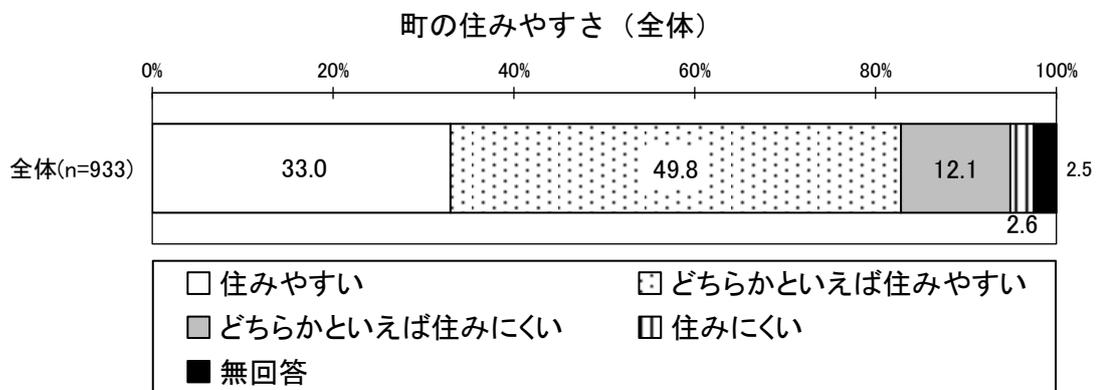
Ⅱ. 住民アンケートの調査結果

1. 町の住みやすさについて

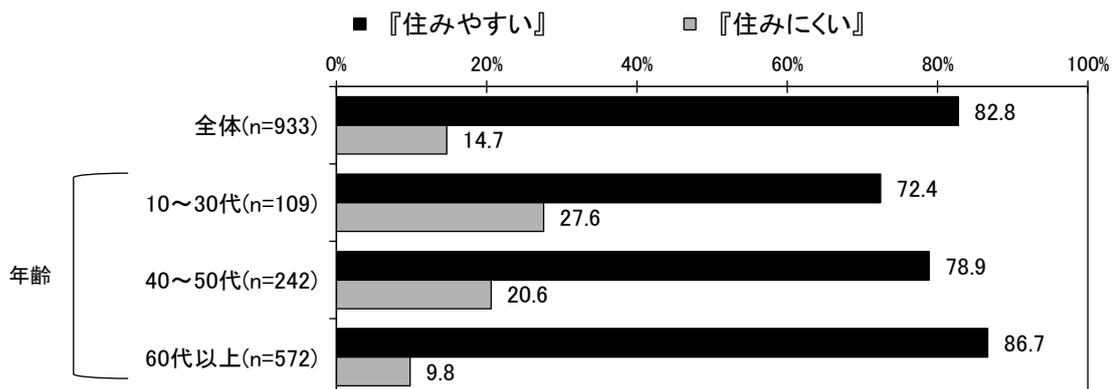
(1) 町の住みやすさ

問2 あなたにとって、紀北町は住みやすいまちですか。

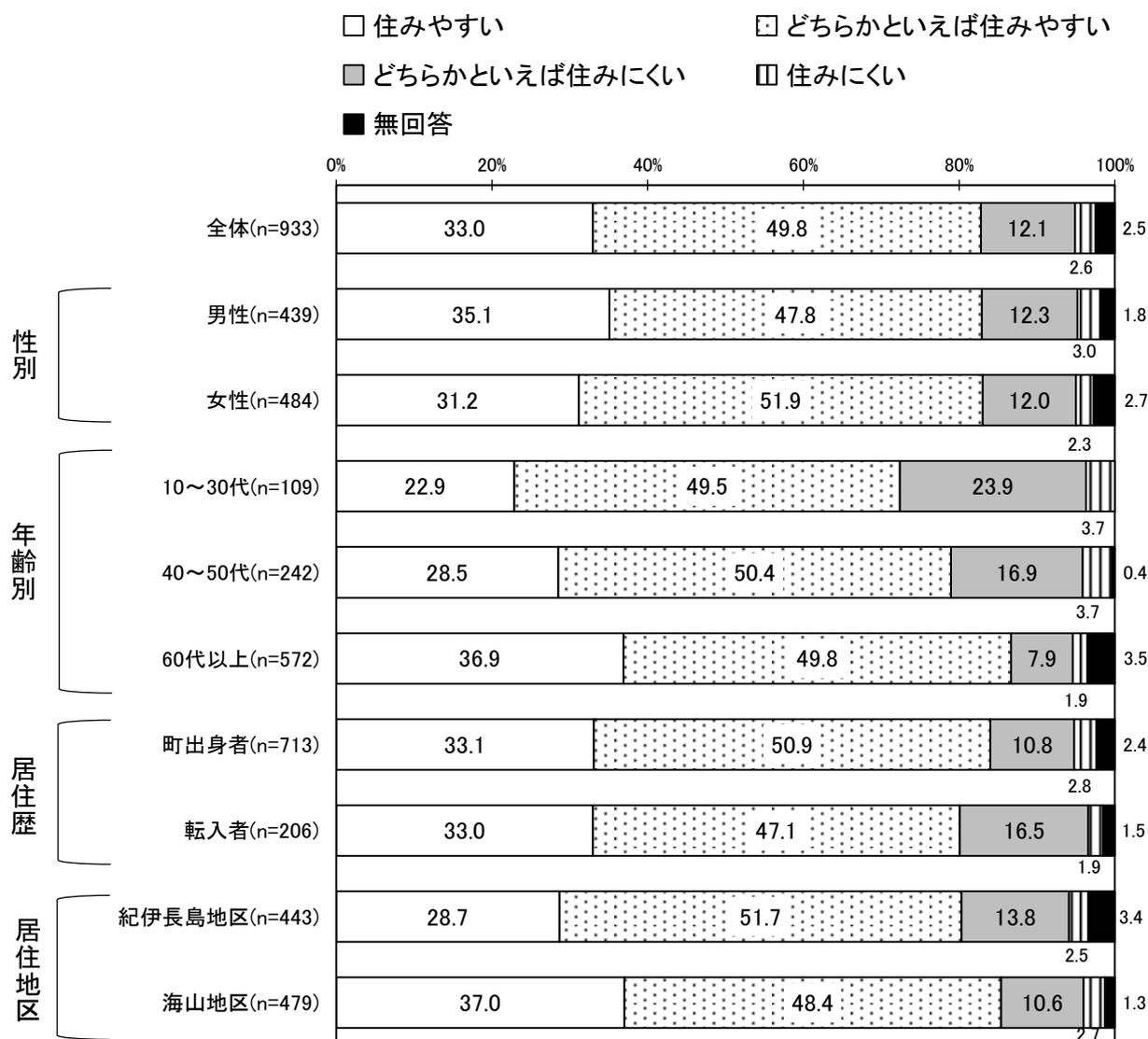
- 紀北町の住みやすさについては、「どちらかといえば住みやすい」が 49.8%と半数を占め、これに「住みやすい」をあわせた『住みやすい』が 82.8%となっています。一方、『住みにくい』（「どちらかといえば住みにくい」12.1%及び「住みにくい」2.6%の合計）は 14.7%にとどまり、『住みやすい』が『住みにくい』の 5.6 倍となっています。
- 『住みやすい』の割合をみていくと、性別では、男性で 82.9%、女性で 83.1%と男女ともに8割を超えます。
- 年齢では、10～30代で 72.4%、40～50代で 78.9%、60代以上で 86.7%と、年齢が上がるにつれて、『住みやすい』と回答する割合が増加しています。
- 居住歴では、町出身者（84.0%）が転入者（80.1%）を上回ります。
- 居住地区では、海山地区（85.4%）が紀伊長島地区（80.4%）を上回ります。
- 『住みにくい』は年齢別の10～30代で 27.6%と最も多くなっています。



町の住みやすさ（全体、年齢での『住みやすい』と『住みにくい』）



町の住みやすさ（全体、性別、年齢、居住歴、居住地区）



町の住みやすさ（全体、前回調査との比較）

（単位：％）

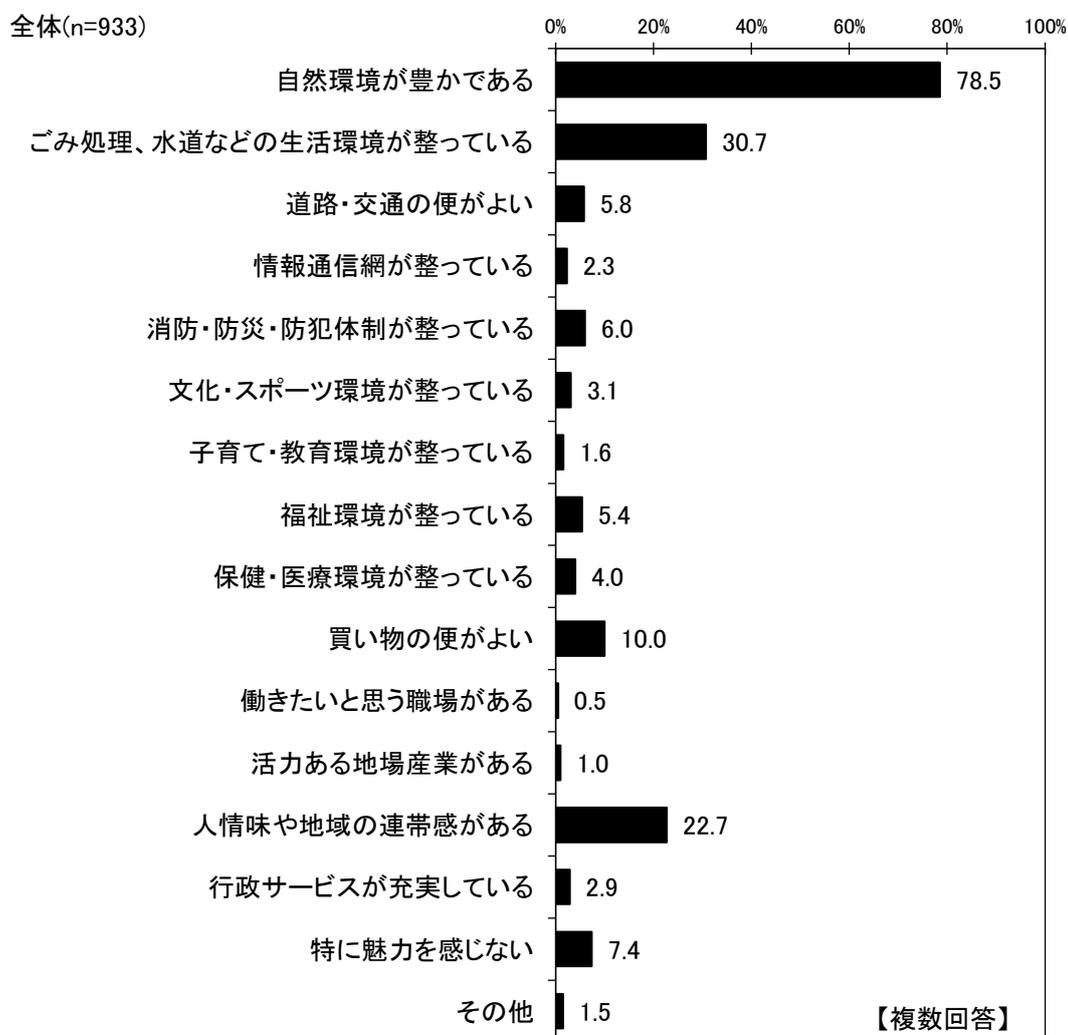
	『住みやすい』	『住みにくい』
今回（令和2年度）調査：全体（n=933）	82.8	14.7
前回（平成27年度）調査：全体（n=675）	60.1	17.9

(2) 町の魅力について

問3 あなたは、紀北町のどのようなところに魅力を感じていますか。【複数回答】

- 紀北町の魅力については、「自然環境が豊かである」(78.5%)が最も多く、次いで「ごみ処理、水道などの生活環境が整っている」(30.7%)、「人情味や地域の連帯感がある」(22.7%)が続き、これらが町の住みやすさにつながっていることがうかがえます。
- 性別、年齢、居住歴、居住地区でも、すべての層で「自然環境が豊かである」が第1位に挙げられています。

町の魅力について（全体／複数回答）



町の魅力について（全体、性別、年齢別、居住歴別／複数回答）

（上位3位、単位：％）

		n	第1位	第2位	第3位
全体		933	自然環境が豊かである 78.5	ごみ処理、水道などの 生活環境が整っている 30.7	人情味や地域の連帯感 がある 22.7
性別	男性	439	自然環境が豊かである 77.7	ごみ処理、水道などの 生活環境が整っている 30.8	人情味や地域の連帯感 がある 21.0
	女性	484	自然環境が豊かである 79.5	ごみ処理、水道などの 生活環境が整っている 30.6	人情味や地域の連帯感 がある 24.8
年齢別	10～30代	109	自然環境が豊かである 90.8	ごみ処理、水道などの 生活環境が整っている 23.9	人情味や地域の連帯感 がある 22.0
	40～50代	242	自然環境が豊かである 83.5	人情味や地域の連帯感 がある 19.4	ごみ処理、水道などの 生活環境が整っている 17.8
	60代以上	572	自然環境が豊かである 74.3	ごみ処理、水道などの 生活環境が整っている 37.2	人情味や地域の連帯感 がある 24.5
居住歴	町出身者	713	自然環境が豊かである 79.5	ごみ処理、水道などの 生活環境が整っている 30.6	人情味や地域の連帯感 がある 23.6
	転入者	206	自然環境が豊かである 75.7	ごみ処理、水道などの 生活環境が整っている 31.1	道路・交通の便がよい 7.3
居住地区	紀伊長島 地区	443	自然環境が豊かである 74.5	ごみ処理、水道などの 生活環境が整っている 24.4	人情味や地域の連帯感 がある 21.4
	海山地区	479	自然環境が豊かである 82.5	ごみ処理、水道などの 生活環境が整っている 36.3	人情味や地域の連帯感 がある 24.0

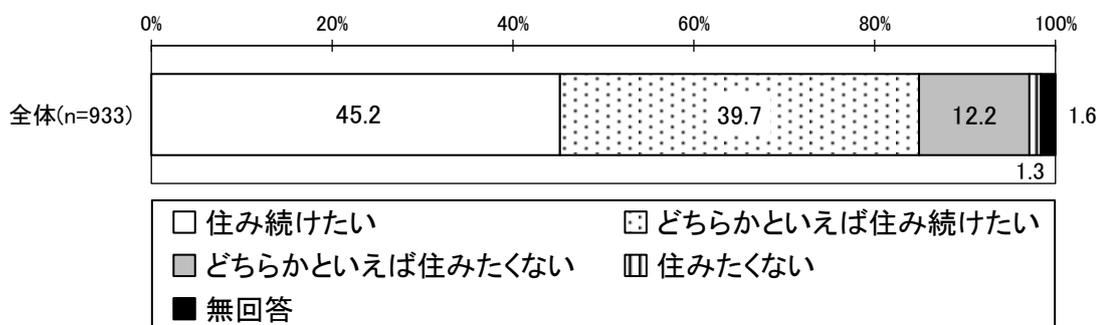
2. 定住意向について

(1) 今後の定住意向について

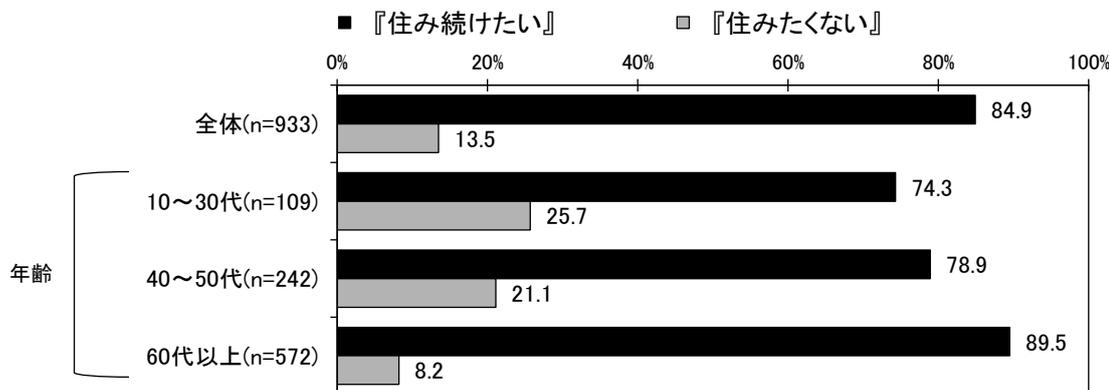
問4 あなたは、これからも紀北町に住み続けたいと思いますか。

- 紀北町の住みやすさについては、「住み続けたい」が45.2%で最も多く、これに「どちらかといえば住み続けたい」をあわせた『住み続けたい』が84.9%となっています。一方、『住みたくない』（「どちらかといえば住みたくない」12.2%及び「住みたくない」1.3%の合計）は13.5%にとどまり、『住み続けたい』が『住みたくない』の6.3倍となっています。
- 『住み続けたい』の割合をみていくと、性別では、男性で84.5%、女性で85.3%と男女ともに8割を超えます。
- 年齢では、10～30代で74.3%、40～50代で78.9%、60代以上で89.5%と、年齢が上がるにつれて、『住み続けたい』と回答する割合が増加しています。
- 居住歴では、町出身者（86.8%）が転入者（78.7%）を上回ります。
- 居住地区では、海山地区（82.1%）が紀伊長島地区（87.7%）を上回ります。
- 『住みたくない』は年齢別の10～30代で25.7%と最も多くなっています。

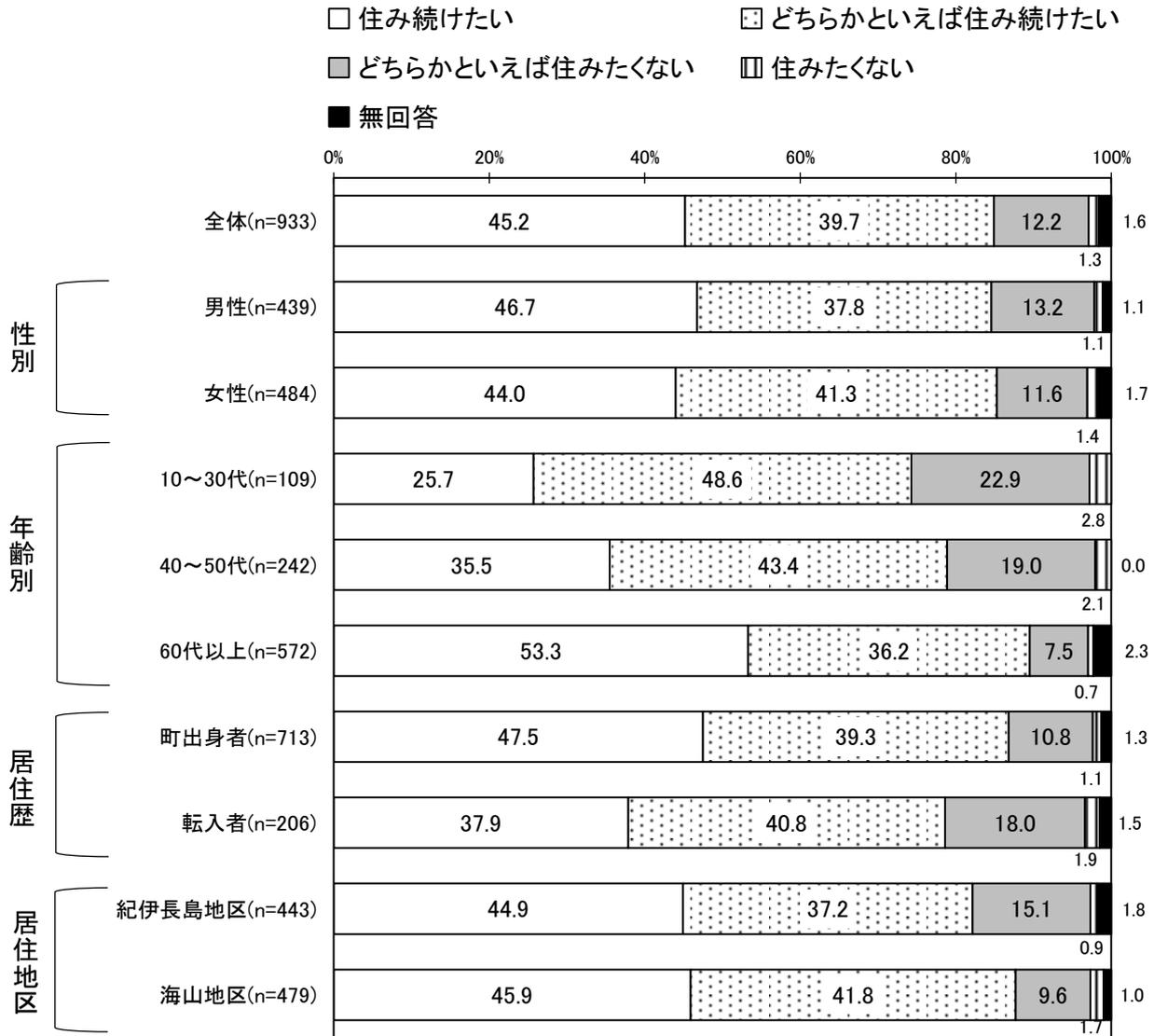
今後の定住意向（全体）



今後の定住意向（全体、年齢での『住み続けたい』と『住みたくない』）



今後の定住意向について（全体、性別、年齢、居住歴、居住地区）



今後の定住意向について（全体、前回調査との比較）

（単位：％）

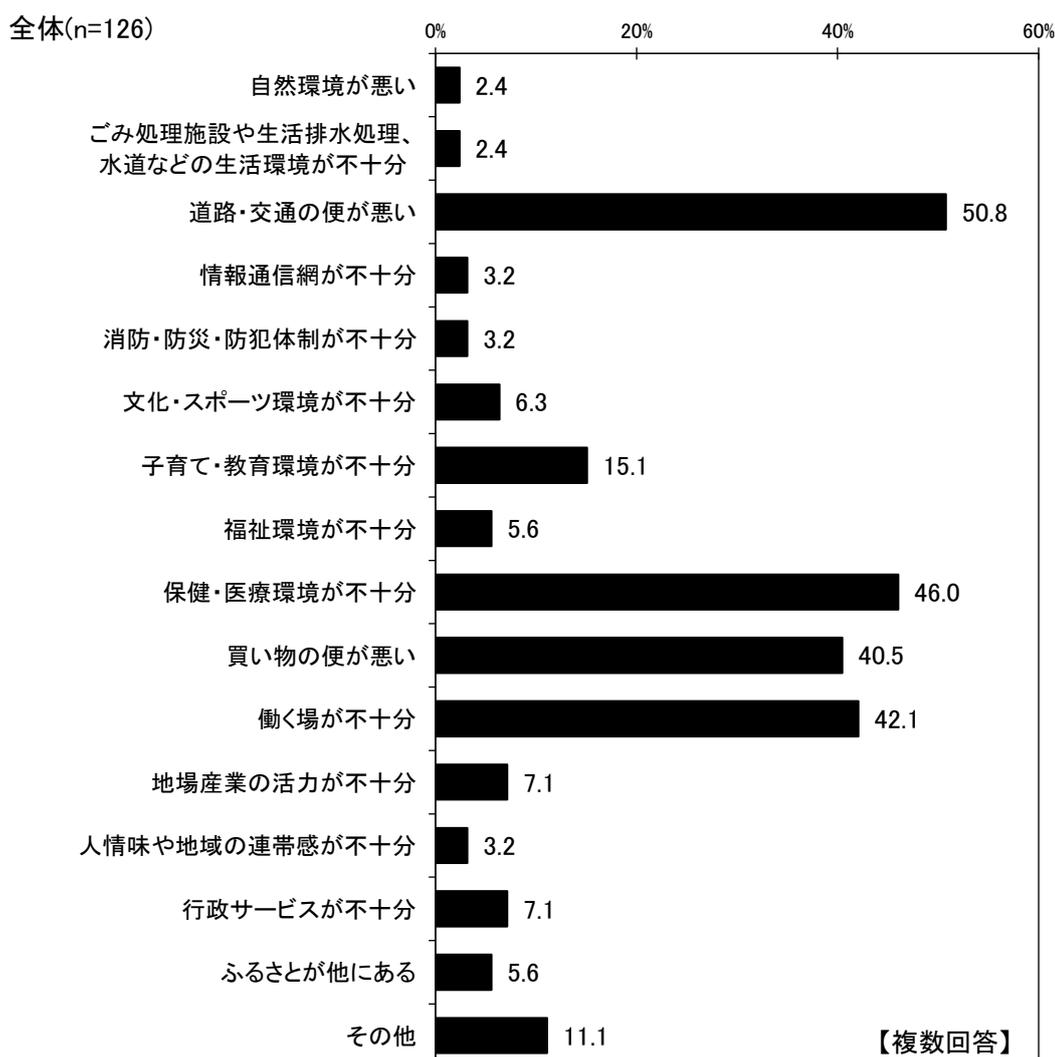
	『住み続けたい』	『住みたくない』
今回（令和2年度）調査：全体（n=933）	84.9	13.5
前回（平成27年度）調査：全体（n=675）	67.5	4.4

(2) 住みたくない理由について

問4で「3.」または「4.」に○をつけた方にかがいます。
 問4付問 その主な理由は何ですか。【複数回答】

- 住みたくない理由は、「道路・交通の便が悪い」が第1位に挙げられ、次いで「保健・医療環境が不十分」、「働く場が不十分」、「買い物の便が悪い」が続き、これらが他を引き離して、住みたくない理由の上位を占めています。
- 性別、年齢でみても、全体での上位項目が上位に挙げられ、年齢別の10～30代では「働く場が不十分」が57.1%と全体の回答割合を15ポイント上回ります。
- 居住歴でみると、町出身者では「働く場が不十分」、転入者では「道路・交通の便が悪い」が第1位となっています。
- 居住地区でみると、紀伊長島地区では「保健・医療環境が不十分」、海山地区では「道路・交通の便が悪い」が第1位となっています。

住みたくない理由について（全体／複数回答、『住みたくない』と回答した人のみ）



住みたくない理由について

(全体、性別、年齢、居住歴／複数回答、『住みたくない』と回答した人のみ)

(上位3位、単位：%)

		n	第1位	第2位	第3位
全体		126	道路・交通の便が悪い 50.8	保健・医療環境が不十分 46.0	働く場が不十分 42.1
性別	男性	63	道路・交通の便が悪い 50.8	働く場が不十分 44.4	買い物の便が悪い 41.3
	女性	63	保健・医療環境が不十分 52.4	道路・交通の便が悪い 50.8	買い物の便が悪い／働く場が不十分 39.7
年齢別	10～30代	28	働く場が不十分 57.1	道路・交通の便が悪い 53.6	買い物の便が悪い 42.9
	40～50代	51	道路・交通の便が悪い 52.9	保健・医療環境が不十分／働く場が不十分 51.0	
	60代以上	47	保健・医療環境が不十分 48.9	道路・交通の便が悪い 46.8	買い物の便が悪い 40.4
居住歴	町出身者	85	働く場が不十分 49.4	道路・交通の便が悪い 48.2	保健・医療環境が不十分 45.9
	転入者	41	道路・交通の便が悪い 56.1	保健・医療環境が不十分 46.3	買い物の便が悪い 39.0
居住地区	紀伊長島地区	71	保健・医療環境が不十分 57.7	道路・交通の便が悪い 43.7	働く場が不十分 42.3
	海山地区	54	道路・交通の便が悪い 61.1	買い物の便が悪い 42.6	働く場が不十分 40.7

3. 町の現状と今後の取り組みについて

(1) 町の各環境に対する満足度・重要度

問5 町の現状についての満足度と重要度をおたずねします。

- 町の現状についての満足度と重要度について、「1生活基盤分野」、「2保健・医療・福祉分野」、「3産業分野」、「4教育・文化・スポーツ分野」、「5住民参画・行財政分野」の5分野27項目について、5段階で評価した結果を下記の算出方法により点数化しました。
- 満足度が最も高い項目は「1-⑬自然環境の豊かさ」となっており、次いで「1-④ごみ処理の状況」、「1-⑤上水道の整備状況」、「1-⑦墓地・火葬場の状況」、「1-③騒音・振動等の状況」が続きます。
- 満足度が最も低い項目は「1-⑪公共交通の便利さ」となっており、次いで「1-①自然災害からの安全性」、「3-②就労環境」、「3-③観光・交流の状況」、「1-⑨公園・緑地等の状況」が続きます。
- 重要度が最も高い項目は「1-①自然災害からの安全性」となっており、次いで「1-⑬自然環境の豊かさ」、「2-①保健・医療の状況」、「3-①買い物の便利さ」、「2-②福祉の状況」が続きます。

満足度（全体／評価点、上位5位、下位5位）

順位	上位項目	評価点	順位	下位項目	評価点
1	1-⑬自然環境の豊かさ	4.21	1	1-⑪公共交通の便利さ	2.27
2	1-④ごみ処理の状況	4.04	2	1-①自然災害からの安全性	2.57
3	1-⑤上水道の整備状況	4.01	3	3-②就労環境	2.74
4	1-⑦墓地・火葬場の状況	3.69	4	3-③観光・交流の状況	2.93
5	1-③騒音・振動等の状況	3.67	5	1-⑨公園・緑地等の状況	2.95

※各項目の先頭にある番号（「1-〇」）は1が生活基盤分野、2が保健・医療・福祉分野、3が産業分野、4が教育・文化・スポーツ分野、5が住民参画・行財政分野を表します。

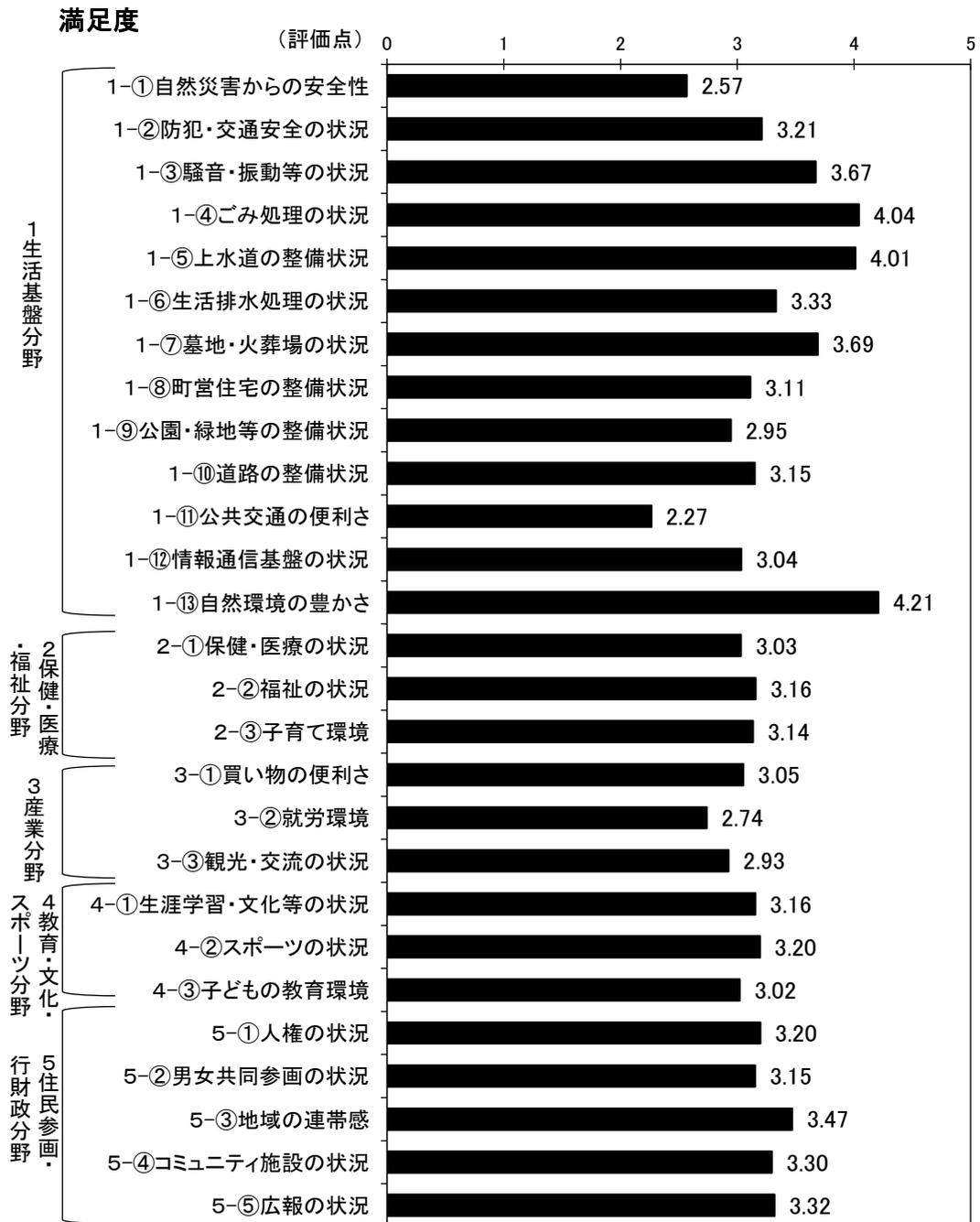
重要度（全体／評価点、上位10位）

順位	項目	評価点	順位	項目	評価点
1	1-①自然災害からの安全性	4.34	6	1-④ごみ処理の状況	3.95
2	1-⑬自然環境の豊かさ	4.14	7	1-⑤上水道の整備状況	3.89
3	2-①保健・医療の状況	4.11	8	1-②防犯・交通安全の状況	3.84
4	3-①買い物の便利さ	4.02	9	3-②就労環境	3.79
5	2-②福祉の状況	3.99	10	4-③子どもの教育環境	3.78

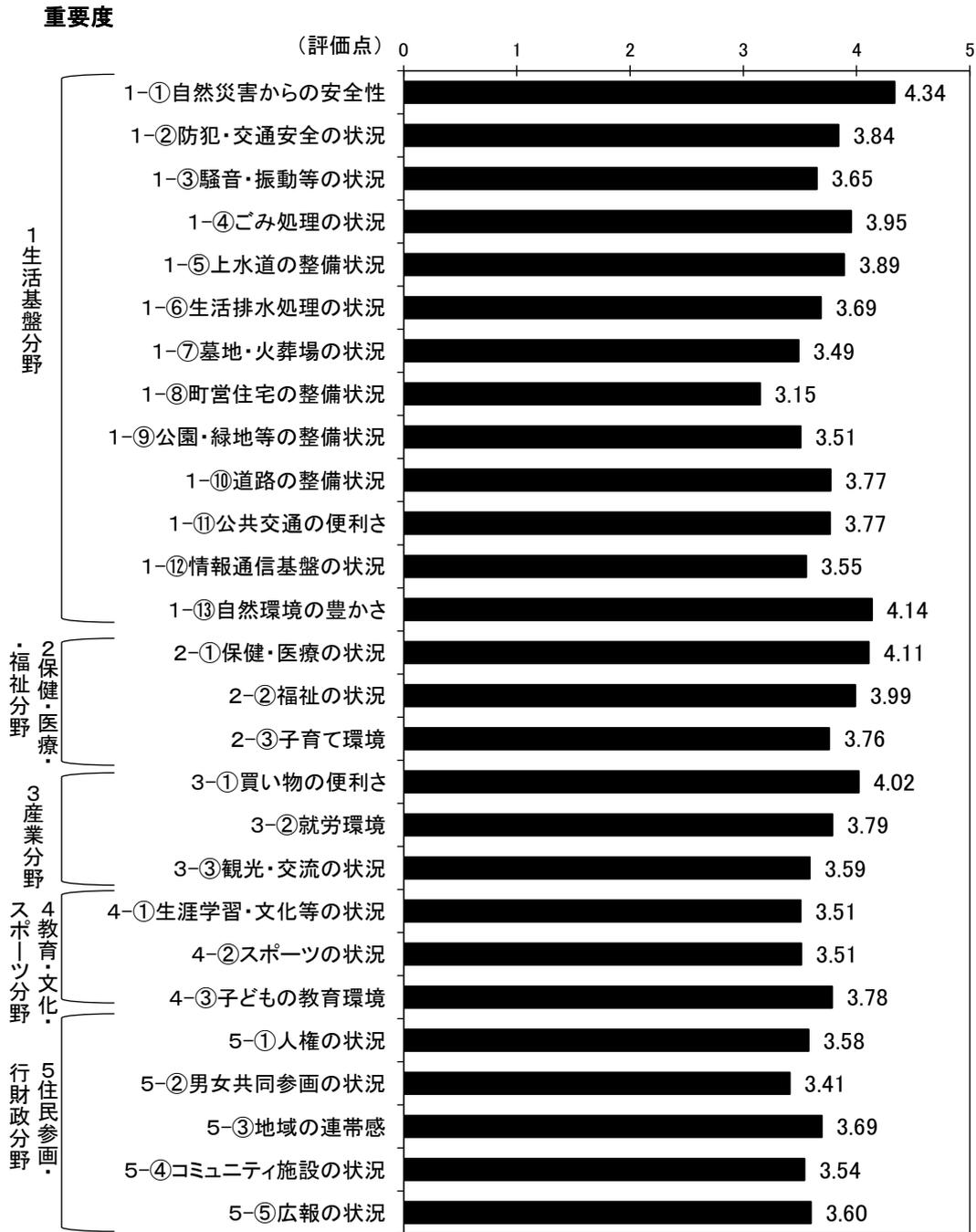
※評価点の算出方法（満足度の場合、重要度も同様）
5段階の評価にそれぞれ点数を与え、評価点を算出する。

$$\text{評価点} = \frac{\left(\begin{array}{l} \text{「満足している」の回答者数} \times 5 \text{点} + \text{「どちらかといえ} \\ \text{ば満足している」の回答者数} \times 4 \text{点} + \text{「どちらともいえ} \\ \text{ない」の回答者数} \times 3 \text{点} + \text{「どちらかといえ} \\ \text{ば不満である」の回答者数} \times 2 \text{点} + \text{「不満である」の回答者数} \times 1 \text{点} \end{array} \right)}{\left(\begin{array}{l} \text{「満足している」、「どちらかといえ} \\ \text{ば満足している」、「どちらともいえ} \\ \text{ない」、「どちらかといえ} \\ \text{ば不満である」、「不満である」の回答者数} \end{array} \right)}$$

満足度（全体／評価点）

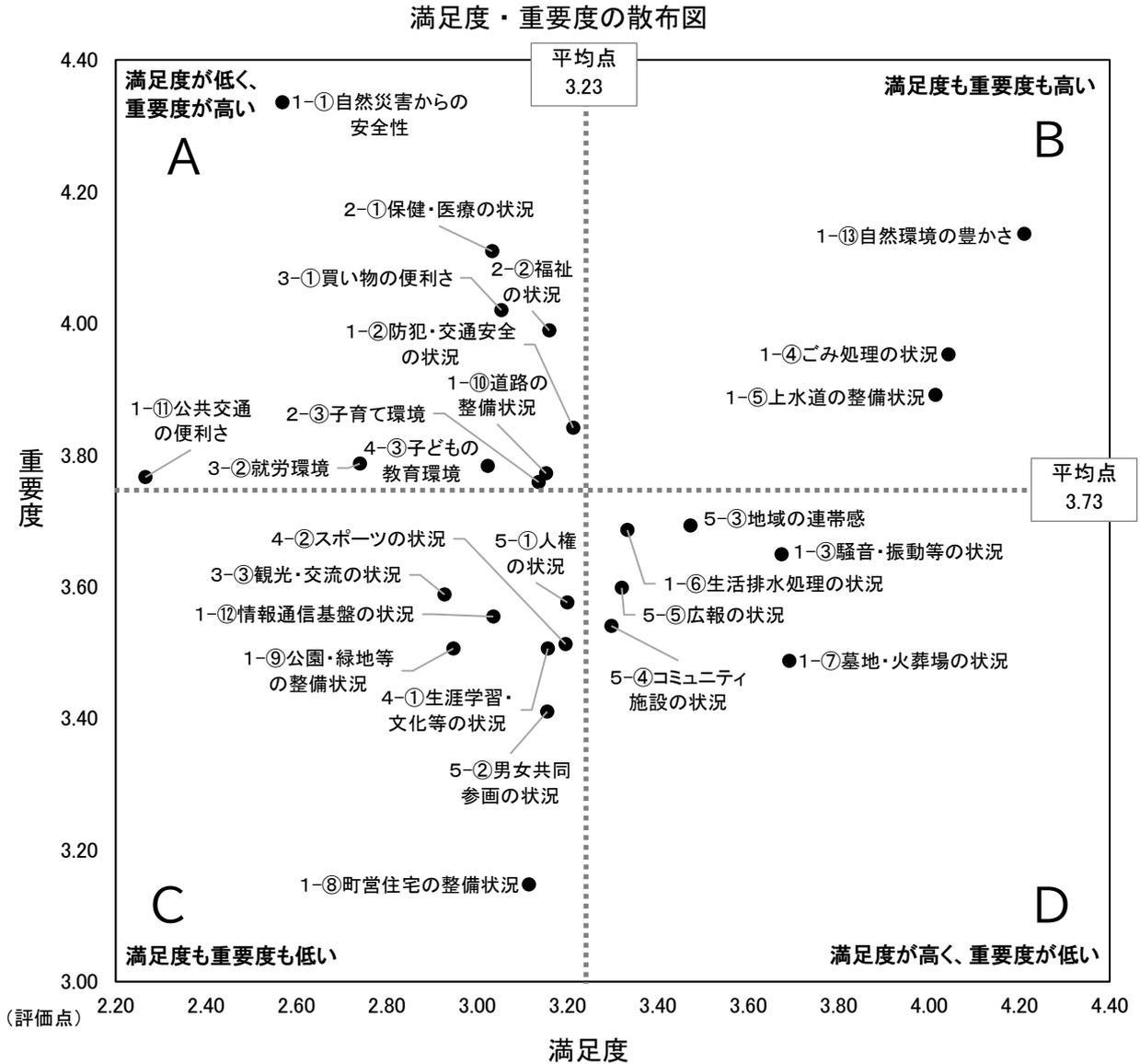


重要度（全体／評価点）



③満足度・重要度の散布図

■満足度と重要度の散布図を作成し、4つの領域に区分すると満足度が低く、重要度が高い『A』の領域に区分される項目は、「1-①自然災害からの安全性」、「2-①保健・医療の状況」、「3-①買い物の便利さ」、「2-②福祉の状況」、「1-②防犯・交通安全の状況」、「3-②就労環境」、「4-③子どもの教育環境」、「1-⑩道路の整備状況」、「1-⑪公共交通の便利さ」、「2-③子育て環境」となっており、主に安全・安心な暮らし、子育て・福祉、利便性の向上、働く場の確保などが優先して取り組む必要がある項目といえます。



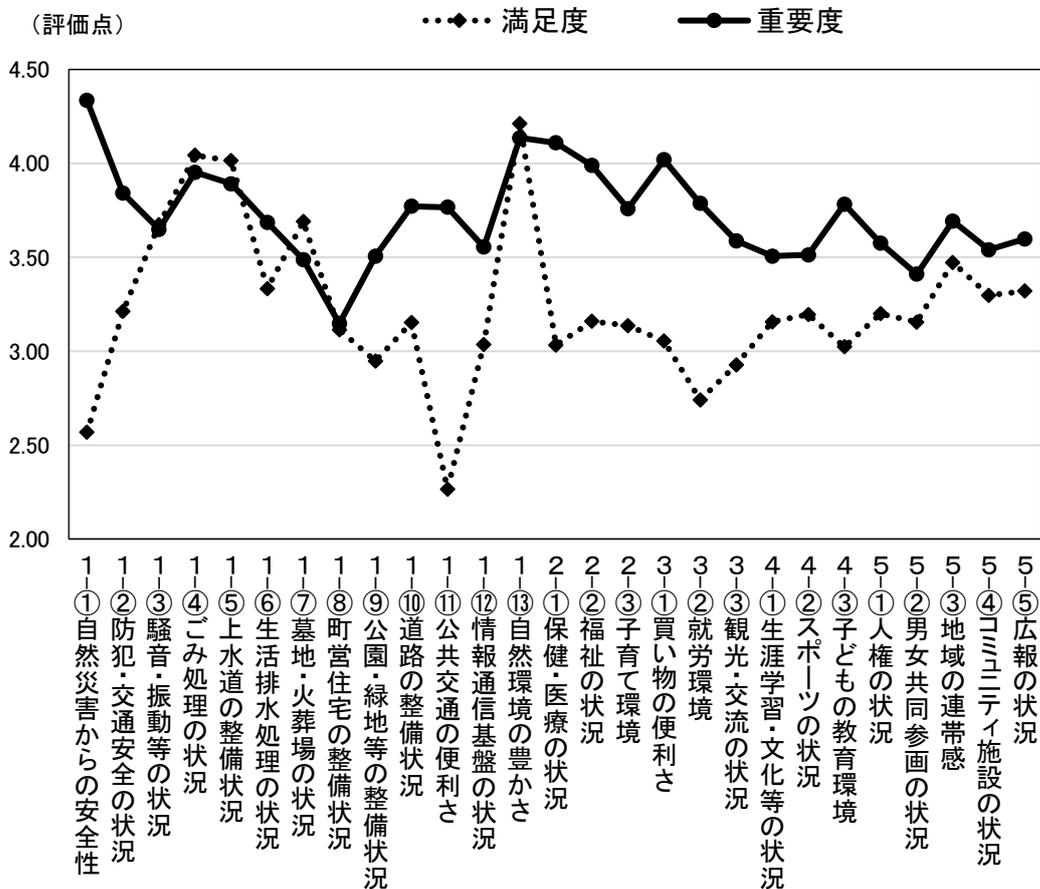
領域	A	B	C	D
項目	1-①自然災害からの安全性 2-①保健・医療の状況 3-①買い物の便利さ 2-②福祉の状況 1-②防犯・交通安全の状況 3-②就労環境 4-③子どもの教育環境 1-⑩道路の整備状況 1-⑪公共交通の便利さ 2-③子育て環境	1-⑬自然環境の豊かさ 1-④ごみ処理の状況 1-⑤上水道の整備状況	3-③観光・交流の状況 5-①人権の状況 1-⑫情報通信基盤の状況 4-②スポーツの状況 4-①生涯学習・文化等の状況 1-⑨公園・緑地等の整備状況 5-②男女共同参画の状況 1-⑧町営住宅の整備状況	5-③地域の連帯感 1-⑥生活排水処理の状況 1-③騒音・振動等の状況 5-⑤広報の状況 5-④コミュニティ施設の状況 1-⑦墓地・火葬場の状況

※重要度が高い順

④満足度と重要度の比較

■満足度と重要度を比較すると、「1-③騒音・振動等の状況」、「1-⑧町営住宅の整備状況」、「1-⑬自然環境の豊かさ」、「1-④ごみ処理の状況」、「1-⑤上水道の整備状況」などでは近い評価点となっていますが、一方、「1-①自然災害からの安全性」、「1-⑪公共交通の便利さ」、「2-①保健・医療の状況」、「3-②就労環境」、「3-①買い物の便利さ」などでは、評価点に大きな開きがみられ、こうした項目について、満足度を高めることでギャップを埋めていくことが必要となります。

満足度・重要度の比較（全体／評価点）



⑤満足度と重要度の経年変化

■満足度を前回調査と比較すると、「1-①自然災害からの安全性」、「1-⑤上水道の整備状況」、「1-⑪公共交通の便利さ」、「5-④コミュニティ施設の状況」で満足度が減少しています。

■重要度を前回調査と比較すると、前回調査で重要度の最も高い「1-①自然災害からの安全性」が今回調査でも4.34と重要度が最も高く、0.11ポイント上昇しています。

満足度と重要度の経年変化（全体／評価点）

（単位：評価点）

番号	項目	満足度			重要度		
		今回調査 (令和2年度)	前回調査 (平成27年度)	増減	今回調査 (令和2年度)	前回調査 (平成27年度)	増減
1	1-①自然災害からの安全性	△ 2.57	△ 2.66	△ -0.09	① 4.34	① 4.23	⑤ 0.11
2	1-②防犯・交通安全の状況	3.21	3.02	⑤ 0.19	3.84	3.86	-0.02
3	1-③騒音・振動等の状況	⑤ 3.67	⑤ 3.49	0.18	3.65	3.65	-0.00
4	1-④ごみ処理の状況	② 4.04	③ 3.96	0.08	3.95	④ 3.93	0.02
5	1-⑤上水道の整備状況	③ 4.01	① 4.08	△ -0.07	3.89	3.83	0.06
6	1-⑥生活排水処理の状況	3.33	3.15	0.18	3.69	3.67	0.02
7	1-⑦墓地・火葬場の状況	④ 3.69	④ 3.65	0.04	△ 3.49	3.54	△ -0.05
8	1-⑧町営住宅の整備状況	3.11	3.01	0.10	△ 3.15	△ 3.05	0.10
9	1-⑨公園・緑地等の整備状況	△ 2.95	2.94	0.01	△ 3.51	△ 3.46	0.05
10	1-⑩道路の整備状況	3.15	3.13	0.02	3.77	3.81	△ -0.04
11	1-⑪公共交通の便利さ	△ 2.27	△ 2.38	△ -0.11	3.77	3.75	0.02
12	1-⑫情報通信基盤の状況	3.04	2.97	0.07	3.55	△ 3.38	① 0.17
13	1-⑬自然環境の豊かさ	① 4.21	② 4.04	0.17	② 4.14	③ 4.00	② 0.14
14	2-①保健・医療の状況	3.03	2.95	0.08	③ 4.11	② 4.06	0.05
15	2-②福祉の状況	3.16	3.06	0.10	⑤ 3.99	3.89	0.10
16	2-③子育て環境	3.14	2.98	0.16	3.76	3.71	0.05
17	3-①買い物の便利さ	3.05	△ 2.81	② 0.24	④ 4.02	④ 3.93	0.09
18	3-②就労環境	△ 2.74	△ 2.51	③ 0.23	3.79	3.82	△ -0.03
19	3-③観光・交流の状況※	△ 2.93	-	-	3.59	-	-
20	4-①生涯学習・文化等の状況	3.16	2.96	④ 0.20	△ 3.51	△ 3.37	② 0.14
21	4-②スポーツの状況	3.20	2.94	① 0.26	△ 3.51	△ 3.38	④ 0.13
22	4-③子どもの教育環境	3.02	△ 2.86	0.16	3.78	3.79	-0.01
23	5-①人権の状況	3.20	3.07	0.13	3.58	3.50	0.08
24	5-②男女共同参画の状況※	3.15	-	-	△ 3.41	-	-
25	5-③地域の連帯感	3.47	3.47	△ 0.00	3.69	3.75	△ -0.06
26	5-④コミュニティ施設の状況	3.30	3.41	△ -0.11	3.54	3.59	△ -0.05
27	5-⑤広報の状況	3.32	3.29	0.03	3.60	3.58	0.02
	平均	3.23	3.15	0.08	3.73	3.70	0.03

※今回調査から追加された項目

※○の項目は上位項目、△の項目は下位の項目を表しています。「増減」の欄では、○の数字はプラスの大きい順番、△の数字はマイナスの大きい順番を表しています。

⑥総合計画における目標指標との比較

■満足度について、第2次紀北町総合計画前期基本計画で設定した目標値と比較すると「1-②防犯・交通安全の状況」、「1-④ごみ処理の状況」、「1-⑥生活排水処理の状況」、「1-⑬自然環境の豊かさ」、「2-③子育て環境」、「3-①買い物の便利さ」、「4-①生涯学習・文化等の状況」、「4-②スポーツの状況」では、現時点（令和2年度での換算値）での目標値に対する達成度が100%を超えています。

総合計画における目標指標との比較（点）

（単位：点）

番号		前回調査 (平成27年度)	今回調査 (令和2年度)	比較	目標値 (令和3年度)	目標換算値 (令和2年度)	達成度
		①	②	③=②-①	④	⑤=(①+(④-①)×5/6)	⑥=②/⑤
1	1-①自然災害からの安全性	△ ₃ 41.4	△ ₂ 39.2	△ ₃ -2.2	46.0	45.2	△ ₃ 86.7%
2	1-②防犯・交通安全の状況	50.9	55.3	4.4	56.0	55.2	100.3%
3	1-③騒音・振動等の状況	⑤ 62.3	⑤ 66.8	⑤ 4.5	70.0	68.7	97.3%
4	1-④ごみ処理の状況	③ 73.9	② 76.1	2.2	74.0	74.0	④ 102.8%
5	1-⑤上水道の整備状況	① 77.0	③ 75.4	△ ₄ -1.6	77.0	77.0	97.9%
6	1-⑥生活排水処理の状況	53.8	58.3	⑤ 4.5	59.0	58.1	100.3%
7	1-⑦墓地・火葬場の状況	④ 66.2	④ 67.3	1.1	70.0	69.4	97.0%
8	1-⑧町営住宅の整備状況	50.2	52.9	2.7	55.0	54.2	97.5%
9	1-⑨公園・緑地等の整備状況	48.5	△ ₅ 48.7	0.2	54.0	53.1	△ ₅ 91.7%
10	1-⑩道路の整備状況	53.2	53.8	0.6	58.0	57.2	94.1%
11	1-⑪公共交通の便利さ	△ ₁ 34.4	△ ₁ 31.6	△ ₁ -2.8	44.0	42.4	△ ₁ 74.6%
12	1-⑫情報通信基盤の状況	49.3	50.9	1.6	54.0	53.2	95.6%
13	1-⑬自然環境の豊かさ	② 76.0	① 80.3	4.3	76.0	76.0	① 105.6%
14	2-①保健・医療の状況	48.7	50.8	2.1	54.0	53.1	95.7%
15	2-②福祉の状況	51.6	54.0	2.4	57.0	56.1	96.2%
16	2-③子育て環境	49.4	53.4	4.0	54.0	53.2	100.3%
17	3-①買い物の便利さ	△ ₄ 45.2	51.3	② 6.1	50.0	49.2	② 104.3%
18	3-②就労環境	△ ₂ 37.7	△ ₃ 43.5	③ 5.8	48.0	46.3	94.0%
19	3-③観光・交流の状況※	-	△ ₄ 48.2	-	-	-	-
20	4-①生涯学習・文化等の状況	49.0	53.9	④ 4.9	54.0	53.2	⑤ 101.4%
21	4-②スポーツの状況	48.6	54.9	① 6.3	54.0	53.1	③ 103.4%
22	4-③子どもの教育環境	△ ₅ 46.6	50.6	4.0	52.0	51.1	99.0%
23	5-①人権の状況	51.7	55.0	3.3	57.0	56.1	98.0%
24	5-②男女共同参画の状況※	-	53.9	-	-	-	-
25	5-③地域の連帯感	61.7	61.8	△ ₅ 0.1	70.0	68.6	△ ₄ 90.1%
26	5-④コミュニティ施設の状況	60.1	57.4	△ ₂ -2.7	70.0	68.4	△ ₂ 84.0%
27	5-⑤広報の状況	57.3	58.0	0.7	62.0	61.2	△ ₄ 94.7%

※今回調査から追加された項目

※満足度指標について

満足度指標は、アンケート調査で設定した満足度調査項目の5段階の評価にそれぞれ点数を与え、評価点を算出しています。点数は100点満点を採用し、「満足している」=100点、「やや満足している」=75点、「どちらともいえない」=50点、「やや不満」=25点、「不満である」=0点として、合計点数を「不明・無回答」を除く件数で除して算出しています。

※○の項目は上位項目、△の項目は下位の項目を表しています。

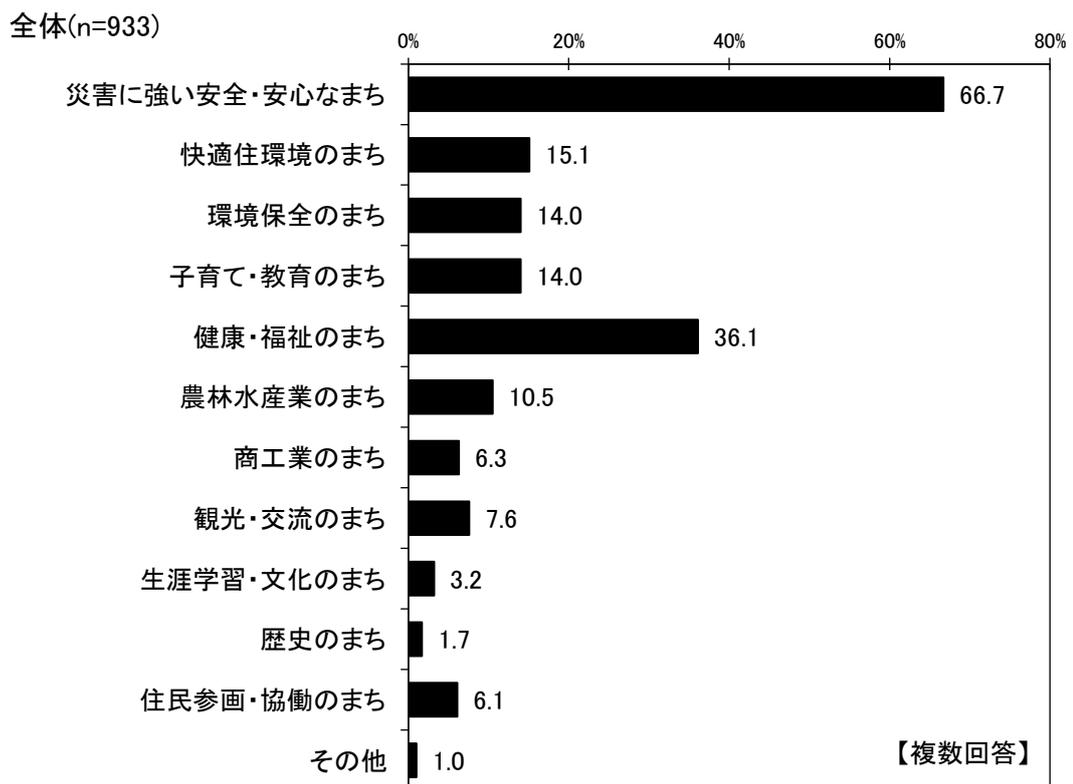
※「達成度」の欄では、□と網掛けのある項目は目標換算値に対して達成率が100%を超えている項目を表し、○の数字は達成率が高い順番、△の数字は達成率が低い順番を表しています。

(3) 今後のまちづくりの特色について

問6 あなたは、今後のまちづくりにおいて、紀北町をどのような特色のあるまちにすべきだと考えますか。【複数回答】

- 今後のまちづくりの特色については、「災害に強い安全・安心なまち」(66.7%)が第1位に挙げられ、次いで「健康・福祉のまち」(36.1%)が続きます。
- 性別、年齢、居住歴、居住地区でも、すべての層で「災害に強い安全・安心なまち」が第1位に挙げられ、ほとんどの層で「健康・福祉のまち」が第2位となるなど、防災、健康福祉を軸としたまちづくりへの関心が強い結果となっています。
- 年齢別の10~30代では、「災害に強い安全・安心なまち」に次いで「子育て・教育のまち」が第2位に上げられ、子どもを持つ世代では子育て支援や教育に対する期待が強い結果となっています。

今後のまちづくりの特色について（全体／複数回答）



今後のまちづくりの特色について（全体、性別、年齢、居住歴、居住地区／複数回答）

（上位3位、単位：％）

		n	第1位	第2位	第3位
全体		933	災害に強い安全・安心なまち 66.7	健康・福祉のまち 36.1	快適住環境のまち 15.1
性別	男性	439	災害に強い安全・安心なまち 64.9	健康・福祉のまち 32.1	環境保全のまち 17.3
	女性	484	災害に強い安全・安心なまち 68.6	健康・福祉のまち 40.1	快適住環境のまち 16.3
年齢別	10～30代	109	災害に強い安全・安心なまち 67.9	子育て・教育のまち 23.9	健康・福祉のまち 18.3
	40～50代	242	災害に強い安全・安心なまち 62.4	健康・福祉のまち 36.0	快適住環境のまち 21.1
	60代以上	572	災害に強い安全・安心なまち 68.5	健康・福祉のまち 39.9	快適住環境のまち 12.9
居住歴	町出身者	713	災害に強い安全・安心なまち 67.9	健康・福祉のまち 36.5	快適住環境のまち 14.4
	転入者	206	災害に強い安全・安心なまち 63.1	健康・福祉のまち 35.0	快適住環境のまち 18.4
居住地区	紀伊長島地区	443	災害に強い安全・安心なまち 67.0	健康・福祉のまち 38.4	子育て・教育のまち 15.8
	海山地区	479	災害に強い安全・安心なまち 66.6	健康・福祉のまち 34.2	環境保全のまち 18.8

4. 分野別の取り組みについて

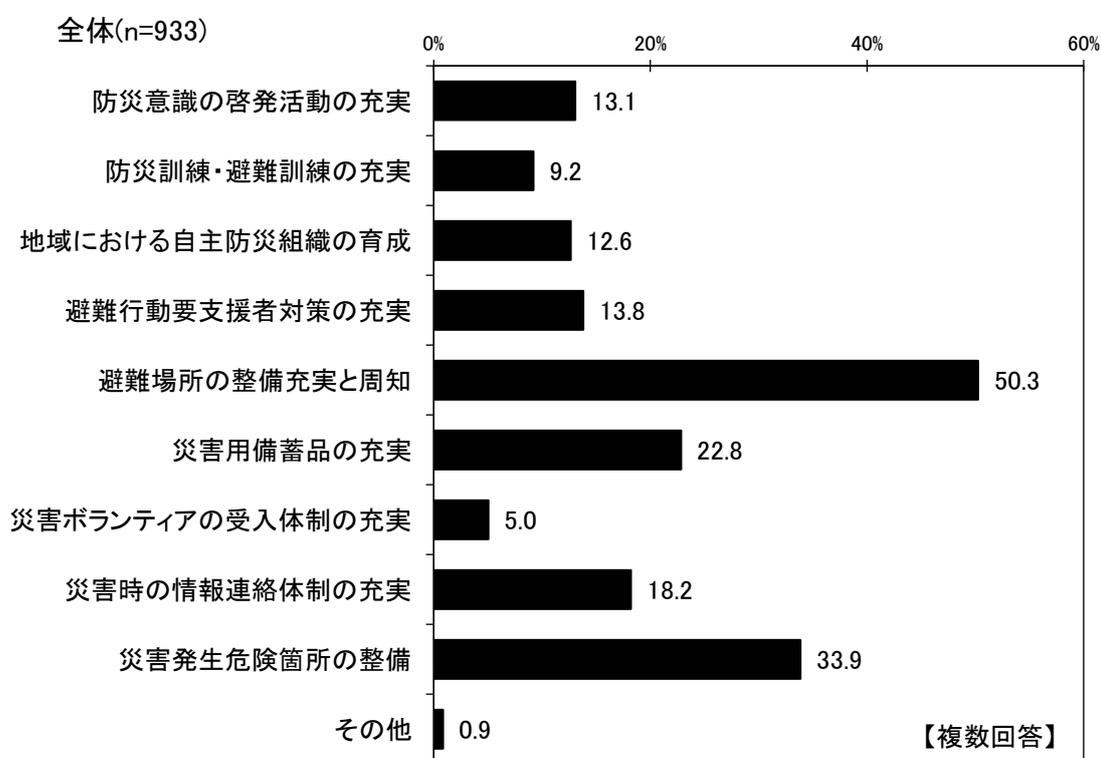
(1) 防災対策について

問7 あなたは、町の防災対策について、今後どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。【複数回答】

■「避難場所の整備充実と周知」(50.3%)が最も多く、次いで「災害発生危険箇所の整備」(33.9%)、「災害用備蓄品の充実」(22.8%)が続きます。

■性別、年齢、居住歴、居住地区でみても、すべての層で「避難場所の整備充実と周知」が第1位となっています。

防災対策について（全体／複数回答）



防災対策について（全体、性別、年齢、居住歴、居住地区／複数回答）

（上位3位、単位：％）

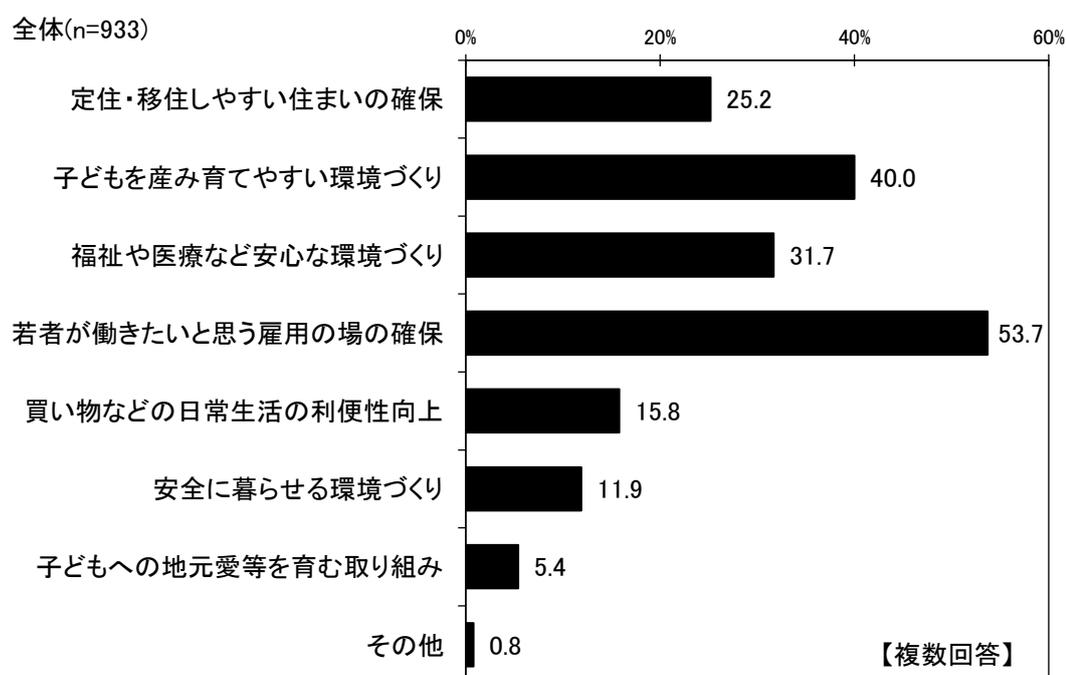
		n	第1位	第2位	第3位
全体		933	避難場所の整備充実 と周知 50.3	災害発生危険箇所の 整備 33.9	災害用備蓄品の充実 22.8
性別	男性	439	避難場所の整備充実 と周知 52.2	災害発生危険箇所の 整備 35.1	災害用備蓄品の充実 24.1
	女性	484	避難場所の整備充実 と周知 49.2	災害発生危険箇所の 整備 33.1	災害用備蓄品の充実 22.1
年齢別	10～30代	109	避難場所の整備充実 と周知 46.8	災害発生危険箇所の 整備 33.0	災害用備蓄品の充実 29.4
	40～50代	242	避難場所の整備充実 と周知 54.1	災害発生危険箇所の 整備 36.0	災害用備蓄品の充実 30.6
	60代以上	572	避難場所の整備充実 と周知 50.0	災害発生危険箇所の 整備 33.6	災害時の情報連絡体 制の充実 20.1
居住歴	町出身者	713	避難場所の整備充実 と周知 49.4	災害発生危険箇所の 整備 35.2	災害用備蓄品の充実 24.0
	転入者	206	避難場所の整備充実 と周知 55.3	災害発生危険箇所の 整備 31.1	災害用備蓄品の充実 19.9
居住地区	紀伊長島 地区	443	避難場所の整備充実 と周知 51.5	災害発生危険箇所の 整備 35.9	災害用備蓄品の充実 23.3
	海山地区	479	避難場所の整備充実 と周知 49.9	災害発生危険箇所の 整備 32.6	災害用備蓄品の充実 23.0

(2) 定住対策について

問8 あなたは、若者の定住対策として、今後どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。【複数回答】

- 定住対策については、「若者が働きたいと思う雇用の場の確保」(53.7%)が最も多く、次いで「子どもを産み育てやすい環境づくり」(40.0%)、「福祉や医療など安心な環境づくり」(31.7%)が続きます。
- 性別、年齢、居住歴、居住地区でも、ほとんどの層で「若者が働きたいと思う雇用の場の確保」が第1位となっていますが、年齢別の10~30代では「子どもを産み育てやすい環境づくり」が第1位となっており、子どもを持つ世代では子育て支援などに対する期待が強い傾向がみられます。

定住対策について（全体／複数回答）



定住対策について（全体、性別、年齢、居住歴、居住地区／複数回答）

（上位3位、単位：％）

		n	第1位	第2位	第3位
全体		933	若者が働きたいと思 う雇用の場の確保 53.7	子どもを産み育てや すい環境づくり 40.0	福祉や医療など安心 な環境づくり 31.7
性別	男性	439	若者が働きたいと思 う雇用の場の確保 56.3	子どもを産み育てや すい環境づくり 40.8	福祉や医療など安心 な環境づくり 30.5
	女性	484	若者が働きたいと思 う雇用の場の確保 52.1	子どもを産み育てや すい環境づくり 39.9	福祉や医療など安心 な環境づくり 32.6
年齢別	10～30代	109	子どもを産み育てや すい環境づくり 55.0	若者が働きたいと思 う雇用の場の確保 40.4	定住・移住しやすい 住まいの確保 29.4
	40～50代	242	若者が働きたいと思 う雇用の場の確保 55.4	子どもを産み育てや すい環境づくり 41.7	福祉や医療など安心 な環境づくり 33.1
	60代以上	572	若者が働きたいと思 う雇用の場の確保 56.1	子どもを産み育てや すい環境づくり 36.9	福祉や医療など安心 な環境づくり 32.3
居住歴	町出身者	713	若者が働きたいと思 う雇用の場の確保 54.8	子どもを産み育てや すい環境づくり 39.4	福祉や医療など安心 な環境づくり 31.8
	転入者	206	若者が働きたいと思 う雇用の場の確保 51.9	子どもを産み育てや すい環境づくり 42.7	福祉や医療など安心 な環境づくり 31.1
居住地区	紀伊長島 地区	443	若者が働きたいと思 う雇用の場の確保 55.8	子どもを産み育てや すい環境づくり 37.5	福祉や医療など安心 な環境づくり 35.2
	海山地区	479	若者が働きたいと思 う雇用の場の確保 52.6	子どもを産み育てや すい環境づくり 43.0	定住・移住しやすい 住まいの確保 29.2

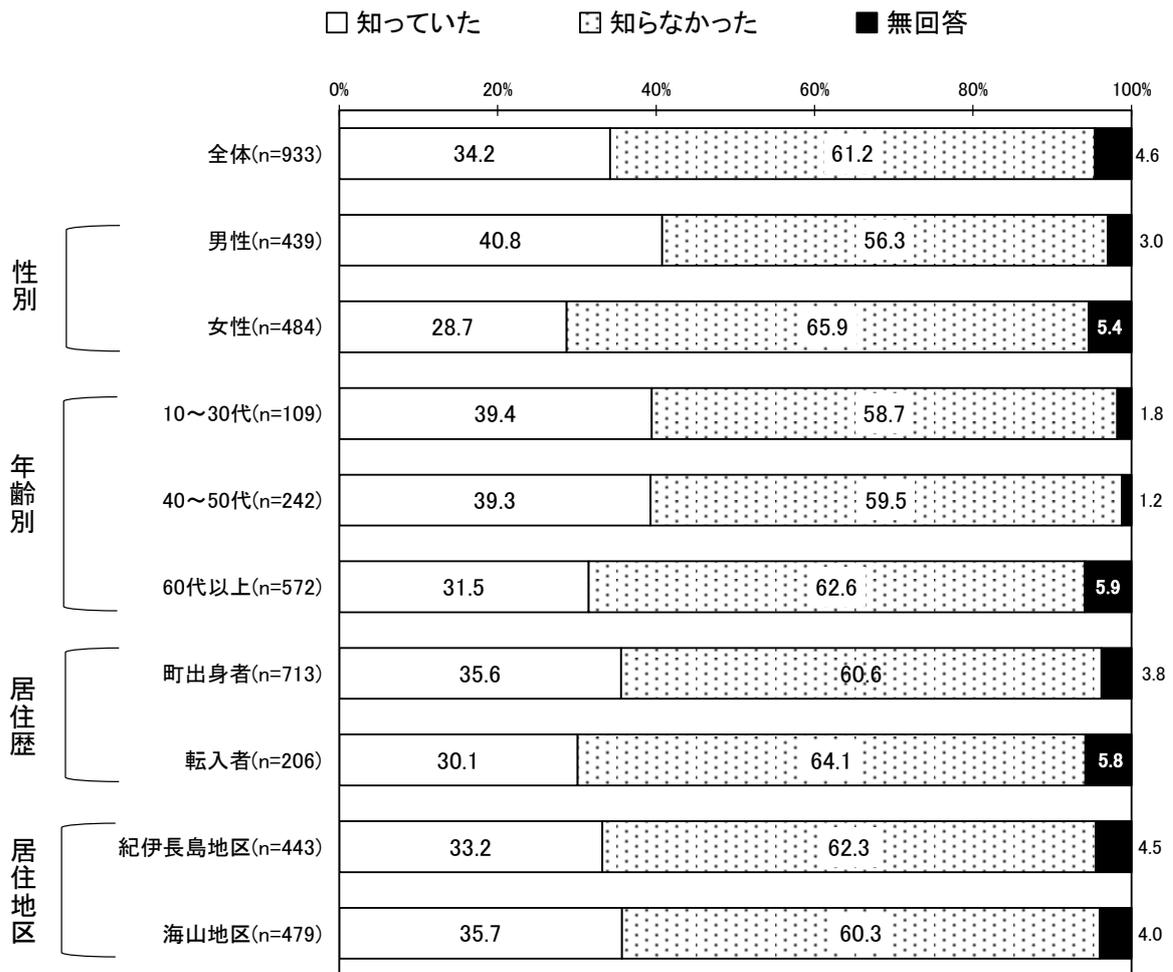
(3) 環境について

①「自然と共生の町」宣言の認知度

問9 紀北町では、豊かな自然を次世代につなぐため、平成30年に「自然と共生の町」宣言を行っています。あなたはこの宣言を知っていますか。

- 「自然と共生の町」宣言については、「知っていた」が34.2%、「知らなかった」が61.2%となっています。
- 「知っていた」と回答した割合をみると、性別では男性(40.8%)が女性(28.7%)を上回ります。
- 年齢では、10~30代(39.4%)、40~50代(39.3%)で約4割となっていますが、60代以上が31.5%と約3割にとどまります。
- 居住歴では、町出身者(35.6%)が転入者(30.1%)を上回っています。
- 居住地区では、紀伊長島地区(33.2%)、海山地区(35.7%)とほぼ同率となっています。

「自然と共生の町」宣言の認知度(全体、性別、年齢、居住歴、居住地区)

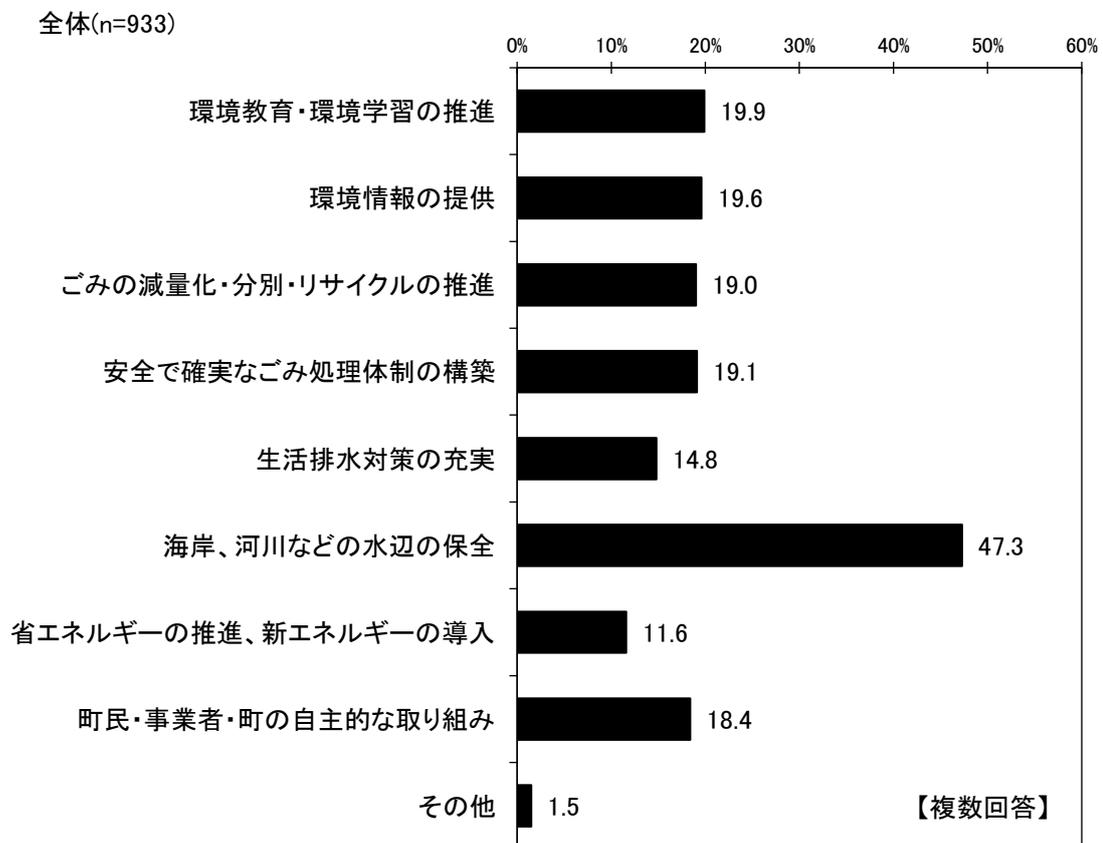


②環境保全について

問10 あなたは、地域の環境保全に向けて、今後どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。【複数回答】

- 環境保全については、「海岸、河川などの水辺の保全」(47.3%)が最も多く、次いで「環境教育・環境学習の推進」(19.9%)、「環境情報の提供」(19.6%)の順となっています。
- 性別、年齢、居住歴、居住地区でも、すべての層で「海岸、河川などの水辺の保全」が第1位となっています。

環境保全について（全体／複数回答）



環境保全について（全体、性別、年齢、居住歴、居住地区／複数回答）

（上位3位、単位：％）

		n	第1位	第2位	第3位
全体		933	海岸、河川などの水辺の保全 47.3	環境教育・環境学習の推進 19.9	環境情報の提供 19.6
性別	男性	439	海岸、河川などの水辺の保全 50.8	安全で確実なごみ処理体制の構築 21.0	環境教育・環境学習の推進 20.0
	女性	484	海岸、河川などの水辺の保全 44.6	ごみの減量化・分別・リサイクルの推進 21.5	環境教育・環境学習の推進 20.2
年齢別	10～30代	109	海岸、河川などの水辺の保全 58.7	環境教育・環境学習の推進 25.7	ごみの減量化・分別・リサイクルの推進 20.2
	40～50代	242	海岸、河川などの水辺の保全 48.8	環境教育・環境学習の推進 21.1	安全で確実なごみ処理体制の構築 21.1
	60代以上	572	海岸、河川などの水辺の保全 45.1	ごみの減量化・分別・リサイクルの推進 21.5	環境情報の提供 20.6
居住歴	町出身者	713	海岸、河川などの水辺の保全 48.8	環境教育・環境学習の推進 19.8	町民・事業者・町の自主的な取り組み 18.9
	転入者	206	海岸、河川などの水辺の保全 43.7	環境情報の提供 21.8	安全で確実なごみ処理体制の構築 21.8
居住地区	紀伊長島地区	443	海岸、河川などの水辺の保全 44.5	環境教育・環境学習の推進 19.6	環境情報の提供 19.6
	海山地区	479	海岸、河川などの水辺の保全 50.5	環境教育・環境学習の推進 20.5	町民・事業者・町の自主的な取り組み 20.0

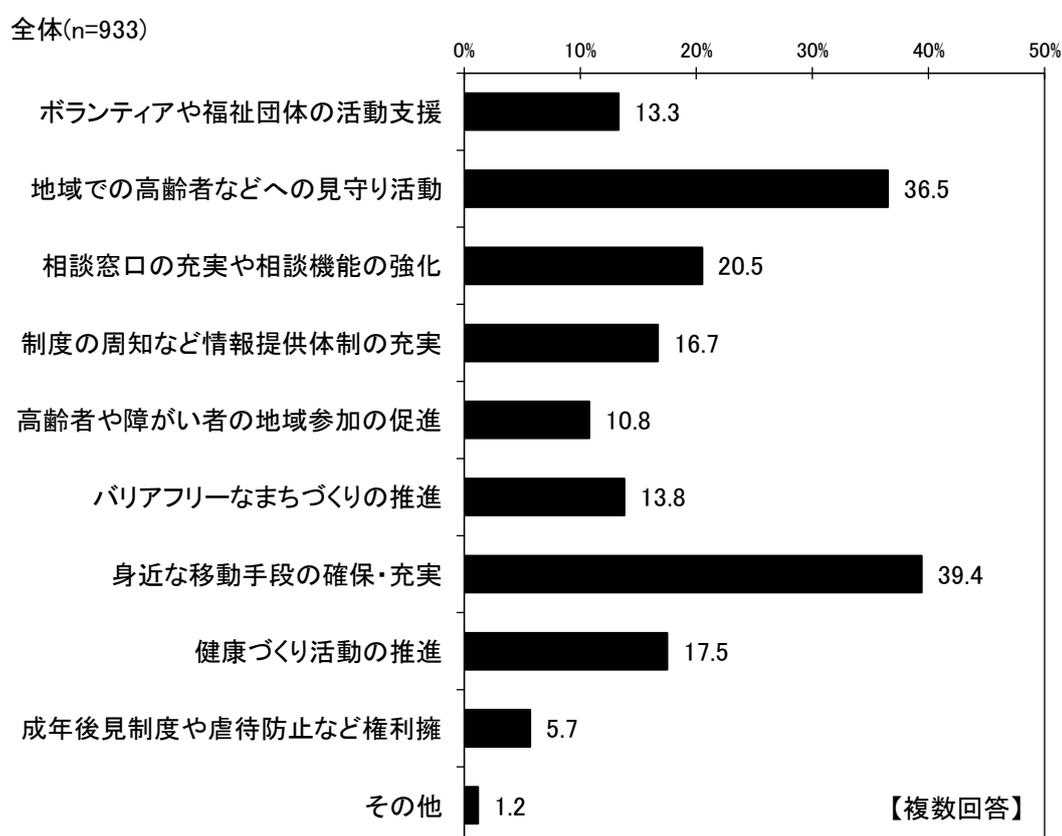
(4) 地域福祉について

問11 あなたは、地域での福祉環境の充実に向けて、今後どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。【複数回答】

■地域福祉の充実については、「身近な移動手段の確保・充実」(39.4%)が第1位に挙げられ、次いで「地域での高齢者などへの見守り活動」(36.5%)、「相談窓口の充実や相談機能の強化」(20.5%)などの順となっています。

■性別、年齢、居住歴、居住地区でも、すべての層で「身近な移動手段の確保・充実」が第1位に、「地域での高齢者などへの見守り活動」が第2位に挙げられています。

地域福祉について（全体／複数回答）



※成年後見制度：認知症、知的障がいなどの理由で判断能力の不十分な方の契約などの法律行為を支援する制度。

地域福祉について（全体、性別、年齢、居住歴、居住地区／複数回答）

（上位3位、単位：％）

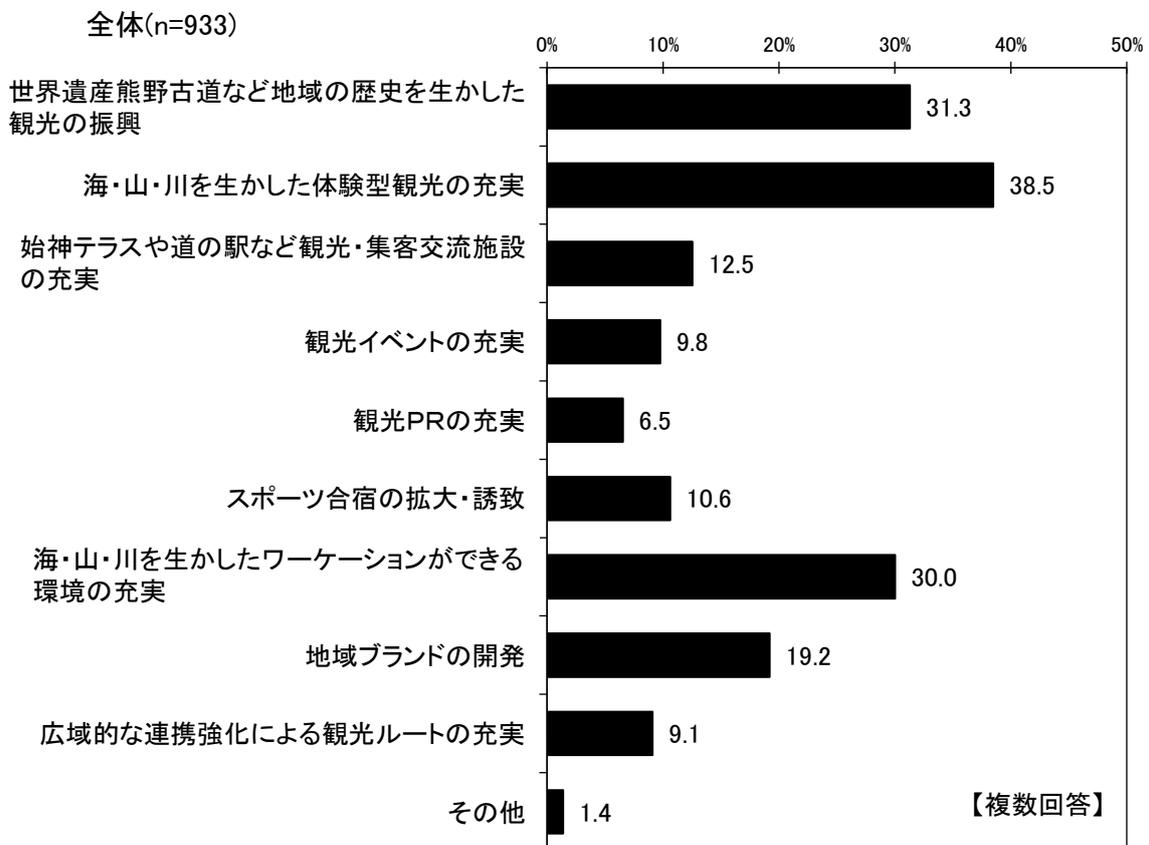
		n	第1位	第2位	第3位
全体		933	身近な移動手段の確保・充実 39.4	地域での高齢者などへの見守り活動 36.5	相談窓口の充実や相談機能の強化 20.5
性別	男性	439	身近な移動手段の確保・充実 38.5	地域での高齢者などへの見守り活動 35.5	制度の周知など情報提供体制の充実 20.0
	女性	484	身近な移動手段の確保・充実 40.3	地域での高齢者などへの見守り活動 37.8	相談窓口の充実や相談機能の強化 21.7
年齢別	10～30代	109	身近な移動手段の確保・充実 45.9	地域での高齢者などへの見守り活動 23.9	バリアフリーなまちづくりの推進 23.9
	40～50代	242	身近な移動手段の確保・充実 43.0	地域での高齢者などへの見守り活動 30.6	相談窓口の充実や相談機能の強化 22.7
	60代以上	572	地域での高齢者などへの見守り活動 41.8	身近な移動手段の確保・充実 36.7	相談窓口の充実や相談機能の強化 20.6
居住歴	町出身者	713	身近な移動手段の確保・充実 40.1	地域での高齢者などへの見守り活動 37.2	相談窓口の充実や相談機能の強化 21.0
	転入者	206	身近な移動手段の確保・充実 37.9	地域での高齢者などへの見守り活動 35.0	制度の周知など情報提供体制の充実 20.4
居住地区	紀伊長島地区	443	身近な移動手段の確保・充実 40.6	地域での高齢者などへの見守り活動 35.2	相談窓口の充実や相談機能の強化 20.3
	海山地区	479	身近な移動手段の確保・充実 38.4	地域での高齢者などへの見守り活動 38.0	相談窓口の充実や相談機能の強化 21.1

(5) 観光・交流について

問12 あなたは、町の観光・交流の活性化のために、今後どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。【複数回答】

- 観光・交流については、「海・山・川を生かした体験型観光の充実」(38.5%)が第1位に挙げられ、次いで「世界遺産熊野古道など地域の歴史を生かした観光の振興」(31.3%)、「海・山・川を生かしたワーケーションができる環境の充実」(30.0%)などの順となっており、熊野古道や豊かな自然といった地域資源を活用した観光・交流が重視されています。
- 性別、年齢でも、すべての層で「海・山・川を生かした体験型観光の充実」が第1位となっています。
- 産業分類で見ると、ほとんどの層で「海・山・川を生かした体験型観光の充実」が第1位となっていますが、第2次産業では「海・山・川を生かしたワーケーションができる環境の充実」が第1位となっています。また、第1次産業では全体では「地域ブランドの開発」(25.0%)と回答する割合が多く、第3位となっています。

観光・交流について (全体/複数回答)



観光・交流について（全体、性別、年齢、産業分類／複数回答）

（上位3位、単位：％）

		n	第1位	第2位	第3位
全体		933	海・山・川を生かした体験型観光の充実 38.5	世界遺産熊野古道など地域の歴史を生かした観光の振興 31.3	海・山・川を生かしたワーケーションができる環境の充実 30.0
性別	男性	439	海・山・川を生かした体験型観光の充実 40.5	世界遺産熊野古道など地域の歴史を生かした観光の振興 32.1	海・山・川を生かしたワーケーションができる環境の充実 31.2
	女性	484	海・山・川を生かした体験型観光の充実 36.8	世界遺産熊野古道など地域の歴史を生かした観光の振興 31.0	海・山・川を生かしたワーケーションができる環境の充実 29.3
年齢別	10～30代	109	海・山・川を生かした体験型観光の充実 45.0	世界遺産熊野古道など地域の歴史を生かした観光の振興 34.9	海・山・川を生かしたワーケーションができる環境の充実 34.9
	40～50代	242	海・山・川を生かした体験型観光の充実 40.9	世界遺産熊野古道など地域の歴史を生かした観光の振興 31.4	海・山・川を生かしたワーケーションができる環境の充実 29.8
	60代以上	572	海・山・川を生かした体験型観光の充実 36.4	世界遺産熊野古道など地域の歴史を生かした観光の振興 31.1	海・山・川を生かしたワーケーションができる環境の充実 29.5
産業分類	第1次産業	40	海・山・川を生かした体験型観光の充実 40.0	海・山・川を生かしたワーケーションができる環境の充実 37.5	地域ブランドの開発 25.0
	第2次産業	85	海・山・川を生かしたワーケーションができる環境の充実 43.5	海・山・川を生かした体験型観光の充実 40.0	世界遺産熊野古道など地域の歴史を生かした観光の振興 23.5
	第3次産業	282	海・山・川を生かした体験型観光の充実 44.3	世界遺産熊野古道など地域の歴史を生かした観光の振興 32.3	海・山・川を生かしたワーケーションができる環境の充実 29.4
	その他	505	海・山・川を生かした体験型観光の充実 34.9	世界遺産熊野古道など地域の歴史を生かした観光の振興 34.1	海・山・川を生かしたワーケーションができる環境の充実 28.3

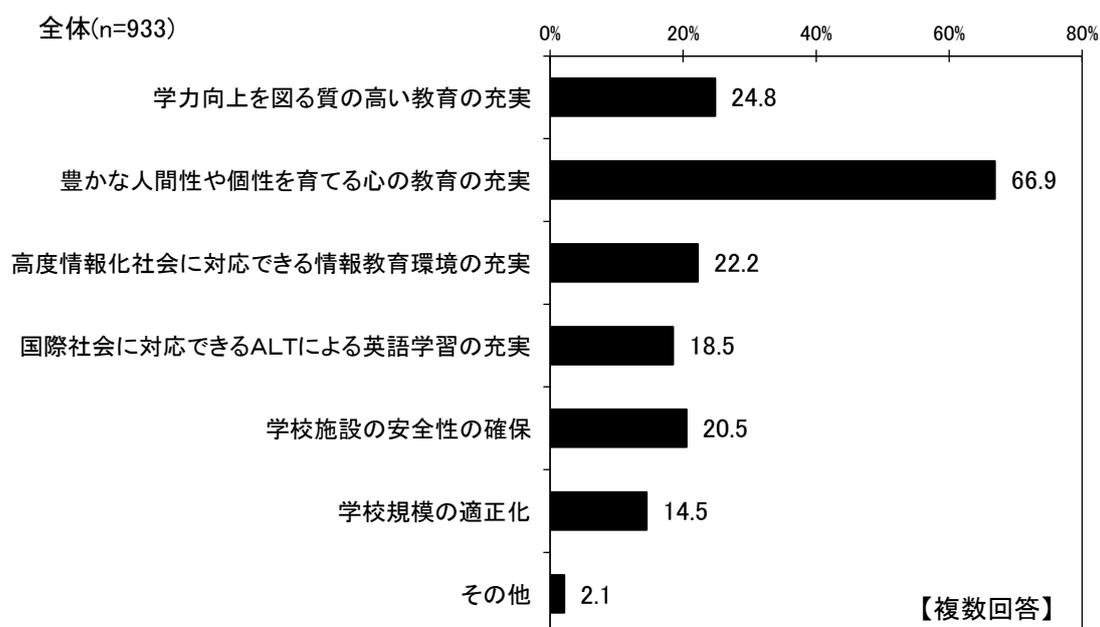
※ワーケーション：「ワーク」（労働）と「バケーション」（休暇）を組み合わせた造語で、観光地やリゾート地でテレワークしながら、休暇をとる過ごし方。

(6) 教育について

問13 あなたは、学校教育の充実に向けて、今後どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。【複数回答】

- 教育については、「豊かな人間性や個性を育てる心の教育の充実」(66.9%)が第1位に挙げられ、次いで「学力向上を図る質の高い教育の充実」(24.8%)、「高度情報化社会に対応できる情報教育環境の充実」(22.2%)が続きます。
- 性別、年齢、居住歴、居住地区でも、すべての層で「豊かな人間性や個性を育てる心の教育の充実」が第1位となっています。また、年齢別の10~30代では「学力向上を図る質の高い教育の充実」(30.6%)と回答する割合が比較的多くなっています。

教育について（全体／複数回答）



教育について（全体、性別、年齢、居住歴、居住地区／複数回答）

（上位3位、単位：％）

		n	第1位	第2位	第3位
全体		933	豊かな人間性や個性を 育てる心の教育の充実 66.9	学力向上を図る質の高 い教育の充実 24.8	高度情報化社会に対応 できる情報教育環境の 充実 22.2
性別	男性	439	豊かな人間性や個性を 育てる心の教育の充実 64.9	学力向上を図る質の高 い教育の充実 26.9	高度情報化社会に対応 できる情報教育環境の 充実 24.6
	女性	484	豊かな人間性や個性を 育てる心の教育の充実 69.2	学力向上を図る質の高 い教育の充実 23.1	学校施設の安全性の確 保 21.5
年齢別	10～30代	109	豊かな人間性や個性を 育てる心の教育の充実 60.6	学力向上を図る質の高 い教育の充実 32.1	高度情報化社会に対応 できる情報教育環境の 充実 24.8
	40～50代	242	豊かな人間性や個性を 育てる心の教育の充実 67.4	学力向上を図る質の高 い教育の充実 30.6	高度情報化社会に対応 できる情報教育環境の 充実 24.0
	60代以上	572	豊かな人間性や個性を 育てる心の教育の充実 68.4	高度情報化社会に対応 できる情報教育環境の 充実 21.3	学力向上を図る質の高 い教育の充実 21.0
居住歴	町出身者	713	豊かな人間性や個性を 育てる心の教育の充実 67.5	学力向上を図る質の高 い教育の充実 24.5	高度情報化社会に対応 できる情報教育環境の 充実 22.7
	転入者	206	豊かな人間性や個性を 育てる心の教育の充実 67.5	学校施設の安全性の確 保 25.7	学力向上を図る質の高 い教育の充実 25.2
居住地区	紀伊長島 地区	443	豊かな人間性や個性を 育てる心の教育の充実 65.7	学力向上を図る質の高 い教育の充実 23.5	学校施設の安全性の確 保 22.1
	海山地区	479	豊かな人間性や個性を 育てる心の教育の充実 68.5	学力向上を図る質の高 い教育の充実 26.1	高度情報化社会に対応 できる情報教育環境の 充実 23.8

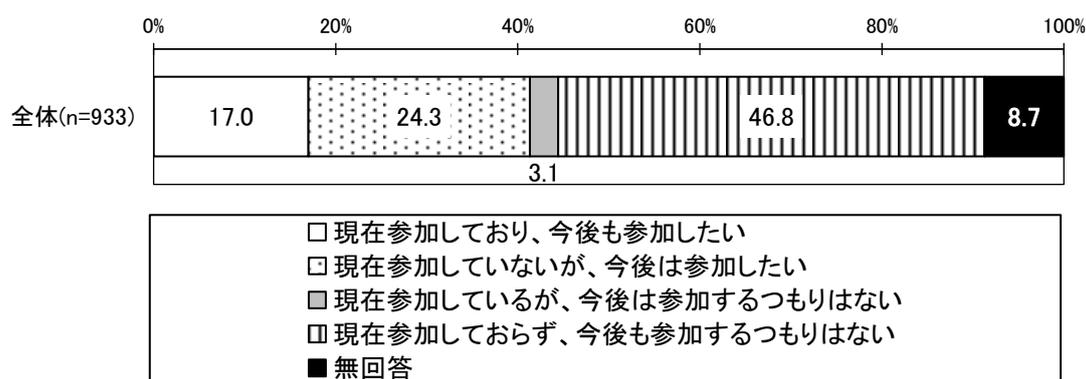
5. コミュニティ活動、参画・協働について

(1) コミュニティ活動等への参加状況と参加意向

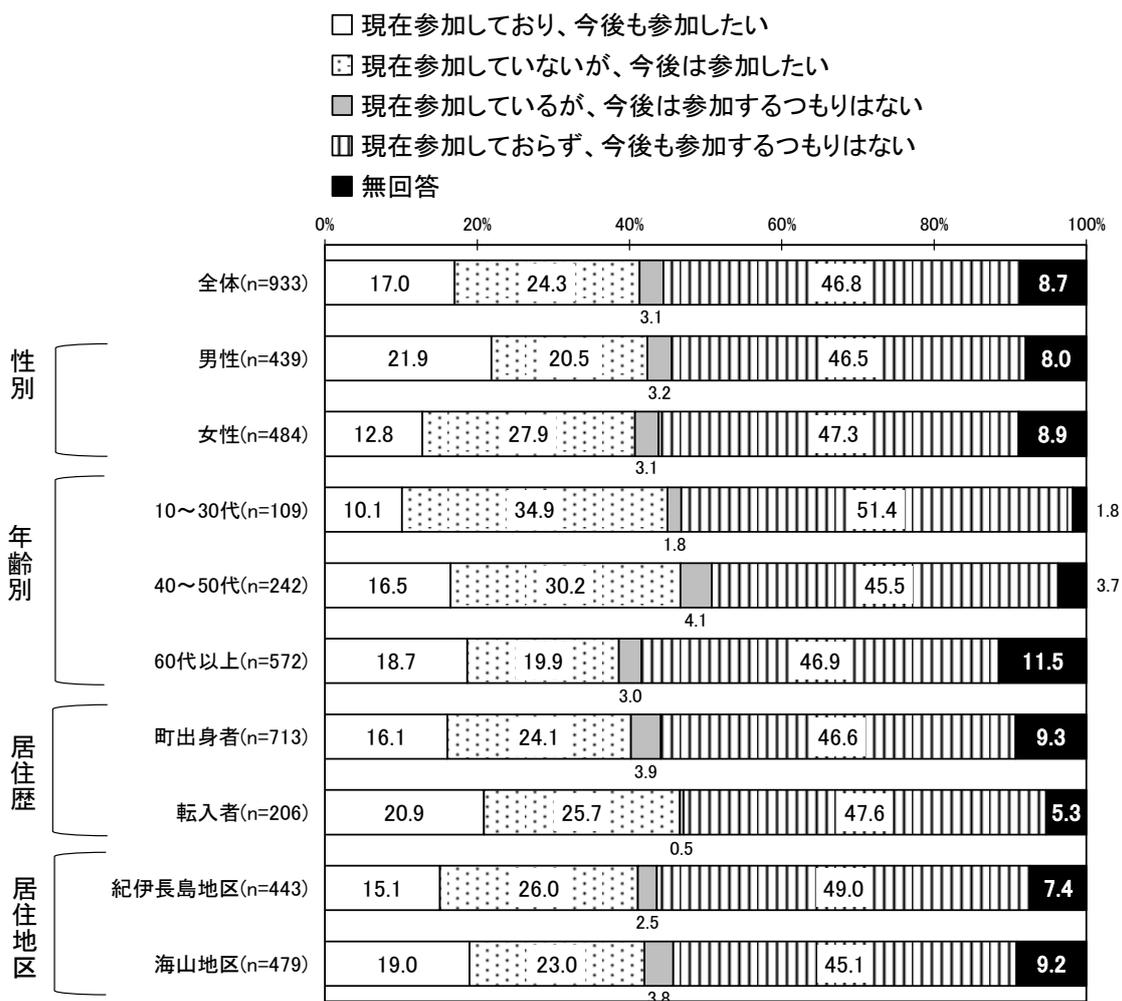
問14 あなたの現在のコミュニティ活動（地域活動）・ボランティア活動への参加状況と、今後の参加意向についておたずねします。

- コミュニティ活動等への参加状況と今後の意向をたずねたところ、『現在参加している』（「現在参加しており、今後も参加したい」17.0%及び「現在参加しているが、今後は参加するつもりはない」3.1%の合計）は20.1%となっています。
- 今後の意向では『今後参加したい』（「現在参加しており、今後も参加したい」17.0%及び「現在参加していないが、今後は参加したい」24.3%の合計）は41.3%となり、『参加するつもりはない』（「現在参加しているが、今後は参加するつもりはない」3.1%及び「現在参加しておらず、今後は参加するつもりはない」46.8%の合計）が49.9%となっています。
- 『今後参加したい』と回答した割合をみると、性別では男性（42.4%）、女性（40.7%）ともに4割を超えています。
- 年齢では、40～50代で46.7%、10～30代で45.0%、60代以上で38.6%となっています。
- 居住歴では、転入者（46.6%）が町出身者（40.2%）を上回ります。
- 居住地区では、海山地区（42.0%）、紀伊長島地区（41.1%）とともに4割を超えます。

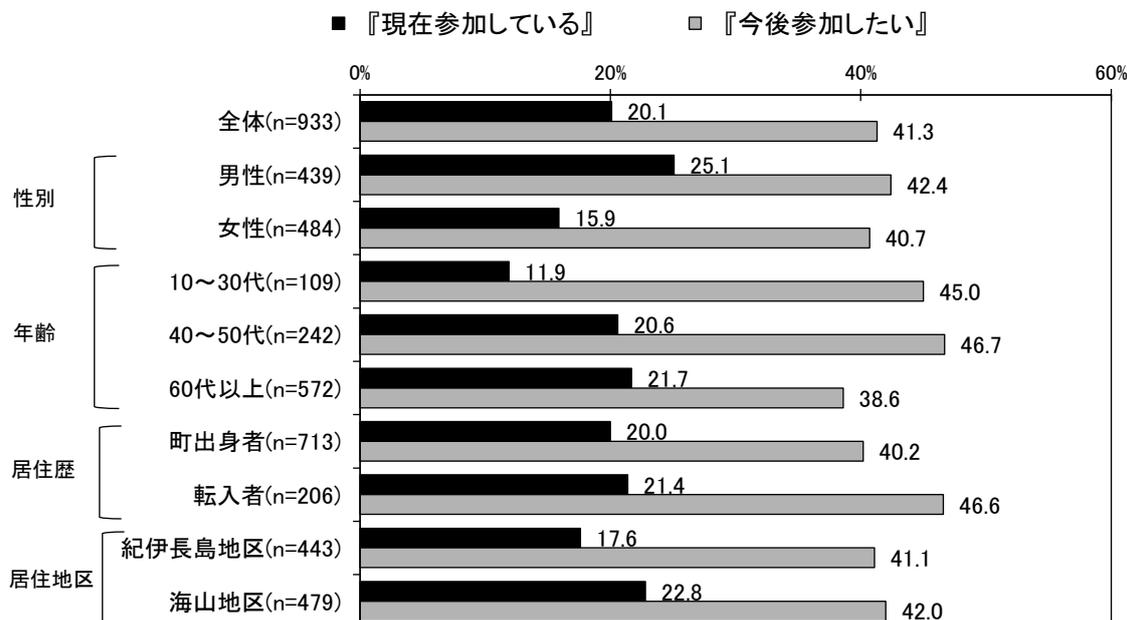
コミュニティ活動等への参加状況と参加意向について（全体）



コミュニティ活動等への参加状況と参加意向について（全体、性別、年齢、居住歴、居住地区）



コミュニティ活動等への現在の参加状況と今後の参加意向について
（全体、性別、年齢、居住歴、居住地区）

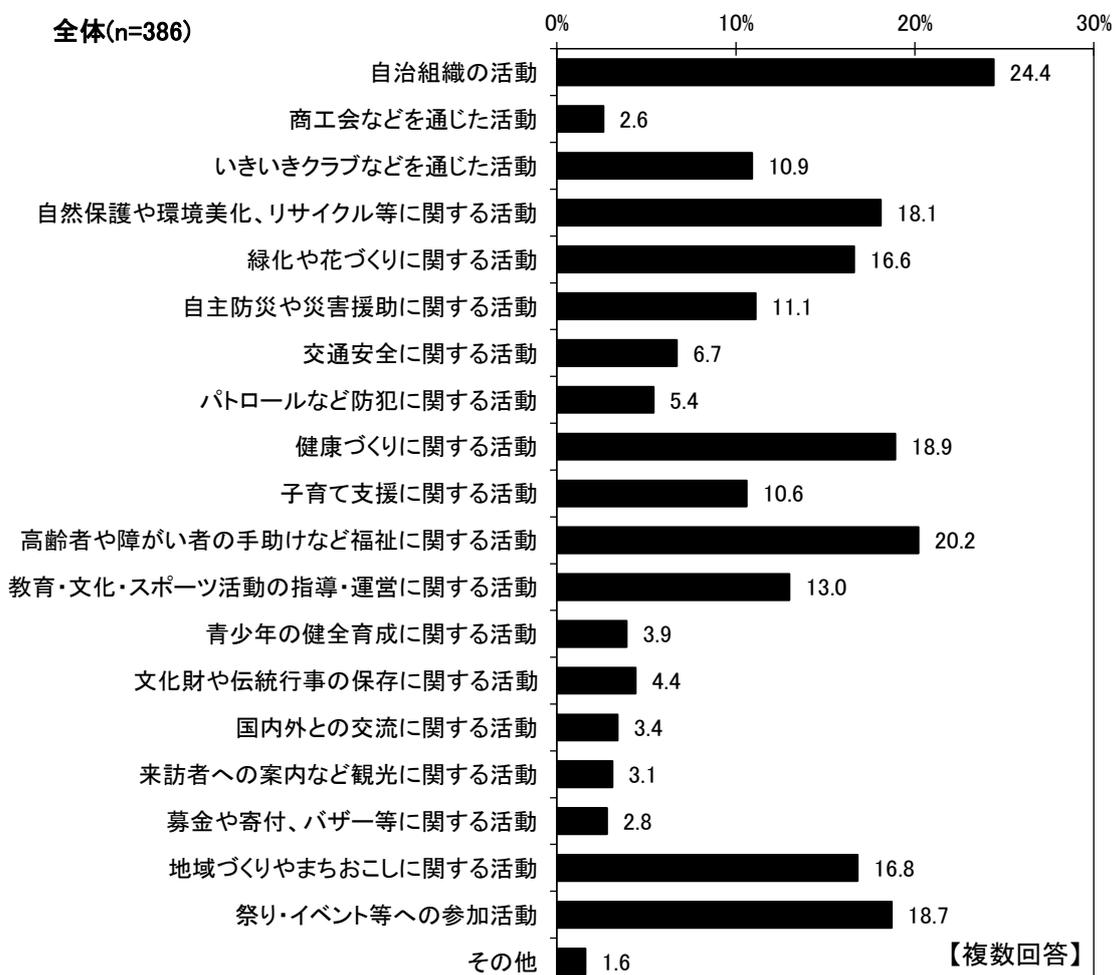


(2) 今後（今後とも）参加したいコミュニティ活動等について

問14で「1」または「2」（参加したい）に○をつけた方にかがいます。
 問14付問① あなたは、今後（今後とも）どのようなコミュニティ活動（地域活動）・ボランティア活動に参加したいと思いますか。【複数回答】

- 参加したい活動については、「自治組織の活動」（24.4%）が第1位に挙げられ、次いで「高齢者や障がい者の手助けなど福祉に関する活動」（20.2%）、「健康づくりに関する活動」（18.9%）などの順となっています。
- 性別で見ると、男性では「自治組織の活動」（33.3%）、女性では「緑化や花づくりに関する活動」及び「健康づくりに関する活動」（同率 26.4%）がそれぞれ第1位となっています。
- 年齢では、10～30代では「祭り・イベント等への参加活動」が55.1%で最も多く、40～50代、60代以上では「自治組織の活動」が第1位となっています。
- 居住歴、居住地区では、すべての層で「自治組織の活動」が第1位となっています。

今後（今後とも）参加したいコミュニティ活動等について
 （全体／複数回答、『今後参加したい』と回答した人のみ）



今後（今後とも）参加したいコミュニティ活動等について

（全体、性別、年齢、居住歴、居住地区／複数回答、『今後参加したい』と回答した人のみ）

（上位3位、単位：％）

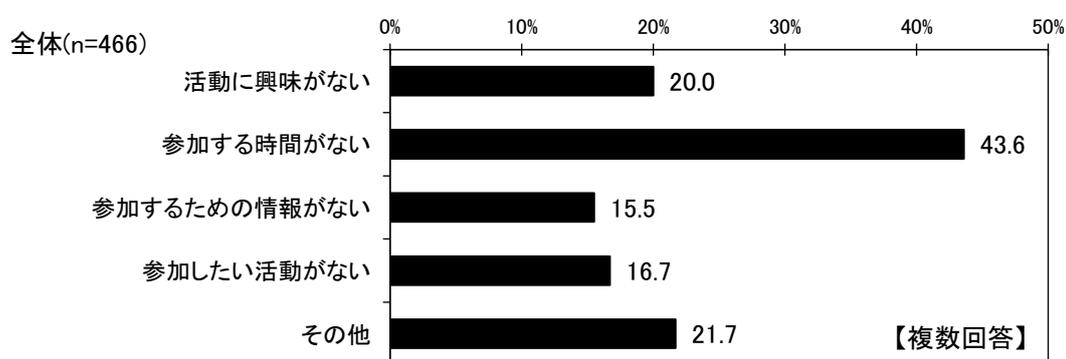
		n	第1位	第2位	第3位
全体		386	自治組織の活動 24.4	高齢者や障がい者の手 助けなど福祉に関する 活動 20.2	健康づくりに関する活 動 18.9
性別	男性	186	自治組織の活動 33.3	祭り・イベント等への 参加活動 21.0	自然保護や環境美化、 リサイクル等に関する 活動 19.9
	女性	197	緑化や花づくりに関する活動／健康づくりに関 する活動 26.4		高齢者や障がい者の手 助けなど福祉に関する 活動 23.9
年齢別	10～30代	49	祭り・イベント等への 参加活動 55.1	教育・文化・スポーツ活 動の指導・運営に関す る活動 24.5	地域づくりやまちおこ しに関する活動 22.4
	40～50代	113	自治組織の活動 23.9	祭り・イベント等への 参加活動 21.2	高齢者や障がい者の手助けなど 福祉に関する活動／地域づくり やまちおこしに関する活動 17.7
	60代以上	221	自治組織の活動 28.1	健康づくりに関する活 動 22.6	緑化や花づくりに関する活動／ 高齢者や障がい者の手助けなど 福祉に関する活動 22.2
居住歴	町出身者	287	自治組織の活動 22.6	高齢者や障がい者の手 助けなど福祉に関する 活動 20.6	自然保護や環境美化、 リサイクル等に関する 活動 19.9
	転入者	96	自治組織の活動 30.2	健康づくりに関する活 動 20.8	高齢者や障がい者の手 助けなど福祉に関する 活動 19.8
居住地区	紀伊長島 地区	182	自治組織の活動 23.6	高齢者や障がい者の手 助けなど福祉に関する 活動 22.5	祭り・イベント等への 参加活動 22.0
	海山地区	201	自治組織の活動 25.4	自然保護や環境美化、 リサイクル等に関する 活動 20.4	地域づくりやまちおこ しに関する活動 20.4

(3) 参加しない理由について

問14で「3」または「4」(参加するつもりはない)に○をつけた方にうかがいます。
 問14付問② コミュニティ活動(地域活動)・ボランティア活動に参加しない理由はどのようなことですか。【複数回答】

■参加しない理由については、「参加する時間がない」が他を大きく引き離して理由の第1位となっています。
 ■性別、年齢では、60代以上を除くすべての層で「参加する時間がない」が第1位となっています。

参加しない理由について(全体/複数回答、『参加するつもりはない』と回答した人のみ)



参加しない理由について

(全体、性別、年齢/複数回答、『参加するつもりはない』と回答した人のみ)

(上位3位、単位：%)

		n	第1位	第2位	第3位
全体		466	参加する時間がない 43.6	その他 21.7	活動に興味がない 20.0
性別	男性	218	参加する時間がない 44.0	活動に興味がない 22.0	その他 21.1
	女性	244	参加する時間がない 43.9	その他 22.5	活動に興味がない 18.0
年齢別	10~30代	58	参加する時間がない 74.1	参加するための情報がない 20.7	参加したい活動がない 20.7
	40~50代	120	参加する時間がない 69.2	参加したい活動がない 19.2	活動に興味がない 18.3
	60代以上	285	その他 32.6	参加する時間がない 27.0	活動に興味がない 21.8

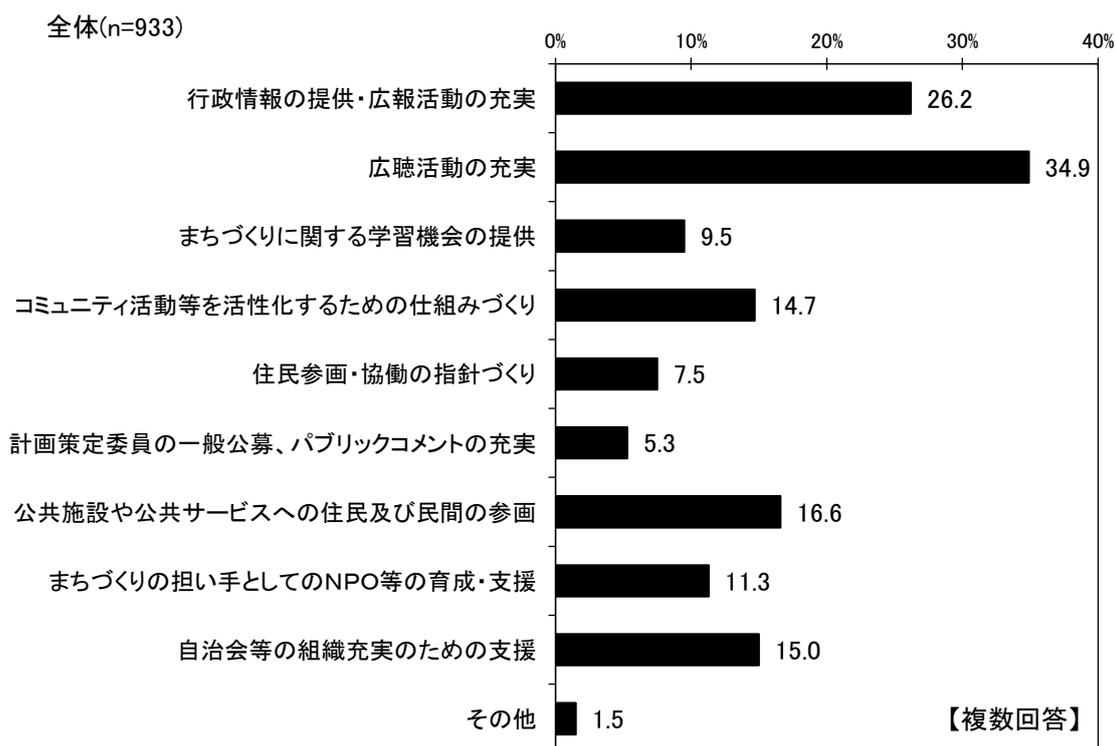
(4) 町民参画・協働のまちづくりに必要なこと

問15 これからのまちづくりにおいては、より多くの町民の皆さまが町政に参画し、行政と協力して課題解決や地域づくりを行う「町民参画・協働のまちづくり」が重要なテーマとなります。あなたは、この「町民参画・協働のまちづくり」を進めるために今後どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。【複数回答】

■今後の町民参画・協働のまちづくりのために必要なことについては、「広聴活動の充実」(34.9%)が第1位に挙げられ、次いで「行政情報の提供・広報活動の充実」(26.2%)、「公共施設や公共サービスへの住民及び民間の参画」(16.6%)などの順となっています。

■性別、年齢、居住歴、居住地区でも、すべての層で「広聴活動の充実」が第1位に挙げられ、「行政情報の提供・広報活動の充実」が第2位となっており、広報・広聴活動の充実への期待が大きい結果となっています。

町民参画・協働のまちづくりに必要なこと（全体／複数回答）



町民参画・協働のまちづくりに必要なこと
 (全体、性別、年齢、居住歴、居住地区／複数回答)

(上位3位、単位：%)

		n	第1位	第2位	第3位
全体		933	広聴活動の充実 34.9	行政情報の提供・広報活動の充実 26.2	公共施設や公共サービスへの住民及び民間の参画 16.6
性別	男性	439	広聴活動の充実 38.7	行政情報の提供・広報活動の充実 27.1	公共施設や公共サービスへの住民及び民間の参画 19.6
	女性	484	広聴活動の充実 31.8	行政情報の提供・広報活動の充実 25.8	コミュニティ活動等を活性化するための仕組みづくり 16.3
年齢別	10～30代	109	広聴活動の充実 40.4	行政情報の提供・広報活動の充実 30.3	コミュニティ活動等を活性化するための仕組みづくり 22.9
	40～50代	242	広聴活動の充実 34.3	行政情報の提供・広報活動の充実 26.4	公共施設や公共サービスへの住民及び民間の参画 19.0
	60代以上	572	広聴活動の充実 34.4	行政情報の提供・広報活動の充実 25.5	自治会等の組織充実のための支援 18.9
居住歴	町出身者	713	広聴活動の充実 34.4	行政情報の提供・広報活動の充実 25.8	公共施設や公共サービスへの住民及び民間の参画 18.0
	転入者	206	広聴活動の充実 37.9	行政情報の提供・広報活動の充実 28.2	自治会等の組織充実のための支援 18.9
居住地区	紀伊長島地区	443	広聴活動の充実 35.7	行政情報の提供・広報活動の充実 25.5	公共施設や公共サービスへの住民及び民間の参画 15.6
	海山地区	479	広聴活動の充実 34.7	行政情報の提供・広報活動の充実 26.9	コミュニティ活動等を活性化するための仕組みづくり 18.2

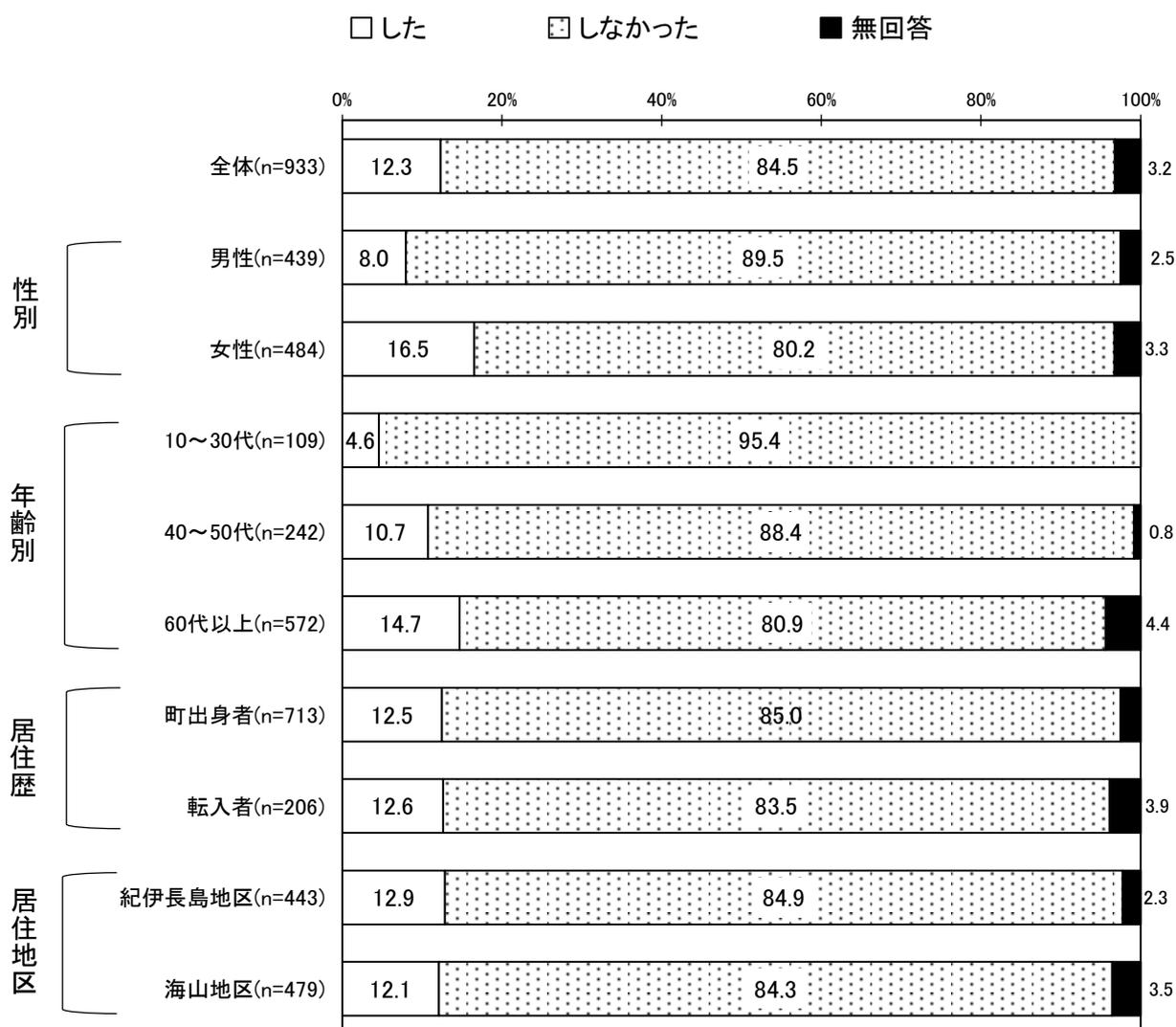
6. 日頃の行動などについて

(1) 生涯学習活動について

問16①あなたは、この1年間に、町の講座や教室等を利用した生涯学習活動をしましたか。

- 町の講座や教室等を利用した生涯学習活動については、「した」が12.3%、「していない」が84.5%となっています。
- 「した」と回答した割合をみると、性別では女性（16.5%）が男性（8.0%）の約2倍となっています。
- 年齢では、60代以上で14.7%、40～50代が10.7%、10～30代で4.6%となっており、年齢が上がるにつれて参加率が上昇します。
- 居住歴、居住地区でも、すべての層で「した」が1割強となっています。

生涯学習活動について（全体、性別、年齢、居住歴、居住地区）

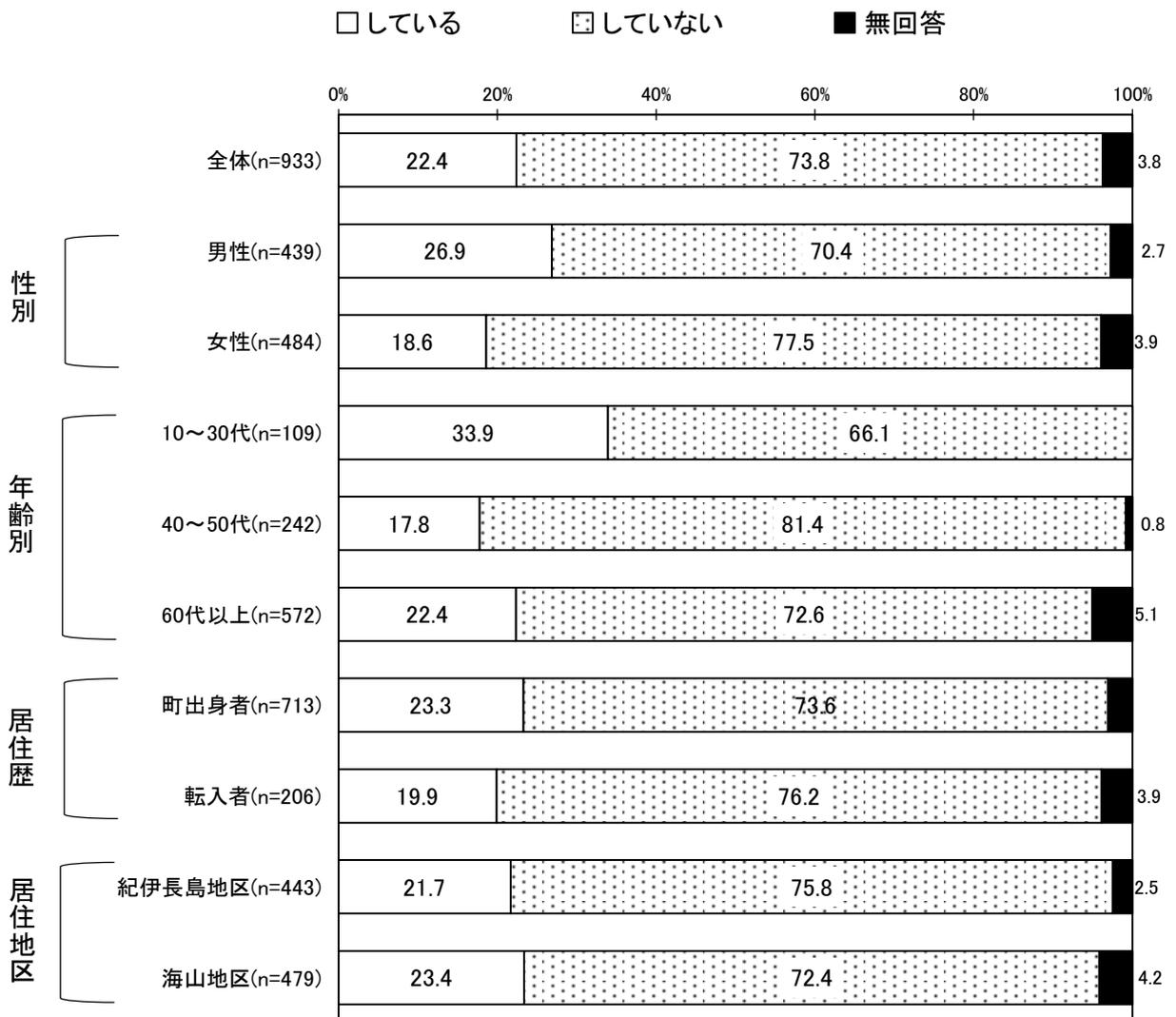


(2) スポーツ活動について

問16②あなたは、週1回以上、スポーツ活動をしていますか。

- 週1回以上、スポーツ活動については、「した」が22.4%、「していない」が73.8%となっています。
- 「した」と回答した割合をみると、性別では男性(26.9%)が女性(18.6%)を上回ります。
- 年齢では、10~30代で33.9%と3割を超え、60代以上で22.4%と2割を超えますが、40~50代では17.8%にとどまり、壮年層で運動習慣がやや低い傾向がみられます。
- 居住歴、居住地区でも、すべての層で「している」が2割前後となっています。

スポーツ活動について(全体、性別、年齢、居住歴、居住地区)

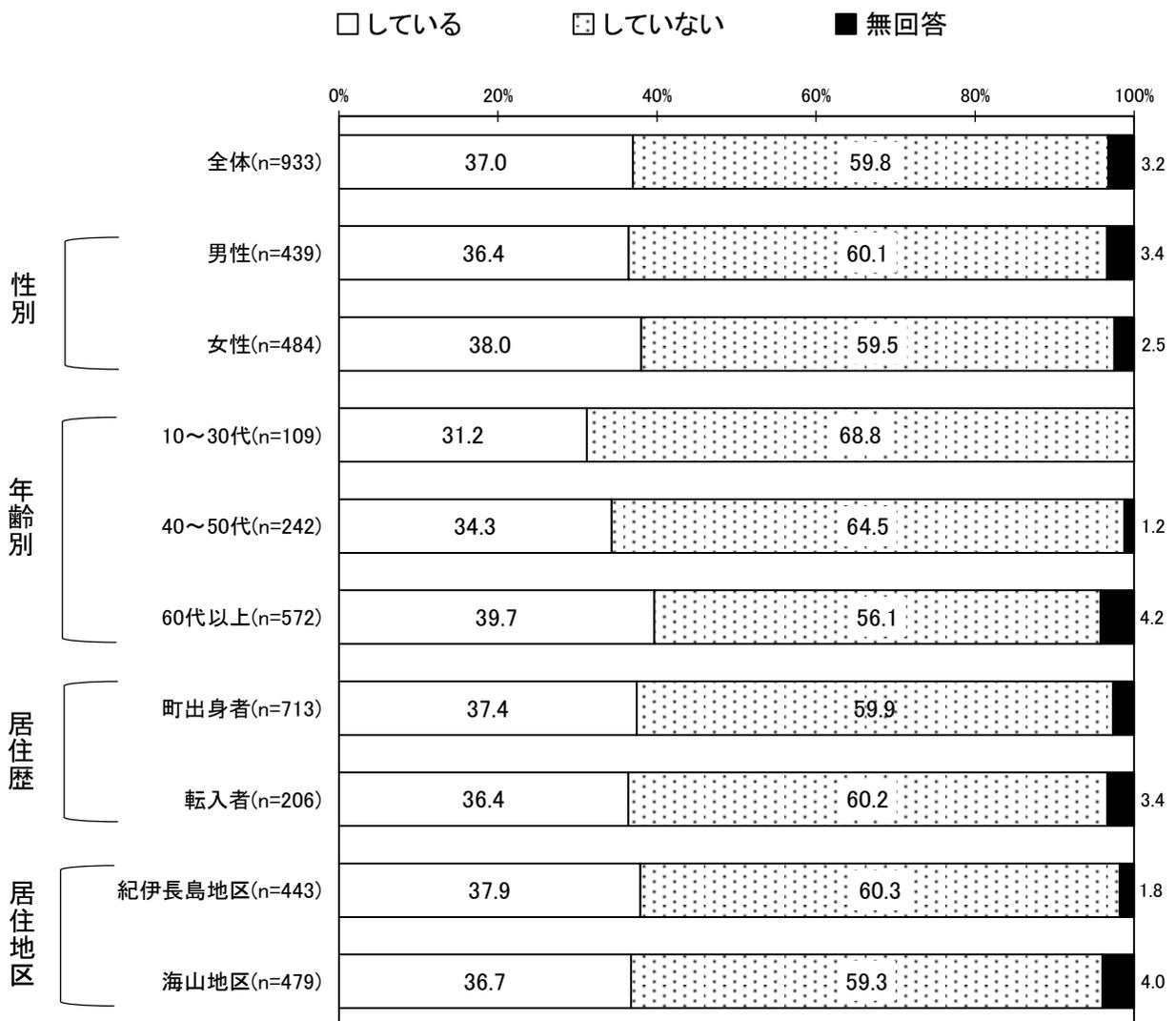


(3) 健康増進について

問16③あなたは、日常、健康増進のための取り組み（「ちょい減らし +10」、「きほく活活体操」、「健康ウォーキング」など食生活の改善や運動など）をしていますか。

- 健康増進のための取り組みについては、「している」が37.0%、「していない」が59.8%となっています。
- 「している」と回答した割合をみると、性別では女性では38.0%、男性では36.4%となっています。
- 年齢では、60代以上で39.7%と約4割を占め、40～50代で34.3%、10～30代で31.2%となっており、年齢が上がるにつれて取り組む割合が上昇します。
- 居住歴、居住地区でも、すべての層で「している」が3割半ばとなっています。

健康増進について（全体、性別、年齢、居住歴、居住地区）

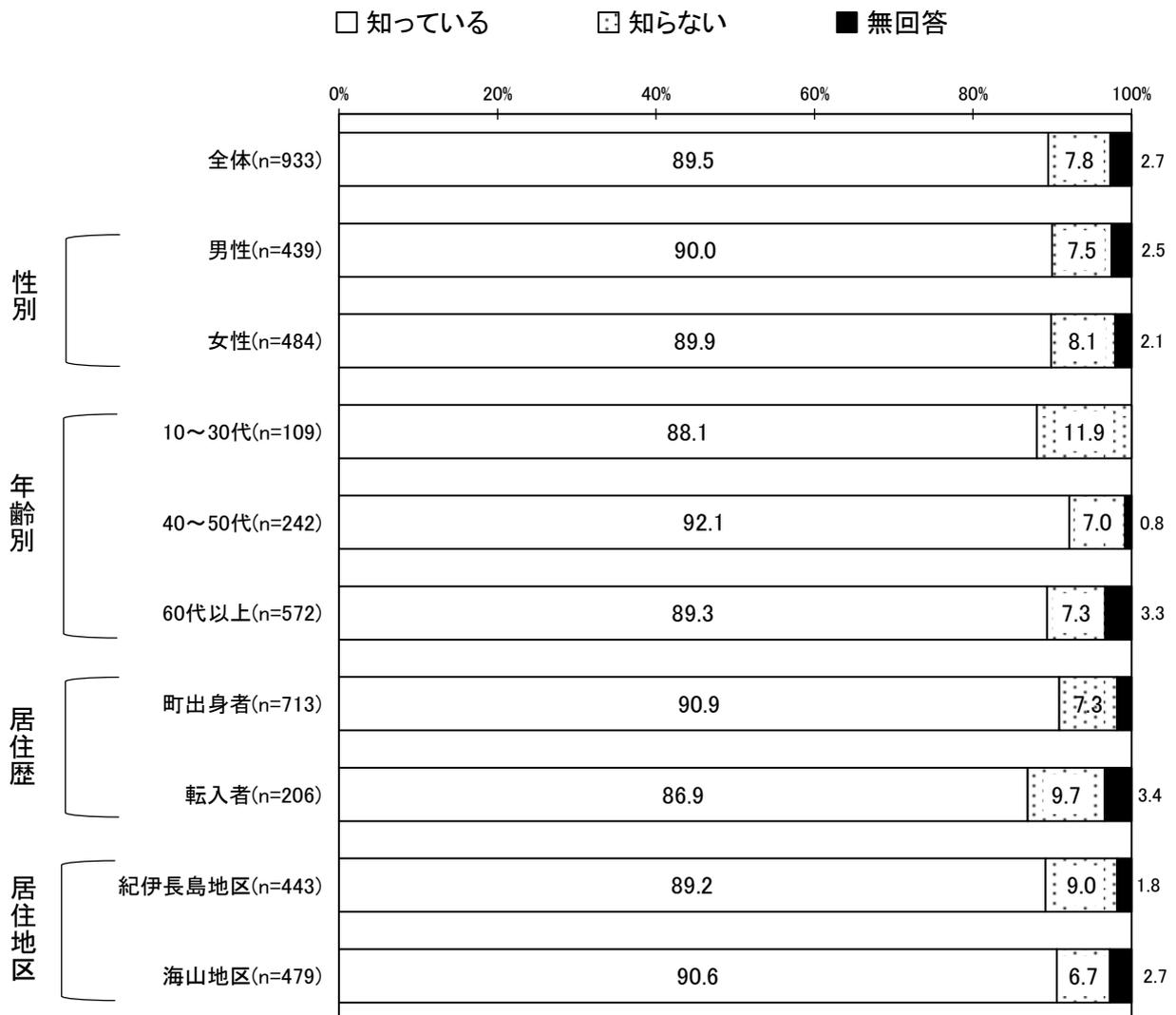


(4) 災害時の避難路・避難場所の認知度

問16④あなたは、災害時の避難路・避難場所を知っていますか。

- 災害時の避難路・避難場所の認知度については、「知っている」が89.5%と約9割となっており、「知らない」は7.8%にとどまります。
- 「知っている」と回答した割合を性別、年齢、居住歴、居住地区でみても、すべての層で「知っている」が9割前後となっています。

災害時の避難路・避難場所の認知度（全体、性別、年齢、居住歴、居住地区）

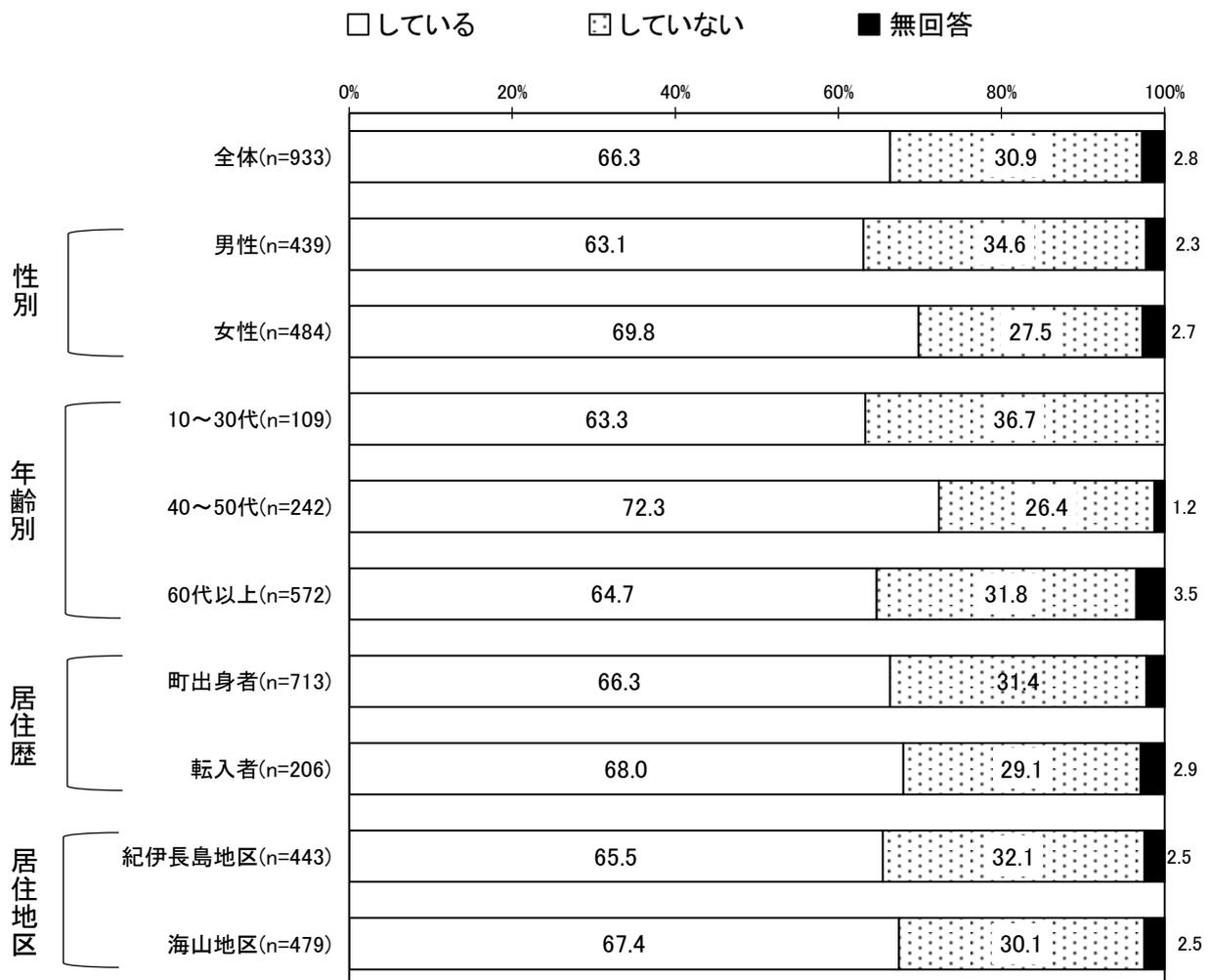


(5) 防災対策の取り組み

問16⑤あなたは、防災対策（食料・水の備蓄、家具の転倒防止など）をしていますか。

- 食料・水の備蓄、家具の転倒防止など防災対策の取り組みについては、「している」が66.3%、「していない」が30.9%となっています。
- 「している」と回答した割合をみると、性別では女性（69.8%）が男性（63.1%）を上回ります。
- 年齢では、40～50代が72.3%と7割を超え、60代以上で64.7%、10～30代で63.3%となっています。
- 居住歴、居住地区でも、すべての層で「している」が6割半ばから7割弱となっています。

防災対策の取り組み（全体、性別、年齢、居住歴、居住地区）

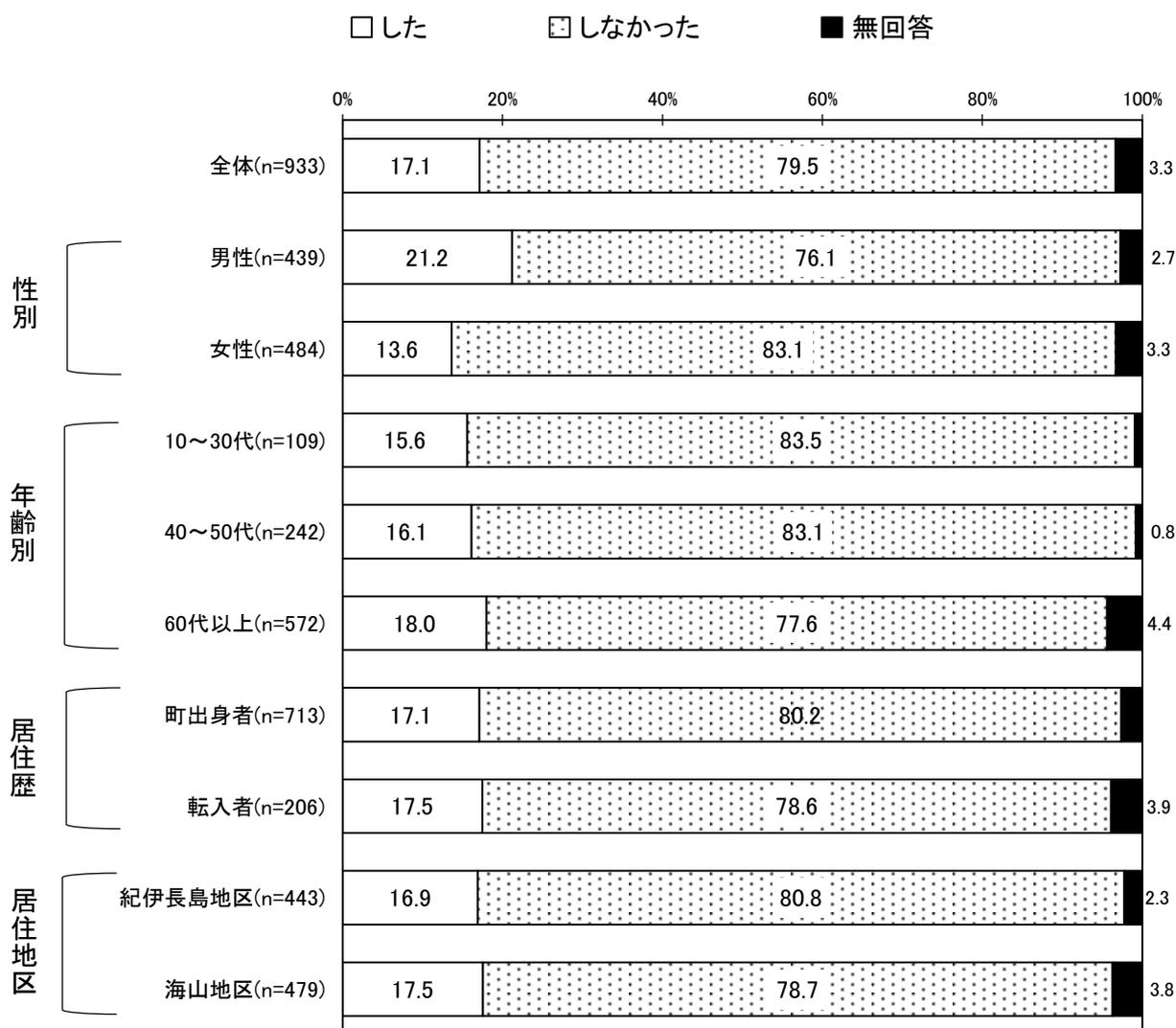


(6) 福祉活動への参加について

問16⑥あなたは、この1年間に、身近な地域での見守り、支え合いなど、福祉活動を行いましたか。

- 身近な地域での見守り、支え合いなど福祉活動については、「した」が17.1%、「していない」が79.5%となっています。
- 「した」と回答した割合をみると、性別では男性（21.2%）が女性（13.6%）を上回ります。
- 年齢では、60代以上で18.0%、40～50代が16.1%、10～30代で15.6%となっています。
- 居住歴、居住地区でも、すべての層で「している」が2割弱となっています。

福祉活動への参加について（全体、性別、年齢、居住歴、居住地区）

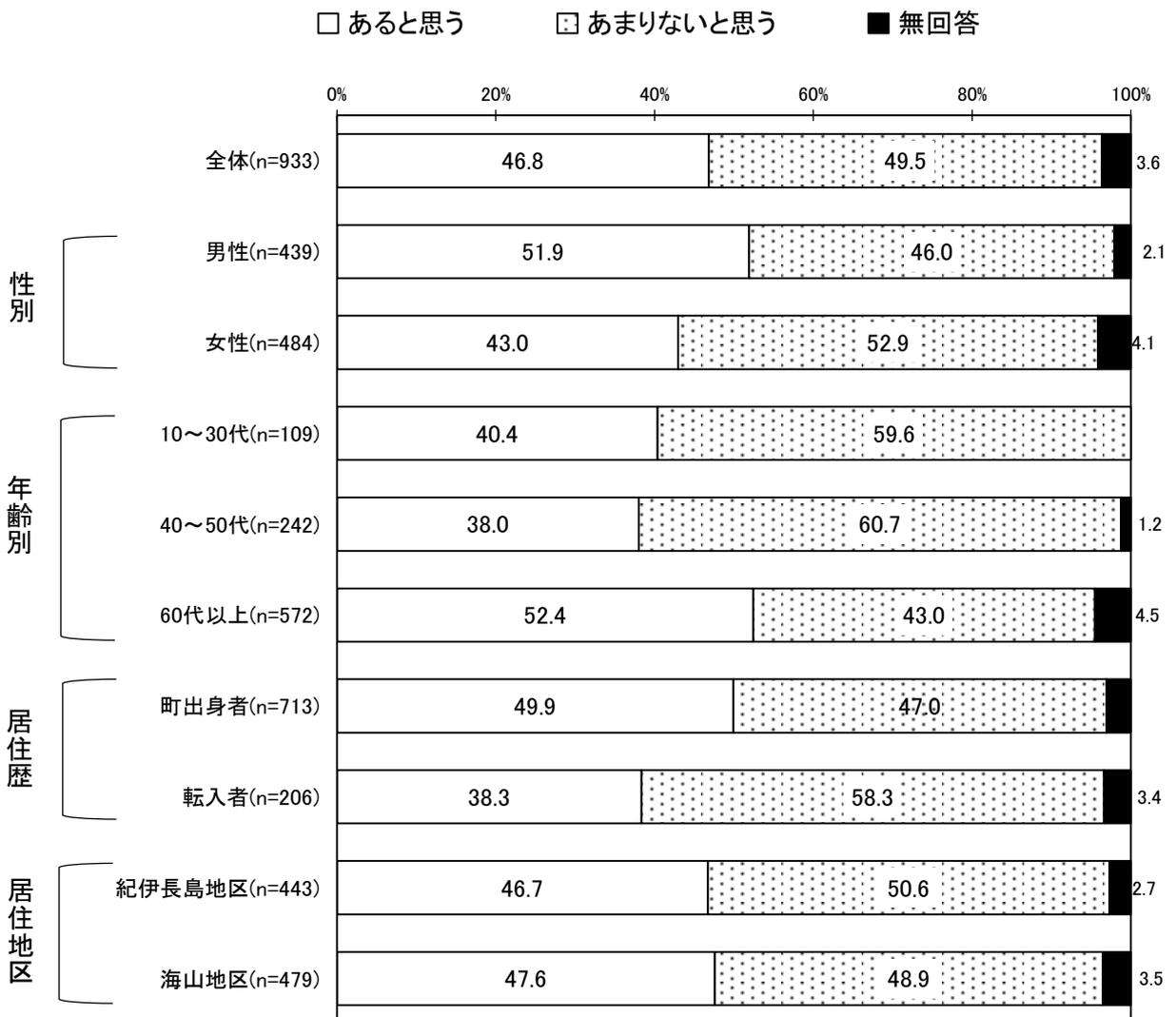


(7) 地域とのつながりについて

問16⑦あなた自身は、地域とのつながりがある方だと思いますか。

- 地域とのつながりの有無についてたずねたところ、「あると思う」が46.8%、「あまりないと思う」が49.5%となっています。
- 「あると思う」と回答した割合をみると、性別では男性(51.9%)が女性(43.0%)を上回ります。
- 年齢では、60代以上が52.4%で最も多く、10~30代が40.4%、40~50代が38.0%となっています。
- 居住歴では、町出身者(49.9%)が転入者(38.3%)を上回ります。
- 居住地区では、紀伊長島地区(46.7%)と海山地区(47.6%)がほぼ同率となっています。

地域とのつながりについて（全体、性別、年齢、居住歴、居住地区）

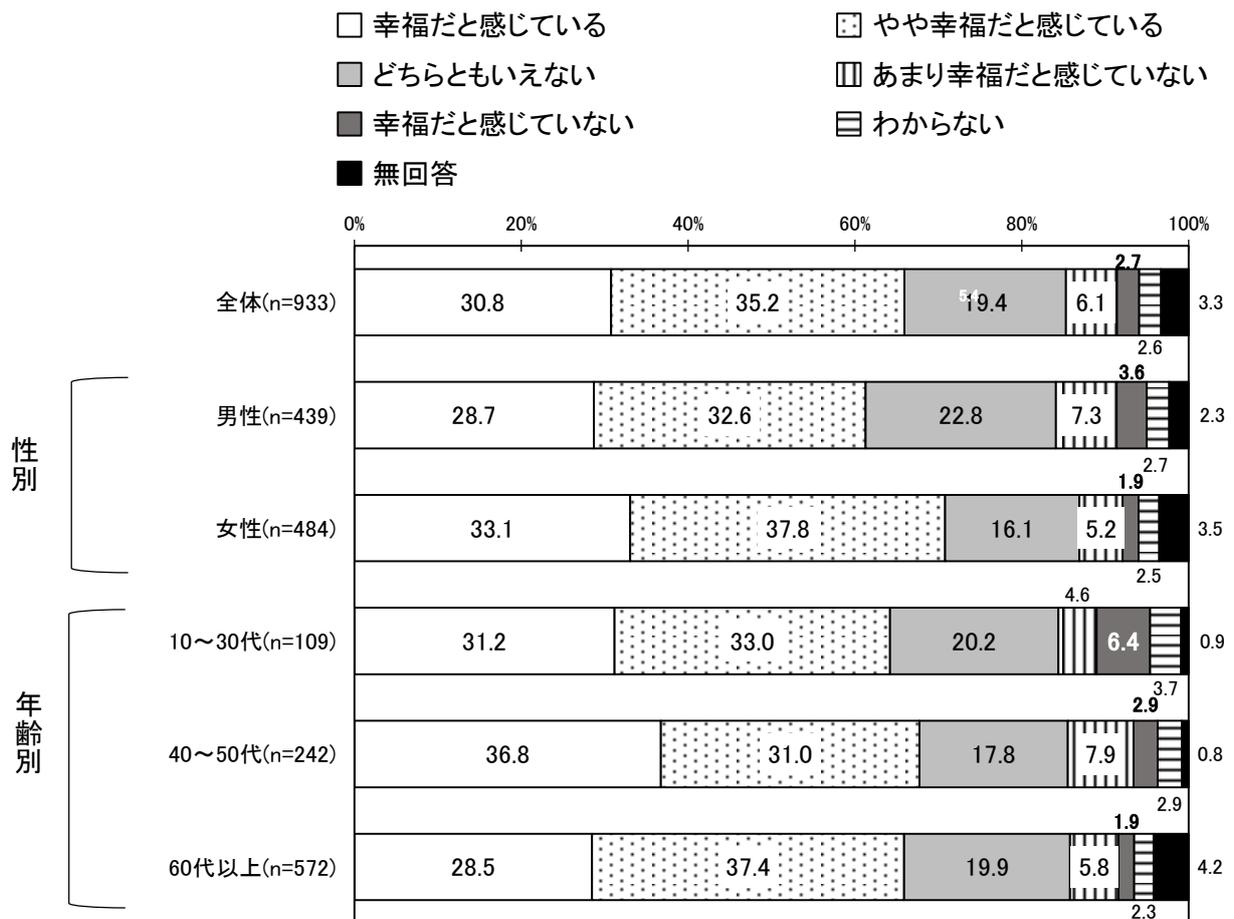


(8) 自己幸福感について

問16⑧あなた自身は、あなたは現在、どの程度幸福だと感じていますか。

- 現在、どの程度幸福だと感じているかについてたずねたところ、「やや幸福だと感じている」が 35.2%で最も多く、次いで「幸福だと感じている」が 30.8%で続き、これらをあわせた『幸福だと感じている』という人が 66.0%となっています。一方、『幸福だと感じていない』（「あまり幸福だと感じていない」6.1%及び「幸福だと感じていない」2.7%の合計）は 8.8%にとどまります。また、『どちらでもない』（「どちらともいえない」19.4%及び「わからない」2.6%の合計）は 22.2%となり2割強を占めています。
- 『幸福だと感じている』と回答した割合をみると、性別では、女性で 70.9%と男性の 61.3%を上回ります。
- 年齢では、40～50代で 67.8%、60代以上で 65.9%、10～30代で 64.2%となっています。

自己幸福感について（全体、性別、年齢）

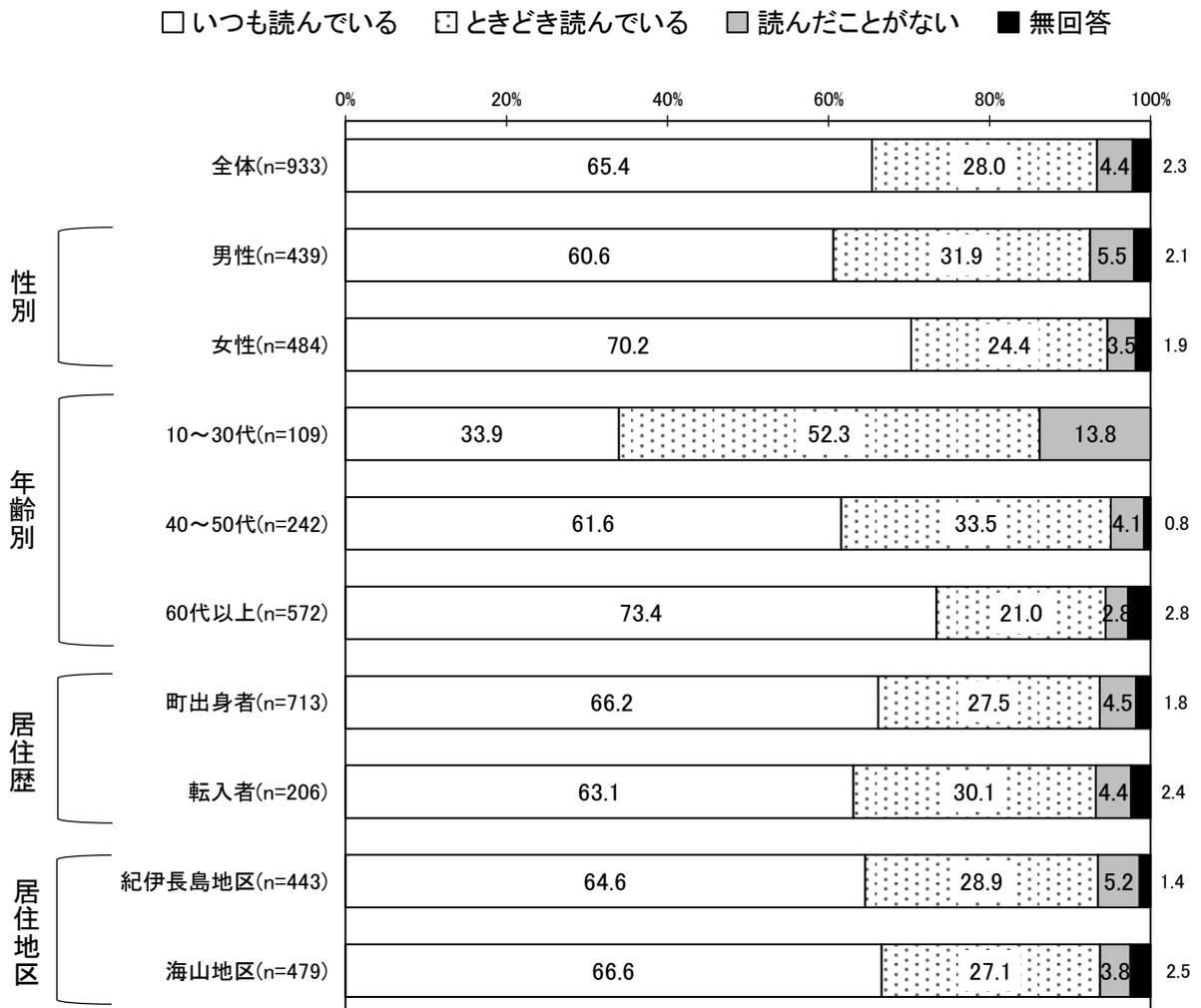


(9)「広報きほく」について

問16⑨あなたは、「広報きほく」を読んでいますか。

- 「広報きほく」については、「いつも読んでいる」が65.4%、「ときどき読んでいる」が28.0%と、これらをあわせた『読んでいる』が93.4%となっています。
- 『読んでいる』と回答した割合をみると、性別では女性(94.6%)、男性(92.5%)ともに9割を超えています。
- 年齢では、40～50代で95.1%、60代以上で94.4%と9割を超えますが、10～30代で86.2%とやや低くなっています。
- 居住歴、居住地区でみても、すべての層で『読んでいる』が9割を超えています。

「広報きほく」について（全体、性別、年齢、居住歴、居住地区）

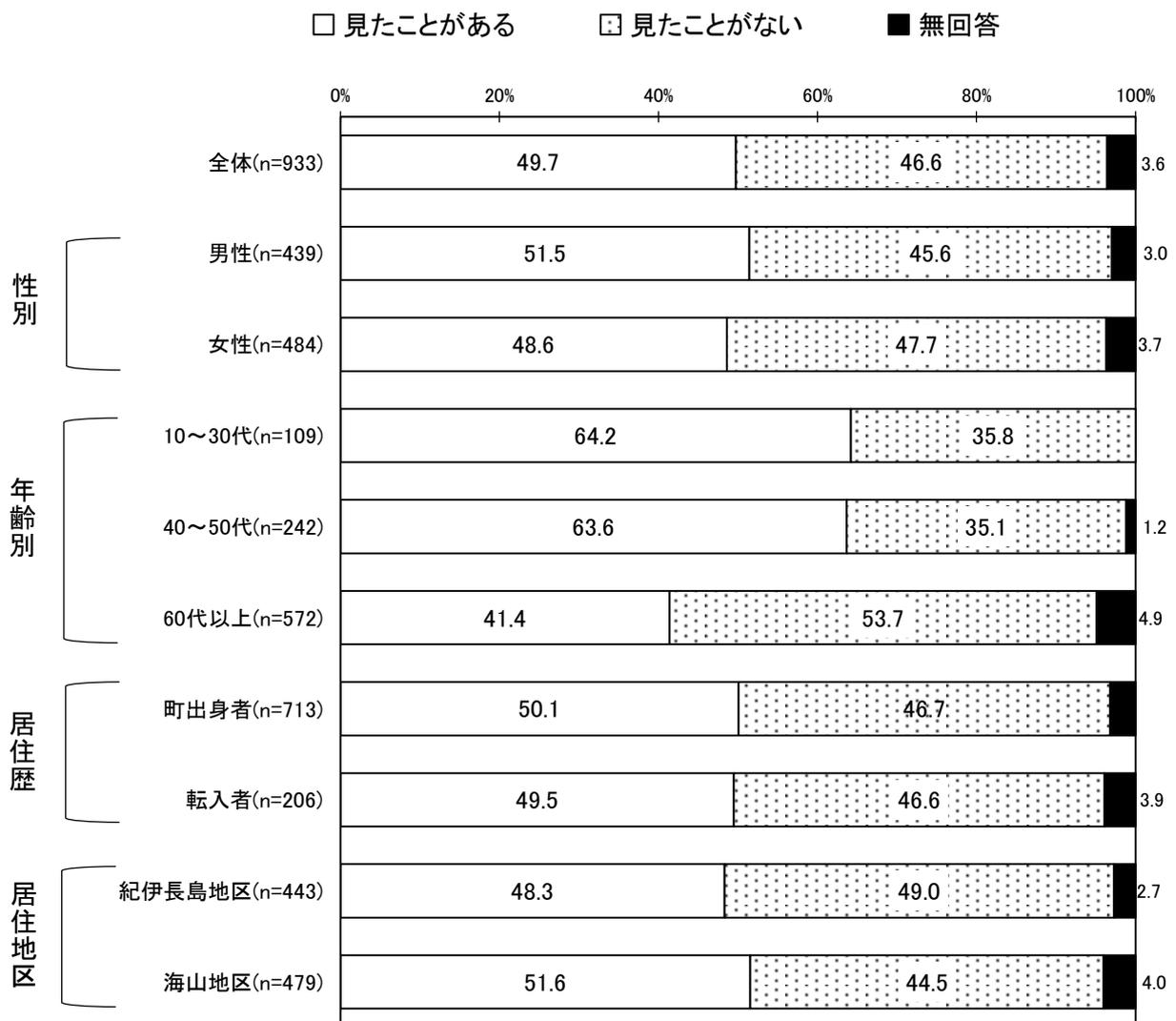


(10) 町のホームページについて

問16⑩あなたは、町のホームページを見たことがありますか。

- 町のホームページについては、「見たことがある」が49.7%、「見たことがない」が46.6%となっています。
- 「見たことがある」と回答した割合をみると、性別では男性（51.5%）、女性（48.6%）と、半数前後となっています。
- 年齢では、10～30代で64.2%、40～50代で63.6%と6割を超えますが、60代以上では41.4%にとどまります。
- 居住歴、居住地区でも、すべての層で「見たことがある」が半数前後となっています。

町のホームページについて（全体、性別、年齢、居住歴、居住地区）

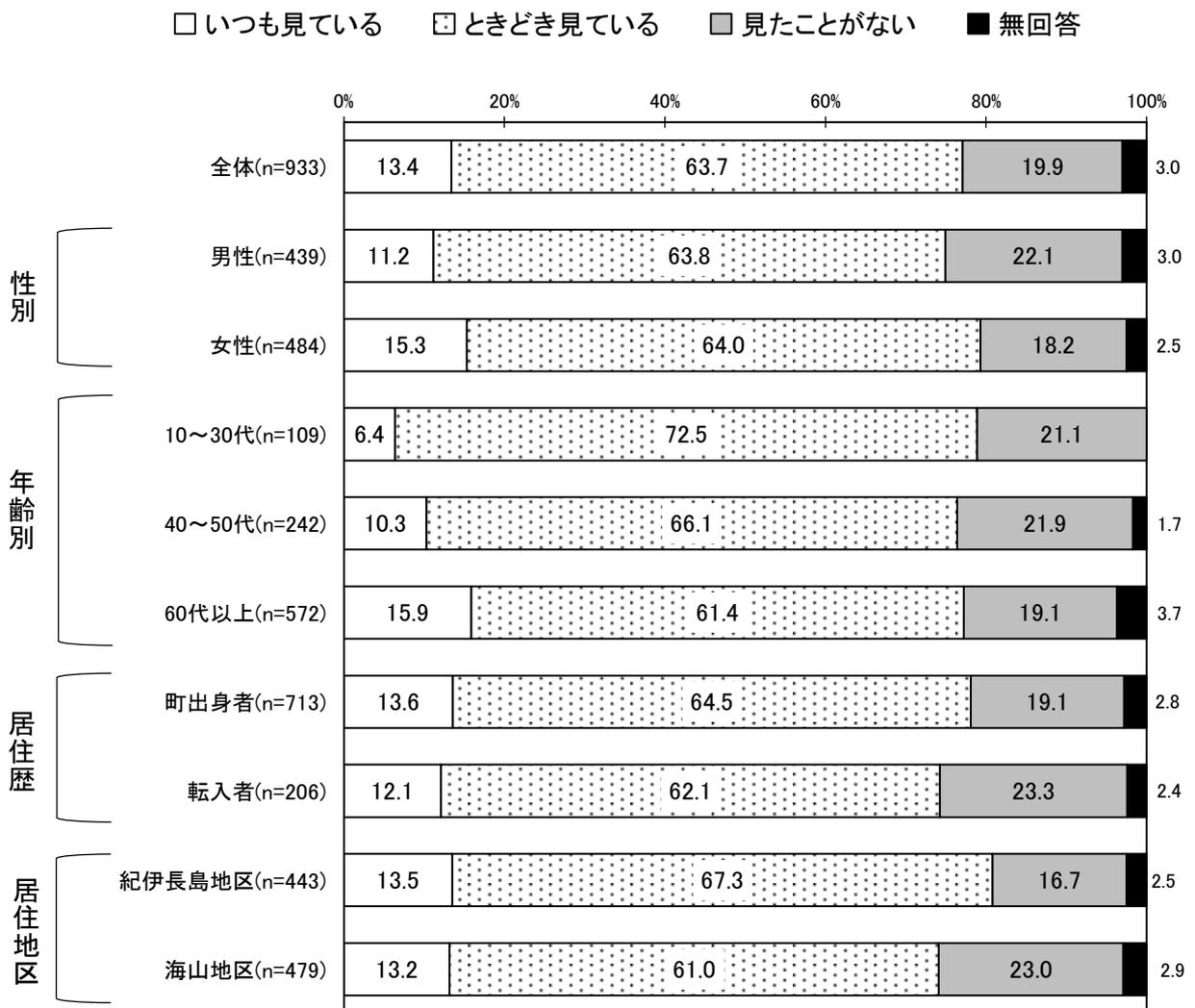


(11) 行政情報番組について

問16⑩あなたは、「行政情報番組ふるさと紀北町（ZTV）」を見ていますか。

- 行政情報番組については、「ときどき読んでいる」が63.7%、「いつも見ている」が13.4%と、これらをあわせた『見ている』が77.1%となっています。
- 『見ている』と回答した割合をみると、性別では女性（79.3%）が男性（75.0%）を上回ります。
- 年齢では、10～30代で78.9%、60代以上で77.3%、40～50代で76.4%と、7割半ばから8割弱となっています。
- 居住歴では、町出身者（78.1%）が転入者（74.2%）を上回っています。
- 居住地区では、紀伊長島地区（80.8%）が海山地区（74.2%）を上回っています。

行政情報番組について（全体、性別、年齢、居住歴、居住地区）



Ⅲ. 中学生アンケート調査結果

1. 町について

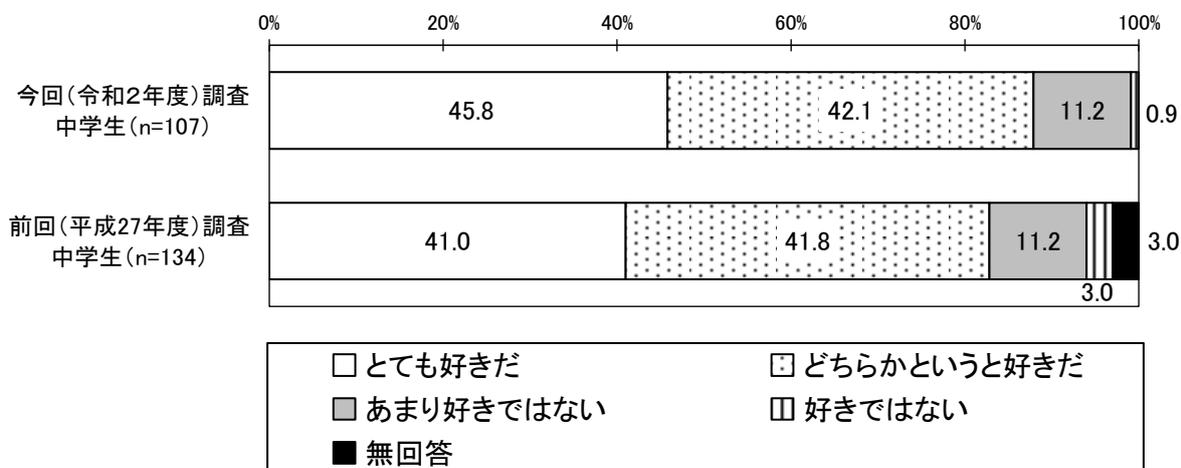
(1) 紀北町が好きか

問2 あなたは、紀北町が好きですか。

■紀北町が好きかどうかについてたずねたところ、「とても好きだ」が45.8%で最も多く、これに「どちらかという好きだ」(42.1%)をあわせた『好き』が87.9%となっています。これに対して、『好きではない』(「あまり好きではない」11.2%及び「好きではない」0.9%の合計)は12.1%となっています。

◆前回調査と比較すると、『好き』は前回調査の82.8%から今回調査の87.9%へ約5ポイント増加し、『好きではない』は前回調査の14.2%から今回調査の12.1%へ減少しています。

紀北町が好きか（全体／性別、学年別）



(単位：%)

	『好き』	『好きではない』
今回(令和2年度)調査：中学生(n=107)	87.9	12.1
前回(平成27年度)調査：中学生(n=134)	82.8	14.2

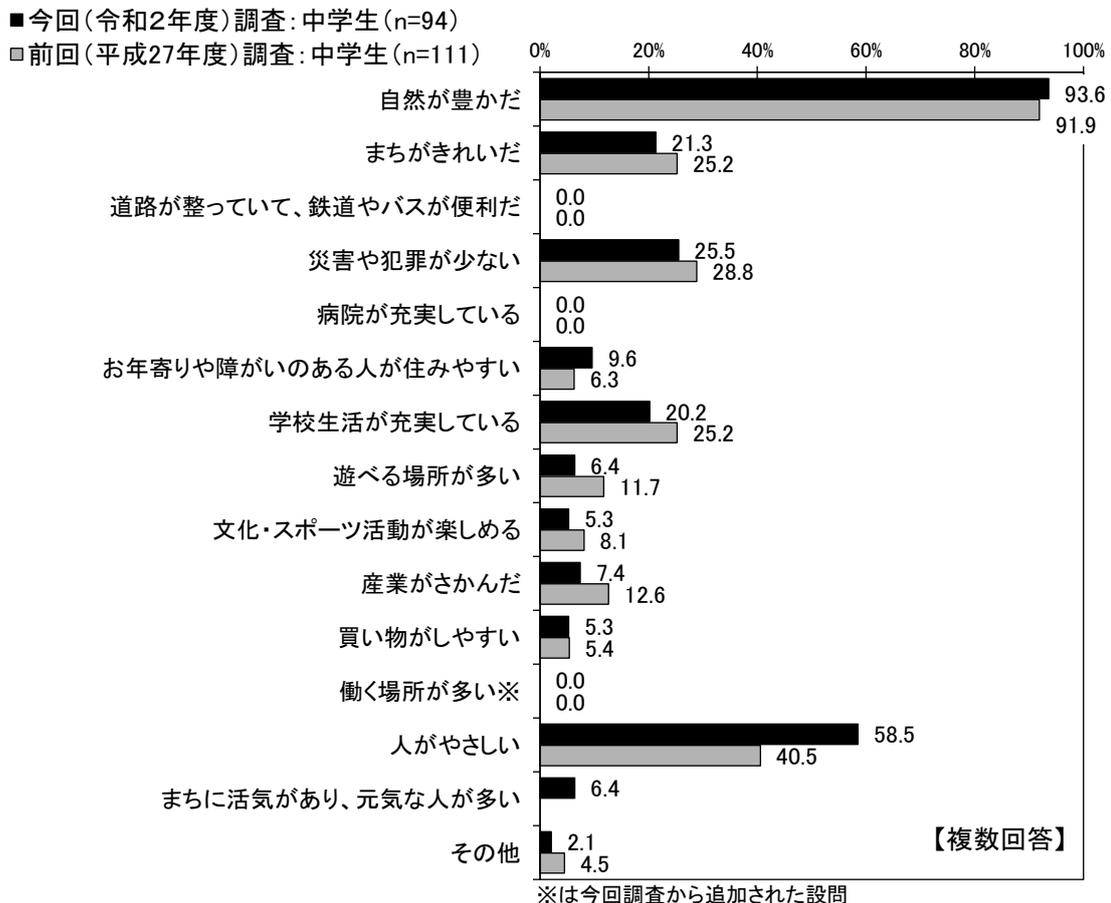
(2) 町の好きなところ

問2で「1」または「2」(好き)に○をつけた方におたずねします。
 問2付問① あなたは、紀北町のどんなところが好きですか。【複数回答】

■町の好きなところについては、「自然が豊かだ」(93.6%)が他を大きく引き離して第1位に挙げられ、次いで「人がやさしい」(58.5%)、「災害や犯罪が少ない」(25.5%)、「まちがきれいだ」(21.3%)、「学校生活が充実している」(20.2%)などの順となっています。

◆前回調査と比較すると、前回調査と同様に「自然が豊かだ」が他を大きく引き離して第1位に挙げられ、また、「人がやさしい」も第2位となっており、前回調査よりも割合が18ポイント増加しています。

町の好きなところ(全体/複数回答、『好き』と回答した人のみ)



町の好きな場所・もの(自由記述)

銚子川(同意見11件)、役場(同意見3件)、山、海山の児童図書館、引本の浜、多目的広場、権兵衛の里、引本小学校、引本幼稚園、片上池沿いの道、焼き鳥屋、紀北町図書館、魚、川、コンビニ、かわいい女の子のキャラクター

(3) 紀北町が好きでない理由

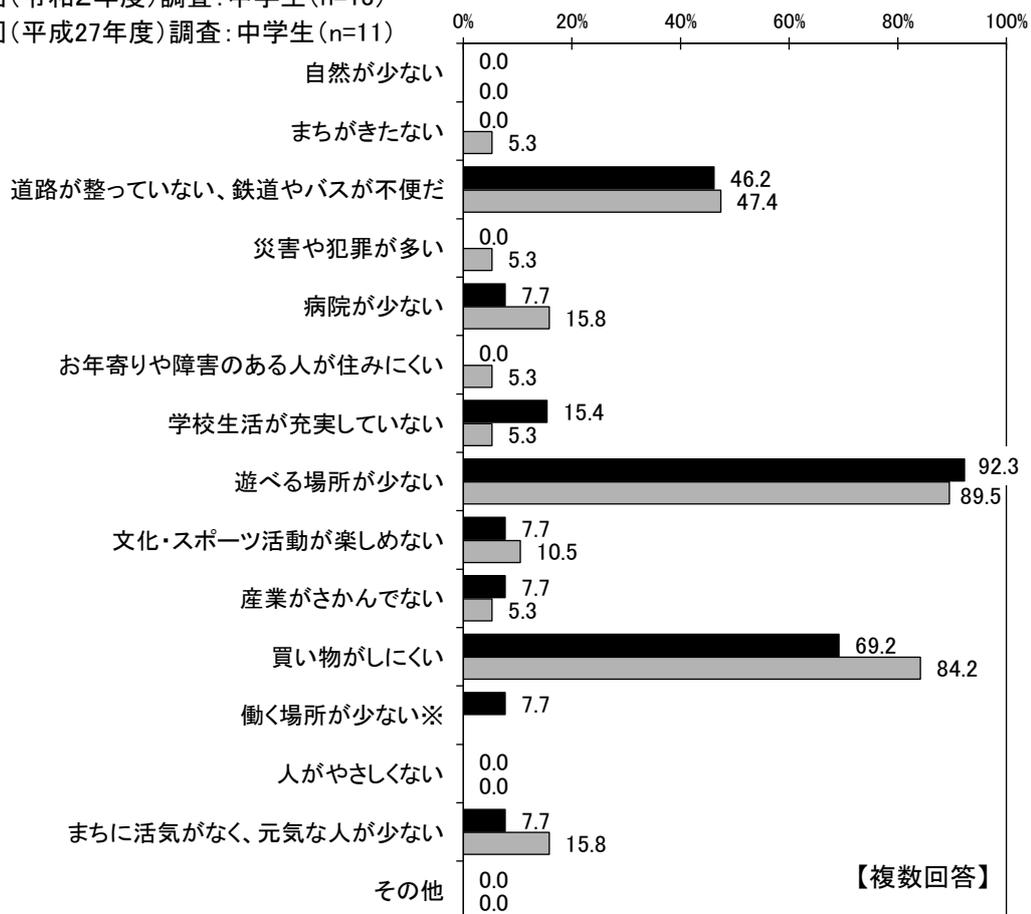
問2で「3.」または「4.」に○をつけた人にかがいます。
 問2付問② 好きではない理由はなんですか。【複数回答】

■好きではない理由については、「遊べる場所が少ない」(92.3%)が他を引き離して第1位に挙げられ、次いで「買い物がしにくい」(69.2%)、「道路が整っていない、鉄道やバスが不便だ」(46.2%)などの順になっています。

◆前回調査と比較すると、前回調査と同様に「遊べる場所が少ない」、「買い物がしにくい」及び「道路が整っていない、鉄道やバスが不便だ」が上位を占めていますが、「買い物がしにくい」は前回調査の84.2%から15ポイント減少しています。

好きではない理由について（全体／複数回答、『好きではない』と回答した人のみ）

■今回(令和2年度)調査:中学生(n=13)
 □前回(平成27年度)調査:中学生(n=11)



※は今回調査から追加された設問

2. 今後のまちづくりについて

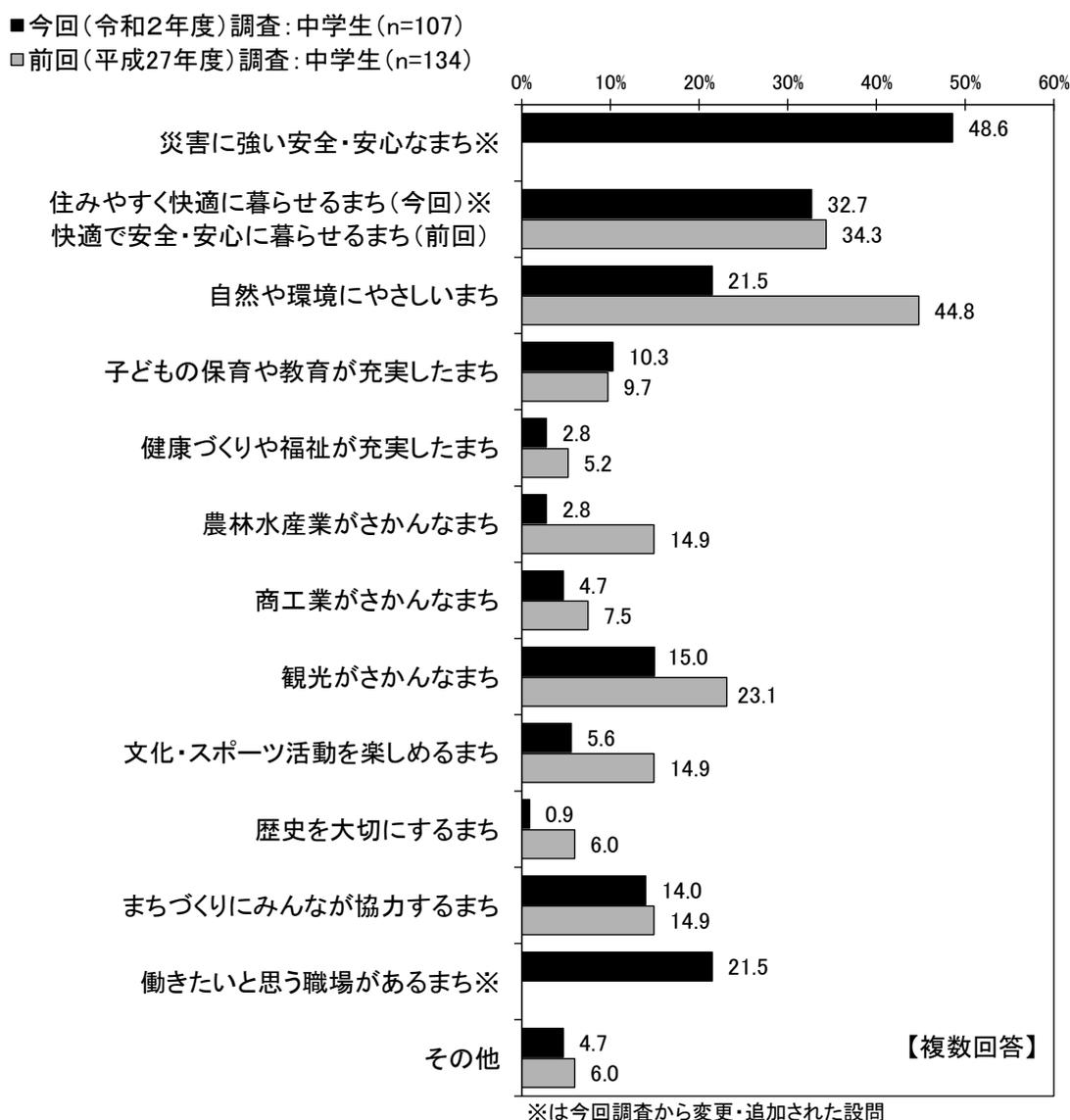
(1) 将来のまちの姿

問3 あなたは、今後、紀北町はどんなまちになってほしいと思いますか。【複数回答】

■紀北町が将来どんなまちになってほしいかについては、「災害に強い安全・安心なまち」(48.6%)が第1位に挙げられ、次いで「住みやすく快適に暮らせるまち」(32.7%)、「自然や環境にやさしいまち」及び「働きたいと思う職場があるまち」(同率21.5%)などの順となっています。

◆前回調査と選択肢を変更しているため、単純に比較はできませんが、前回調査で最も多かった「快適で安全・安心に暮らせるまち」への意向が、今回調査では、「災害に強い安全・安心なまち」へ移行しているとうかがえます。

将来のまちの姿について（全体／複数回答）



(2) 町で自慢できること

問4 紀北町であなたが自慢できることは何ですか。なんでもかまいません。具体的に下の枠内に2つまで書いてください。

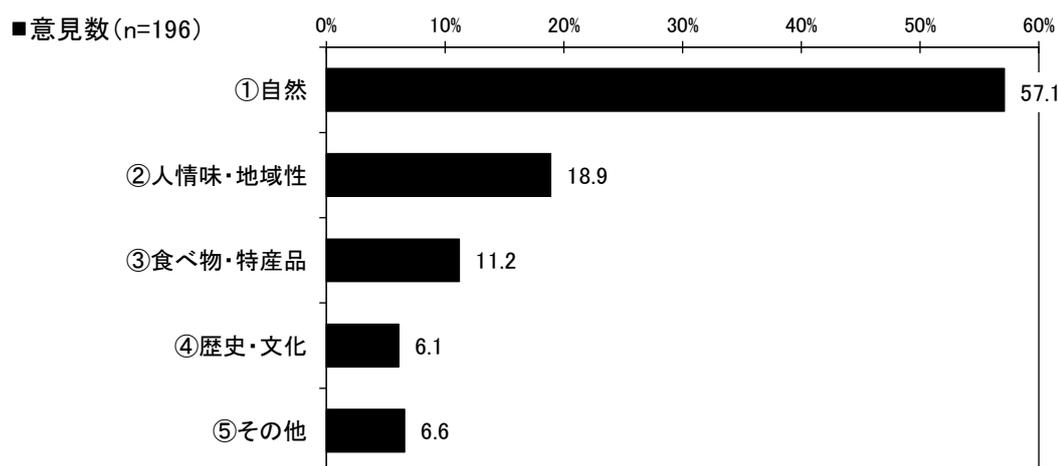
■「自然」に関する自慢が最も多く、次いで「人情味・地域性」が続きます。

紀北町の自慢できることについて記入された意見を集約すると自慢は196件となっています。集約した自慢を「①自然」、「②人情味・地域性」、「③食べ物・特産品」、「④歴史・文化」、「⑤その他」という5分野に区分し、件数・自慢の内容をまとめると次のとおりとなります。

町で自慢できること（全体）

区 分	件数	%
①自然（銚子川、自然が豊か、山・川・海全部きれい 等）	112	57.1
②人情味・地域性（人がやさしい、親切な人が多い 等）	37	18.9
③食べ物・特産品（魚がおいしい、食べ物がおいしい 等）	22	11.2
④歴史・文化（熊野古道、世界遺産がある 等）	12	6.1
⑤その他	13	6.6
合計	196	100

町で自慢できること（全体）

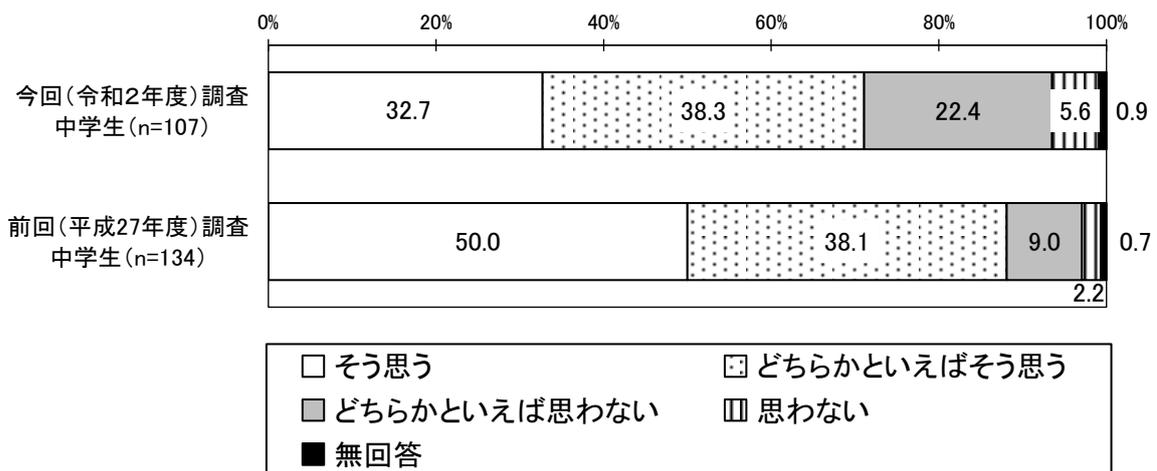


(3) 将来、町に戻ってきたいか

問5 あなたは、これから先、就職や進学で紀北町を離れたとしても、また紀北町に戻ってきたいと思いませんか。

■町を離れたとしても、また町に戻ってきたいかについては、「どちらかといえばそう思う」が38.3%で最も多く、これに「そう思う」(32.7%)をあわせた『戻りたい』が71.0%となっています。これに対し、『戻りたくない』(「どちらかといえば思わない」22.4%及び「思わない」5.6%の合計)が28.0%となっています。
 ◆前回調査と比較すると、『戻りたい』は前回調査の88.1%から今回調査の71.0%へ約17ポイント減少し、『戻りたくない』は前回調査の11.2%から今回調査の28.0%へ2.5倍の増加となっています。

将来、町に戻ってきたいか（全体、前回調査との比較）



(単位：%)

	『戻りたい』	『戻りたくない』
今回 (令和2年度) 調査：中学生 (n=107)	71.0	28.0
前回 (平成27年度) 調査：中学生 (n=134)	88.1	11.2

IV. 調査結果の考察

1. 住民アンケートの調査について

(1) 回答者の属性について

回答者は高齢化の進行を反映した結果となっており、年齢別の「60代以上」が6割以上を占め、全体の回答結果に影響しています。

(2) 町の住みやすさについて

町の住みやすさについては、『住みやすい』が82.8%と8割を超える一方、『住みにくい』は14.7%にとどまり、『住みやすい』が『住みにくい』の5.6倍となっています。また、年齢別の10～30代では『住みやすい』が72.4%と7割を超えるものの比較的低く、『住みにくい』は27.6%と最も多くなっています。

町の魅力については、「自然環境が豊かである」が最も多く、次いで「ごみ処理、水道などの生活環境が整っている」、「人情味や地域の連帯感がある」が上位に挙げられ、属性別でも、上位回答に大きな差がないことから、こうした点が共通の町の特性として認識されていることがうかがえます。

(3) 定住意向について

今後の定住意向については、『住み続けたい』が84.9%と8割を超える一方、『住みたくない』は13.5%にとどまり、『住み続けたい』が『住みたくない』の6.3倍となっています。また、住みやすさと同様に、年齢別の10～30代では『住み続けたい』が74.3%と7割を超えるものの比較的低く、『住みたくない』が25.7%と最も多くなっています。こうした比較的若い層の定住意向を上げていくことが、今後の定住・移住対策で重要になります。

住みたくない理由については、「道路・交通の便が悪い」が第1位に挙げられ、次いで「保健・医療環境が不十分」、「働く場が不十分」、「買い物の便が悪い」などが続きますが、年齢別の10～30代では「働く場が不十分」が第1位の回答となっており、若い層の定住対策として雇用の場が大きな課題となっていることがうかがえます。

(4) 町の現状と今後の取り組みについて

町の各環境に対する満足度・重要度については、満足度が低く、重要度が高く優先的な対応が必要な項目として、重要度の高い順から「1-①自然災害からの安全性」、「2-①保健・医療の状況」、「3-①買い物の便利さ」、「2-②福祉の状況」、「1-②防犯・交通安全の状況」、「3-②就労環境」、「4-③子どもの教育環境」、「1-⑩道路の整備状況」、「1-⑪公共交通の便利さ」、「2-③子育て環境」となっており、重要度を前回調査と比較しても、前回調査で重要度の最も高い「1-①自然災害からの安全性」が今回調査でも重要度が最も高く、ポイントも上昇しており、防災対策が引き続き重点施策であることがうかがえます。

今後のまちづくりの特色については、「災害に強い安全・安心なまち」が第1位に挙げられ、次いで「健康・福祉のまち」が続き、防災、健康福祉を軸としたまちづくりへの関心が強い結果となっています。また、年齢別の10～30代では、「子育て・教育のまち」と回答する割合が多く、子育て世代では子育て支援や教育に対する要望が強い結果となっています。

(5) 分野別の取り組みについて

防災対策については、属性別でみてもすべての層で「避難場所の整備充実と周知」が第1位となっており、津波による被害が危惧される地域であることから、津波からの避難対策の充実が求められています。

定住対策については、属性別でみても、ほとんどの層で「若者が働きたいと思う雇用の場の確保」が第1位と雇用の場の確保が重視されていますが、年齢別の10～30代では「子どもを産み育てやすい環境づくり」が第1位に挙げられ、子どもを持つ世代では子育て支援などに対する期待が強い傾向がみられます。

環境については、「海岸、河川などの水辺の保全」が最も多く、地域の誇りであり、地域資源である自然環境の保全意識が強い傾向がみられます。

地域福祉については、「身近な移動手段の確保・充実」や「地域での高齢者などへの見守り活動」が上位に挙げられ、高齢化とともに、ひとり暮らし高齢者や高齢者夫婦世帯の増加が進む中、住み慣れた地域での安心な暮らしに欠かせない移動手段と見守り対策の充実が必要になっています。

観光・交流については、「海・山・川を生かした体験型観光の充実」、「世界遺産熊野古道など地域の歴史を生かした観光の振興」など、地域資源を生かした体験型の観光振興が支持されています。

(6) コミュニティ活動、参画・協働について

コミュニティ活動等への参加状況と参加意向については、『現在参加している』は20.1%となっていますが、『今後参加したい』は41.3%と潜在的な地域活動への参加希望者が多く、特に40～50代で46.7%と最も多くなっており、地域のコミュニティ機能が低下する中、コミュニティ活動やボランティア活動の活性化に取り組む必要があることから、参加しやすい環境づくりが重要となります。

町民参画・協働のまちづくりに必要なことは、「広聴活動の充実」、「行政情報の提供・広報活動の充実」が上位となっており、行政情報をわかりやすく伝えるため、広報紙やホームページの内容の充実と多様な媒体による広報活動に取り組むとともに、町政について住民と意見交換する機会の確保・充実が求められています。

(7) 日頃の行動などについて

生涯学習活動については、60代以上での活動が多い傾向にあり、高齢者の生きがい対策として引き続き充実を図る必要があります。

スポーツ活動については、40～50代の取り組みがやや低く、壮年層の運動不足が指摘される

中、生活習慣病予防のためにも運動の習慣づけが重要となります。また、健康増進についての取り組みは、年齢が上がるにつれて取り組む割合が上昇しており、生活習慣病予防、介護予防のためにも、運動習慣とあわせて一層の普及が必要となっています。

災害時の避難路・避難場所の認知度は、属性別でみてもすべての層で9割前後と非常に高くなっていますが、食料・水の備蓄、家具の転倒防止など防災対策の取り組みは6割台にとどまり、家庭での防災対策を啓発していく必要があります。

福祉活動への参加については、身近な地域での見守り、支え合いなどをした人が2割弱にとどまり、地域福祉の設問では「地域での高齢者などへの見守り活動」の必要性を認識しつつも、実際の活動には結びついていない現状がみられます。

地域とのつながりについては、10～30代、40～50代でやや低くなっており、地域でのつながりが低下していく傾向がみられます。

自己幸福感については、『幸福だと感じている』という人が66.0%となっています。

「広報きほく」については、9割以上の人が読んでおり、今後も、行政情報の提供手段として重要な役割を担っていることから、わかりやすい紙面づくりなど一層の充実が必要となっています。

町のホームページについては、10～30代、40～50代で6割を超え、比較的若い世代では行政情報の入手方法として活用されており、ホームページの充実ともに、SNSの活用など情報提供方法を充実させていく必要があります。

行政情報番組については、『見ている』が77.1%と8割弱と若い世代から高齢者まで視聴されている結果となっており、今後も内容の充実を図っていく必要があります。

2. 中学生アンケート調査結果について

(1) 町について

紀北町が好きかどうかについては、9割弱の生徒が、紀北町を『好き』と回答し、前回調査より『好き』と回答する割合が前回調査の82.8%から今回調査の87.9%へ約5ポイント増加しています。

好きなところについては、「自然が豊かだ」が他を大きく引き離して第1位に挙げられ、次いで「人がやさしい」が続き、関連する設問（町で自慢できるところ）でも、「自然」、「人情味・地域性」が上位に挙げられるなど、「自然環境」と「人情味や地域の連帯感」が地域の誇りとして認識していることがうかがえます。

一方、好きでない理由としては、「遊べる場所が少ない」、「買い物がしにくい」が続き、身近な遊び場や買い物ができる場所が少ないことが不満点となっています。

(2) 今後のまちづくりについて

将来のまちの姿については、「災害に強い安全・安心なまち」が最も多く、住民アンケート調査と同様に、防災対策への関心が強く、今後も継続して取り組む必要があるといえます。

町で自慢できる場所として、「自然」、「人情味・地域性」、「食べ物・特産品」、「歴史・文化」

などが挙げられ、銚子川や山・川・海のある環境、人のやさしさ、魚や食べ物、熊野古道などが地域の誇りとして挙げられており、こうした地域資源や地域性を生かし、伸ばす視点からまちづくりを進める必要があります。

町を離れたとしても、また町に戻ってきたいかをたずねた結果、『戻りたい』（「どちらかといえばそう思う」38.3%と「そう思う」32.7%の合計）が71.0%と、前回調査の88.1%から約17ポイント減少しており、町を『好き』と思う生徒が増加する一方で、若い層が町に戻ってきたいと思える環境づくりが必要です。

資料：調查票

1. 住民アンケート調査票

紀北町まちづくりアンケート調査 ご協力のお願い

町民の皆さまには、日頃から町政に対し格別のご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、このたび紀北町では、新しいまちづくりを進めるための指針となる「紀北町第2次総合計画後期基本計画」及び「第2期紀北町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定することになりました。

本調査は、これら新しい計画の策定にあたり、町民の皆さまのご意見をお聞かせいただき、これからのまちづくりを考える貴重な資料とするために実施するもので、16歳以上の町民の皆さまの中から、2,000名を無作為に抽出し、ご回答をお願いすることになりました。

お忙しいところ恐縮ですが、今後のまちづくりを、皆さまとともに考えていきたいと思っておりますので、調査の目的、趣旨をご理解の上、率直なご意見をお聞かせください。

令和2年10月

紀北町長 尾上 壽一

ご記入にあたってのお願い

1. ご回答は、封筒のあて名のご本人がお答えください。
2. 黒の鉛筆またはボールペンでご記入ください。
3. 回答は、あてはまる番号を○で囲んでください。設問ごとに（1つに○）、（あてはまるものすべてに○）などと指定してありますので、それにしたがってご回答ください。
4. 設問によっては、該当する番号に○をつけた方だけにお答えいただく設問がありますので、その説明にしたがってご回答ください。
5. ご記入いただいたアンケートは **10月30日（金）まで** に同封の返信用封筒に入れて返送してください。（切手は不要です。）
6. この調査票についてのお問い合わせは、下記をお願いします。

紀北町役場 企画課

電話：0597-46-3113 FAX：0597-47-5908

あなたご自身のことについて

問1 あなたご自身のことについて、それぞれの項目ごとにお答えください。

(①～⑥それぞれ1つに○)

①あなたの性別 (お答えにくい場合は3)	1. 男性 2. 女性 3. その他
②あなたの年齢	1. 10代 2. 20代 3. 30代 4. 40代 5. 50代 6. 60代 7. 70歳以上
③あなたの職業 ※主たるもの	1. 農林水産業 2. 製造業・建設業 3. 卸小売・飲食業 4. その他サービス業等 (公務員を含む) 5. 主婦(夫) 6. 無職 7. 学生、その他
④あなたの家族構成	1. 1人世帯 2. 夫婦のみ 3. 2世代家族(親と子) 4. 3世代家族(親と子と孫) 5. その他()
⑤あなたの居住歴	1. 紀北町に生まれてからずっと住んでいる 2. 紀北町出身だが、紀北町以外での居住経験がある 3. 県内の他市町から転入してきた 4. 県外から転入してきた
⑥あなたの お住まいの地区	1. 三浦・道瀬・古里・海野地区 2. 長島地区 3. 東長島地区 4. 島原・大原・十須地区 5. 相賀・小山浦・便ノ山・小浦地区 6. 矢口浦・引本浦地区 7. 白浦・島勝浦地区 8. 馬瀬・河内・上里・中里・船津地区

愛着度・定住意向について

問2 あなたにとって、紀北町は住みやすいまちですか。 (1つに○)

1. 住みやすい
2. どちらかといえば住みやすい
3. どちらかといえば住みにくい
4. 住みにくい

問3 あなたは、紀北町のどのようなところに魅力を感じていますか。 (3つまで○)

- | | |
|------------------------------------|---------------------|
| 1. 自然環境が豊かである | 9. 保健・医療環境が整っている |
| 2. ごみ処理施設や生活排水処理、水道施設などの生活環境が整っている | 10. 買い物の便がよい |
| 3. 道路・交通の便がよい | 11. 働きたいと思う職場がある |
| 4. 情報通信網が整っている | 12. 活力ある地場産業がある |
| 5. 消防・防災・防犯体制が整っている | 13. 人情味や地域の連帯感がある |
| 6. 文化・スポーツ環境が整っている | 14. 行政サービスが充実している |
| 7. 子育て・教育環境が整っている | 15. 特に魅力を感じない |
| 8. 福祉環境が整っている | 16. その他
(具体的に：) |

問4 あなたは、これからも紀北町に住み続けたいと思いますか。 (1つに○)

1. 住み続けたい
2. どちらかといえば住み続けたい
3. どちらかといえば住みたくない
4. 住みたくない

※問4で「3.」または「4.」に○をつけた方にかがいます。

問4付問 その主な理由は何ですか。 (3つまで○)

- | | |
|--------------------------------|---------------------|
| 1. 自然環境が悪い | 9. 保健・医療環境が不十分 |
| 2. ごみ処理施設や生活排水処理、水道などの生活環境が不十分 | 10. 買い物の便が悪い |
| 3. 道路・交通の便が悪い | 11. 働く場が不十分 |
| 4. 情報通信網が不十分 | 12. 地場産業の活力が不十分 |
| 5. 消防・防災・防犯体制が不十分 | 13. 人情味や地域の連帯感が不十分 |
| 6. 文化・スポーツ環境が不十分 | 14. 行政サービスが不十分 |
| 7. 子育て・教育環境が不十分 | 15. ふるさとが他にある |
| 8. 福祉環境が不十分 | 16. その他
(具体的に：) |

まちの現状と今後の取り組みについて

問5 町の現状についての満足度と、今後の重要度をおたずねします。

① あなたは、以下の項目について、現在どの程度満足していますか。それぞれについてあてはまる番号1つに○をつけてください。

② あなたは、以下の項目について、今後どの程度重視していますか。それぞれについてあてはまる番号1つに○をつけてください。

項目	①満足度					→	②重要度				
	満足している	どちらかといえば満足している	どちらともいえない	どちらかといえば不満である	不満である		重視している	どちらかといえば重視している	どちらともいえない	どちらかといえば重視していない	重視していない
1 生活基盤分野											
①風水害や地震など自然災害からの安全性	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
②防犯、交通安全施設整備の状況	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
③騒音・振動・悪臭等の状況	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
④ごみの収集・処理の状況	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
⑤上水道の整備状況	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
⑥生活排水処理・合併処理槽設置補助の状況	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
⑦町営墓地と火葬場の管理・運営状況	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
⑧町営住宅の整備状況	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
⑨公園・緑地・広場の整備状況	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
⑩道路の整備状況	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
⑪公共交通の便利さ	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
⑫インターネットなど情報通信基盤の整備状況	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
⑬自然環境の豊かさ	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
2 保健・医療・福祉分野											
①保健・医療サービスや施設整備の状況	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
②福祉サービスや施設整備の状況	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
③保育・子育て環境	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
3 産業分野											
①日常の買い物の便利さ	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
②働きがいのある職場	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
③観光・交流についての取り組み・施設整備状況	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5

項目	①満足度						②重要度				
	満足している	どちらかといえば満足している	どちらともいえない	どちらかといえば不満である	不満である		重視している	どちらかといえば重視している	どちらともいえない	どちらかといえば重視していない	重視していない
4 教育・文化・スポーツ分野											
①生涯学習活動、芸術・文化活動や施設整備の状況	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
②スポーツ活動や施設整備の状況	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
③子どもの教育環境	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
5 住民参画・行財政分野											
①人権尊重の状況	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
②男女共同参画の状況	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
③人情味や地域の連帯感	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
④公民館や集会所などの整備状況	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
⑤行政情報や催事情報の提供状況	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5

問6 あなたは、今後のまちづくりにおいて、紀北町をどのような特色のあるまちにすべきだと考えますか。(2つまで○)

1. 地震・津波対策をはじめ、あらゆる災害に強い安全・安心なまち
2. 快適な住環境の整備を推進する快適住環境のまち
3. 自然の保護や環境の保全・創造を推進する環境保全のまち
4. 子育て環境や子どもの保育・教育環境が充実した子育て・教育のまち
5. 人にやさしい保健・医療・福祉の充実した健康・福祉のまち
6. 農業・林業・水産業を中心として発展する農林水産業のまち
7. 商業の振興や地場産業の育成、企業立地による商工業のまち
8. 地域資源を活用し、観光や交流事業を進める観光・交流のまち
9. 生涯学習活動や文化芸術・スポーツ活動が活発な生涯学習・文化のまち
10. 歴史的遺産を大切に、まちづくりに生かす歴史のまち
11. 町民と行政とが協力してまちづくりを行う住民参画・協働のまち
12. その他(具体的に: _____)

防災対策について

問7 あなたは、町の防災対策について、今後どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(2つまで○)

- | | |
|--------------------|---------------------|
| 1. 防災意識の啓発活動の充実 | 6. 災害用備蓄品の充実 |
| 2. 防災訓練・避難訓練の充実 | 7. 災害ボランティアの受入体制の充実 |
| 3. 地域における自主防災組織の育成 | 8. 災害時の情報連絡体制の充実 |
| 4. 避難行動要支援者対策の充実 | 9. 災害発生危険箇所の整備 |
| 5. 避難場所の整備充実と周知 | 10. その他(具体的に:) |

※避難行動要支援者：災害発生時の避難などに支援が必要な方。具体的には高齢者、障がい者、傷病者など。

定住対策について

問8 あなたは、若者の定住対策として、今後どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(2つまでに○)

- | |
|----------------------------------|
| 1. 住宅・宅地の整備など定住・移住しやすい住まいの確保 |
| 2. 結婚・出産・子育て支援など子どもを産み育てやすい環境づくり |
| 3. 福祉や医療の充実など安心して暮らせる環境づくり |
| 4. 企業誘致や産業振興による若者が働きたいと思う雇用の場の確保 |
| 5. 買い物などの日常生活の利便性向上 |
| 6. 防災や防犯体制の強化など安全に暮らせる環境づくり |
| 7. 子どもへの教育等を通じた地元愛等を育む取り組み |
| 8. その他(具体的に:) |

環境保全について

問9 紀北町では、豊かな自然を次世代につなぐため、平成30年に「自然と共生の町」宣言を行っています。あなたはこの宣言を知っていますか。

- | | |
|----------|-----------|
| 1. 知っていた | 2. 知らなかった |
|----------|-----------|

問10 あなたは、地域の環境保全に向けて、今後どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(2つまで○)

- | | |
|-----------------------|------------------------|
| 1. 環境教育・環境学習の推進 | 6. 海岸、河川などの水辺の保全 |
| 2. 環境情報の提供 | 7. 省エネルギーの推進、新エネルギーの導入 |
| 3. ごみの減量化・分別・リサイクルの推進 | 8. 町民・事業者・町の自主的な取り組み |
| 4. 安全で確実なごみ処理体制の構築 | 9. その他(具体的に:) |
| 5. 生活排水対策の充実 | |

地域福祉について

問11 あなたは、地域での福祉環境の充実に向けて、今後どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(2つまで○)

- | | |
|---------------------|---------------------------|
| 1. ボランティアや福祉団体の活動支援 | 7. 身近な移動手段の確保・充実 |
| 2. 地域での高齢者などへの見守り活動 | 8. 健康づくり活動の推進 |
| 3. 相談窓口の充実や相談機能の強化 | 9. 成年後見制度や虐待防止など権利擁護対策の推進 |
| 4. 制度の周知など情報提供体制の充実 | 10. その他(具体的に:) |
| 5. 高齢者や障がい者の地域参加の促進 | |
| 6. バリアフリーなまちづくりの推進 | |

※成年後見制度: 認知症、知的障がいなどの理由で判断能力の不十分な方の契約などの法律行為を支援する制度。

観光・交流について

問12 あなたは、町の観光・交流の活性化のために、今後どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(2つまで○)

- | | |
|------------------------------|-------------------------------|
| 1. 世界遺産熊野古道など地域の歴史を生かした観光の振興 | 6. スポーツ合宿の拡大・誘致 |
| 2. 海・山・川を生かした体験型観光の充実 | 7. 海・山・川を生かしたワーケーションができる環境の充実 |
| 3. 始神テラスや道の駅など観光・集客交流施設の充実 | 8. 地域ブランドの開発 |
| 4. 観光イベントの充実 | 9. 広域的な連携強化による観光ルートの充実 |
| 5. 観光PRの充実 | 10. その他(具体的に:) |

※ワーケーション: 「ワーク」(労働)と「バケーション」(休暇)を組み合わせた造語で、観光地やリゾート地でテレワークしながら、休暇をとる過ごし方。

教育について

問13 あなたは、学校教育の充実に向けて、今後どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(2つまで○)

- | |
|----------------------------|
| 1. 学力向上を図る質の高い教育の充実 |
| 2. 豊かな人間性や個性を育てる心の教育の充実 |
| 3. 高度情報化社会に対応できる情報教育環境の充実 |
| 4. 国際社会に対応できるALTによる英語学習の充実 |
| 5. 学校施設の安全性の確保 |
| 6. 学校規模の適正化 |
| 7. その他(具体的に:) |

コミュニティ活動、参画・協働について

問14 あなたの現在のコミュニティ活動（地域活動）・ボランティア活動への参加状況と、今後の参加意向についておたずねします。 (1つに○)

- | | |
|----------------------------|----------------|
| 1. 現在参加しており、今後も参加したい | -----> 問14付問②へ |
| 2. 現在参加していないが、今後は参加したい | |
| 3. 現在参加しているが、今後は参加するつもりはない | |
| 4. 現在参加しておらず、今後も参加するつもりはない | |

※問14で「1」または「2」(参加したい)に○をつけた方にうかがいます。

問14付問① あなたは、今後（今後とも）どのようなコミュニティ活動（地域活動）・ボランティア活動に参加したいと思いますか。 (3つまで○)

- | | |
|---------------------------|------------------------------|
| 1. 自治組織の活動 | 11. 高齢者や障がい者の手助けなど福祉に関する活動 |
| 2. 商工会などを通じた活動 | 12. 教育・文化・スポーツ活動の指導・運営に関する活動 |
| 3. いきいきクラブなどを通じた活動 | 13. 青少年の健全育成に関する活動 |
| 4. 自然保護や環境美化、リサイクル等に関する活動 | 14. 文化財や伝統行事の保存に関する活動 |
| 5. 緑化や花づくりに関する活動 | 15. 国内外との交流に関する活動 |
| 6. 自主防災や災害援助に関する活動 | 16. 来訪者への案内など観光に関する活動 |
| 7. 交通安全に関する活動 | 17. 募金や寄付、バザー等に関する活動 |
| 8. パトロールなど防犯に関する活動 | 18. 地域づくりやまちおこしに関する活動 |
| 9. 健康づくりに関する活動 | 19. 祭り・イベント等への参加活動 |
| 10. 子育て支援に関する活動 | 20. その他 |
| (具体的に：) | |

※問14で「3」または「4」(参加するつもりはない)に○をつけた方にうかがいます。

問14付問② コミュニティ活動（地域活動）・ボランティア活動に参加しない理由はどのようなことですか。 (2つまで○)

- | | |
|-----------------|---|
| 1. 活動に興味がない |) |
| 2. 参加する時間がない | |
| 3. 参加するための情報がない | |
| 4. 参加したい活動がない | |
| 5. その他 (具体的に：) | |

⑦あなた自身は、地域とのつながりがある方だと思いますか。

- | | |
|----------|-------------|
| 1. あると思う | 2. あまりないと思う |
|----------|-------------|

⑧あなた自身は、あなたは現在、どの程度幸福だと感じていますか。

- | | |
|----------------|------------------|
| 1. 幸福だと感じている | 4. あまり幸福だと感じていない |
| 2. やや幸福だと感じている | 5. 幸福だと感じていない |
| 3. どちらともいえない | 6. わからない |

⑨あなたは、「広報きほく」を読んでいますか。

- | | | |
|-------------|--------------|-------------|
| 1. いつも読んでいる | 2. ときどき読んでいる | 3. 読んだことがない |
|-------------|--------------|-------------|

⑩あなたは、町のホームページを見たことがありますか。

- | | |
|------------|------------|
| 1. 見たことがある | 2. 見たことがない |
|------------|------------|

⑪あなたは、「行政情報番組ふるさと紀北町（ZTV）」を見ていますか。

- | | | |
|------------|-------------|------------|
| 1. いつも見ている | 2. ときどき見ている | 3. 見たことがない |
|------------|-------------|------------|

まちのキャッチフレーズ及び自由意見について

- 今後のまちの姿を、簡単な標語やキャッチフレーズで表現するとしたら、どのようなものが考えられますか。お考えがありましたら、ご自由にご記入ください。

_____ <キャッチフレーズ> _____

--

- 最後に、あなたの生活で現在もしくは将来に向けて町の行政に望むことや、まちづくりに関するご意見・ご提案などがありましたら、ご自由にご記入ください。

_____ <自由意見> _____

ご協力ありがとうございました。

ご記入いただいた調査票は 10月30日（金） までに
同封の返信用封筒に入れて返送してください。

（切手は、不要です。）

2. 中学生アンケート調査票

紀北町の将来のまちづくりに向けたアンケート調査

みなさん、こんにちは。

紀北町では、新しいまちづくりに取り組むために、若いみなさんの意見を聞きたいと思い、町内の中学3年生を対象にアンケートをすることとしました。

未来の紀北町をどうつくるかを、みなさんと一緒に考えていきたいと思しますので、率直な意見を聞かせてください。

紀北町長 尾上 壽一

問1 あなたのことについて、①、②それぞれあてはまる番号を選んで1つに○をつけてください。

①あなたの性別	1. 男	2. 女	3. その他
③あなたの学校	1. 紀北中学校 2. 赤羽中学校	3. 潮南中学校 4. 三船中学校	

問2 あなたは、紀北町が好きですか。 (1つに○)

1. とても好きだ	→ 問2付問①へ
2. どちらかというと好きだ	
3. あまり好きではない	→ 次ページの問2付問②へ
4. 好きではない	

※問2で「1」または「2」に○をつけた方にうかがいます。

問2付問① あなたは、紀北町のどんなところが好きですか。 (3つまで○)

1. 自然が豊かだ	9. 文化・スポーツ活動が楽しめる
2. まちがきれいだ	10. 産業がさかんだ
3. 道路が整っていて、鉄道やバスが便利だ	11. 買い物しやすい
4. 災害や犯罪が少ない	12. 働く場所が多い
5. 病院が充実している	13. 人がやさしい
6. お年寄りや障がいのある人が住みやすい	14. まちに活気があり、元気な人が多い
7. 学校生活が充実している	15. その他()
8. 遊べる場所が多い	
好きな場所・ものは何かありますか(具体的に:)	

※問2で「3.」または「4.」に○をつけた人にうかがいます。

問2付問② 好きではない理由は何ですか。(3つまで○)

1. 自然が少ない	9. 文化・スポーツ活動が楽しめない
2. まちがきたない	10. 産業がさかんでない
3. 道路が整っていない、鉄道やバスが不便だ	11. 買い物がしにくい
4. 災害や犯罪が多い	12. 働く場所が少ない
5. 病院が少ない	13. 人がやさしくない
6. お年寄りや障害のある人が住みにくい	14. まちに活気がなく、元気な人が少ない
7. 学校生活が充実していない	15. その他()
8. 遊べる場所が少ない	

好きではない場所・ものは何かありますか(具体的に:)

問3 あなたは、今後、紀北町はどんなまちになってほしいと思いますか。

(2つまで○)

1. 災害に強い安全・安心なまち	8. 観光がさかんなまち
2. 住みやすく快適に暮らせるまち	9. 文化・スポーツ活動を楽しめるまち
3. 自然や環境にやさしいまち	10. 歴史を大切にすまち
4. 子どもの保育や教育が充実したまち	11. まちづくりにみんなが協力するまち
5. 健康づくりや福祉が充実したまち	12. 働きたいと思う職場があるまち
6. 農林水産業がさかんなまち	13. その他()
7. 商工業がさかんなまち	

問4 紀北町であなたが自慢できることは何ですか。なんでもかまいません。具体的に下の枠内に2つまで書いてください。

自慢 その1	自慢 その2

問5 あなたは、これから先、就職や進学で紀北町を離れたとしても、また紀北町に戻ってきたいと思いませんか。(1つに○)

1. そう思う	3. どちらかといえば思わない
2. どちらかといえばそう思う	4. 思わない

○ 紀北町の未来、これからのまちづくりに関するご意見があれば、自由に書いてみてください。

<自由意見>



三重県紀北町マスコットキャラクター

きーぼくん

ありがとうございました。

紀北町まちづくりに関するアンケート調査結果報告書

発行年月：令和3年3月

発行：紀北町

編集：紀北町企画課

〒519-3292

三重県北牟婁郡紀北町東長島 769 番地 1

電話：0597-46-3113 F A X：0597-47-5908
